3-209-635-**03**(1)



マルチチャンネル
インテグレートアンプ

TA-DA5300ES

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。　**http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル・・・・・・・・・・・・・・・・0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に**「306」＋「＃」**を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389　**受付時間** 月～金：9:00～20:00　土・日・祝日：9:00～17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

* 3 2 0 9 6 3 5 0 3 * (1)

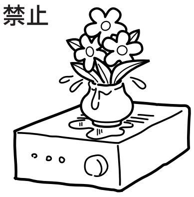
警告



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

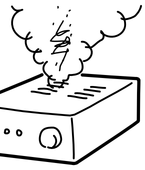
機器を水滴のかかる場所に置かないこと。及び水の入った物、花瓶などを機器の上に置かないでください。

禁止



機器は電源コンセントの近くでお使いください。異常な音やにおい、煙がでたときはすぐに電源コンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断してください。

指示

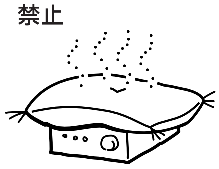


注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。

禁止



この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

本機はドルビー*デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx）Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS **（DTS-ES および DTS 96/24）デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** DTS, Inc からの実施権に基づき製造されています。
DTS、DTS-ES、Neo:6 および DTS 96/24 は DTS, Inc の商標です。

マルチチャンネルインテグレートアンプは、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMI ロゴ、及び High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

本製品に搭載されているフォントの書体「新ゴ R」は株式会社モリサワより提供を受けており、これらの名称は同社の商標であり、フォントの著作権も同社に帰属します。

「x.v.Color」はソニー株式会社の商標です。

目次

接続と準備

再生する

アンプを操作する

サラウンド効果を楽しむ

スピーカーのより細かい設定をする

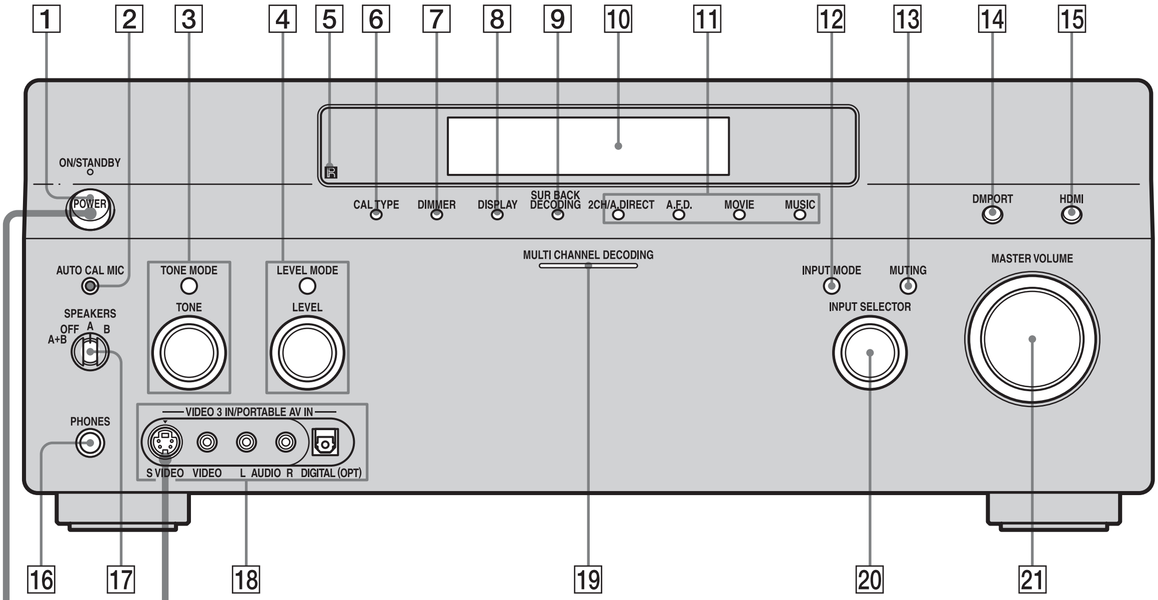
その他の操作をする

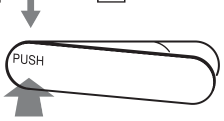
リモコンを設定して使う

その他

各部の名前と働き

本体前面





カバーをはずすには

PUSHを押します。
はずしたカバーは、お子様の手の届かないところに保管してください。

POWER（電源）ボタンの状態について

オフ
本機の電源は切れています（初期設定）。
POWER（電源）ボタンを押して電源を入れます。
リモコンで本機の電源を入れることはできません。

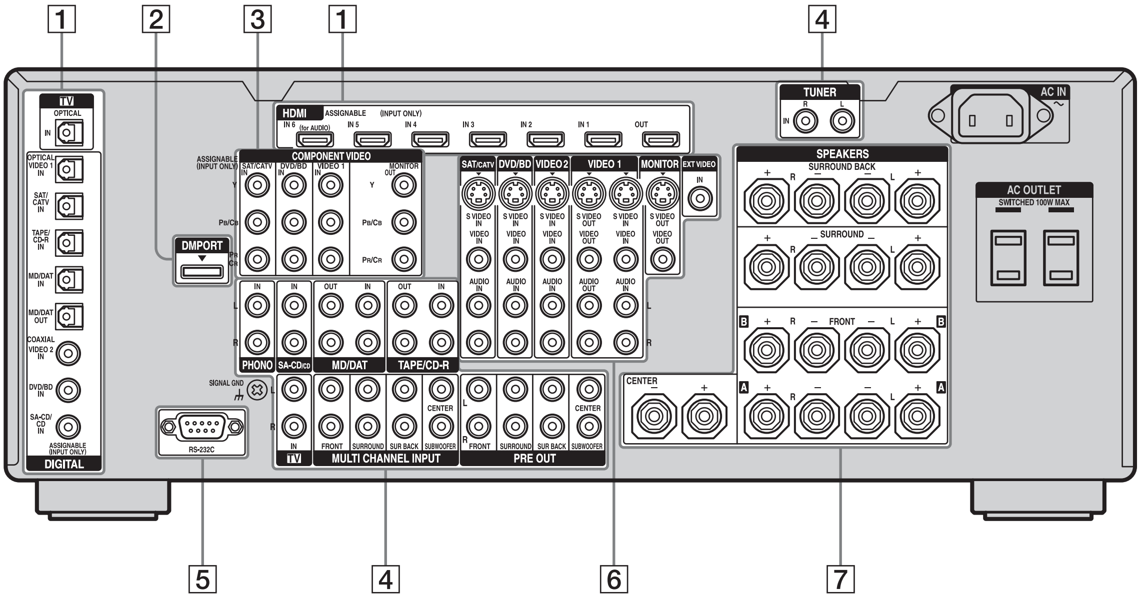
オン
電源が入っているときに、リモコンの I/⏻を押すと、スタンバイ状態になります。POWER（電源）ボタンを押すと、本機の電源は切れます。

名称	働き
1 POWER（電源）	本機（アンプ）の電源を入／切します。
2 AUTO CAL MIC端子	自動音場補正機能で使用するマイクをつなぎます（37ページ）。
3 TONE MODE TONEつまみ	フロント／センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカーから出力される高音域（TREBLE）と、低音域（BASS）を調節します。TONE MODEをくり返し押して、BASSまたはTREBLEを選びます。続けてTONEつまみを回してレベルを調節します。
4 LEVEL MODE LEVELつまみ	LEVEL MODEをくり返し押して、Levelメニューを選びます。続けてLEVELつまみを回してレベルを調節します（81ページ）。
5 リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
6 CAL TYPE	自動音場補正機能の補正タイプを設定します（40ページ）。
7 DIMMER	表示窓の明るさを切り換えます。
8 DISPLAY	表示窓に表示される情報を切り換えます。
9 SUR BACK DECODING	サラウンドバック音声デコードの設定を切り換えます（59ページ）。
10 表示窓	プログラムの名称や設定などの情報を表示します（76ページ）。
11 2CH/A.DIRECT A.F.D. MOVIE MUSIC	サウンドフィールドを選びます（53ページ）。
12 INPUT MODE	同じ機器をデジタルとアナログ両方の入力端子につないでいる場合に、入力信号の優先順位を設定します（72ページ）。
13 MUTING	消音機能を入／切します。（44ページ）。
14 DMPORT	デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器の映像／音声入力信号を選びます（17、70ページ）。
15 HDMI	HDMI入力につないでいる機器の映像／音声を選びます。
16 PHONES端子	ヘッドホンをつなぎます。
17 SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）	フロントスピーカーのOFF、A、B、A+Bを切り換えます（37ページ）。
18 VIDEO 3 IN/PORTABLE AV IN端子	ビデオカメラやテレビゲーム機などのポータブルオーディオ／映像機器をつなぎます。
19 MULTI CHANNEL DECODINGランプ	マルチチャンネル音声がデコードされているときに点灯します。

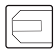
名称	働き
20 INPUT SELECTORつまみ	再生する入力ソースを選びます。
21 MASTER VOLUMEつまみ	本機（アンプ）の音量を調節します。

つづく

本体後面



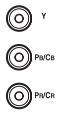
1 デジタル入出力部

	OPTICAL（光）デジタル音声入出力端子	DVDプレーヤー、スーパーオーディオCD/CDプレーヤーなどをつなぎます。COAXIALのほうがより高音質です（15、16、17、24、25ページ）。
	COAXIAL（同軸）デジタル音声入力端子	
	HDMI入出力端子*	DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー、チューナーなどをつなぎ、映像と音声をテレビやプロジェクターなどに出力します（15、21ページ）。

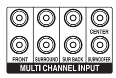
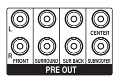
2 DMPORT（拡張用の端子）

		ソニー製のデジタルメディアポートアダプターにつなぎます （17ページ）。 デジタルメディアポートアダプターは、今後発売を予定しています。

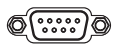
3 コンポーネント映像入出力部

	Y、P_B/C_B、P_R/C_R入出力端子*	DVDプレーヤー、テレビ、チューナーなどとつなぎ、より高画質な映像を楽しめます（15、24、25ページ）。

4 音声入出力部

	音声入出力端子	カセットデッキ、MDデッキなどをつなぎます（15、17、19、20ページ）。
	マルチチャンネル入力端子	7.1チャンネルや5.1チャンネルのアナログ音声出力端子を持っているスーパーオーディオCDプレーヤーやDVDプレーヤーをつなぎます（16、19ページ）。
	PRE OUT（プリアウト）出力端子	外部のパワーアンプなどとつなぎます。

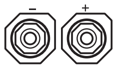
5 RS-232C端子

		保守、サービス用です。

6 映像と音声の入出力部

	音声入出力端子	ビデオデッキ、DVDプレーヤーなどの映像と音声をつなぎます（15、24、25、26ページ）。
	映像入出力端子*	
	S映像入出力端子*	
	EXT VIDEO IN端子	PIP（Picture In Picture）画面を使いたいときに映像機器をつなぎます。

7 スピーカー出力部

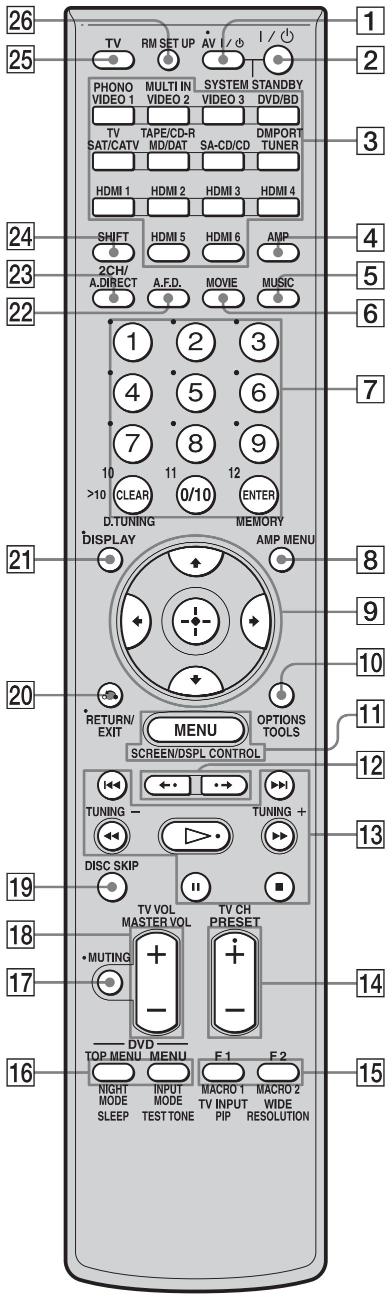
	スピーカーをつなぎます（14ページ）。

＊お手持ちのテレビを MONITOR VIDEO OUT 端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます（15 ページ）。また、GUI（Graphical User Interface）を使って、アンプメニュー操作ができます（32 ページ）。

リモコン

付属のリモコン（RM-AAL010）を使って、本機の操作ができます。また、リモコンに登録したソニー製機器を操作できます（87ページ）。

リモコン（RM-AAL010）



	リモコンのボタン	機能
1	AV I/⏻（電源オン／スタンバイ）	リモコンに登録されている機器の電源を入／切します（87ページ）。I/⏻（2）と同時に押すと、本体と、他のソニー製オーディオ／映像機器の電源を切ります（SYSTEM STANDBY）。
2	I/⏻（電源オン／スタンバイ）	本体の電源を入／切します。すべての機器の電源を切るときは、I/⏻とAV I/⏻（1）を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。
3	入力切り換え用ボタン	使用する機器を選びます。ピンク色でボタン名が表記されているボタンは、SHIFT（24）を押してから押します。 入力切り換え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。 工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるように設定されています（44ページ）。リモコンに登録すると、他社製の機器を操作することもできます。詳しくは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（87ページ）をご覧ください。
4	AMP	本機のリモコン操作を有効にします（32ページ）。
5	MUSIC	サウンドフィールドを選びます（53ページ）。
6	MOVIE	サウンドフィールドを選びます（53ページ）。

ご注意

- 機能の説明は、例としてあげています。お使いの機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されているとおりに動かない場合があります。
- AV I/⏻（1）の機能は、入力切り換え用のボタン（3）を押すたびに自動的に切り換わります。

リモコンのボタン		機能
7	数字ボタン	CDプレーヤーやDVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー、MDデッキのトラックを選びます。トラック番号10を選ぶときは、0/10を押します。 また、ビデオデッキや衛星放送チューナーのチャンネルを選びます。テレビのチャンネルを選ぶときは、TV（25）を押したあとに、数字ボタンを押します。 FM/AMチューナーのプリセット番号や、周波数の入力ができます。
	ENTER	数字ボタンでチャンネルやディスク、トラックを選んだあとに、押して決定します。
	MEMORY	TUNER（3）を選んでいるときに使います。プリセット操作に使います。
	CLEAR	数字ボタンを間違えて押したときに、取り消すことができます。 また、衛星放送チューナーやDVDプレーヤーを連続再生などに戻します。
	D.TUNING	放送局を手動受信するモードにします。
	> 10	ビデオデッキ、衛星放送チューナー、CDプレーヤー、MDデッキの11以上の番号のトラックを選びます。また、デジタルCATVチューナーのチャンネルを選びます。
8	AMP MENU	本機を操作するためのメニューを表示します。
9	⊕ ↑/↓/←/→	↑/↓/←/→を押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

リモコンのボタン		機能
10	OPTIONS	本機やDVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーのオプションメニューを表示、選択します。
	TOOLS	DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダーなどのオプションメニューを表示、選択します。
11	MENU	音声／映像機器を操作するためのメニューを表示します。
	SCREEN/DSPL CONTROL	SHIFT（24）を押してからMENUを押して、メニューの表示モードをSCREEN（TV画面）またはDISPLAY（表示窓）に切り換えます。
12	←·/·→	アルバムを選びます。
13	◀◀/▶▶[a)] ■[a)] ❚❚[a)] ▷[a) b)] ⏮/⏭[a)]	DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、MDデッキ、カセットデッキ、デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器などを操作します。
14	PRESET +[b)]/– TV CH +/–	TV（25）を押したあとはテレビのチャンネルが切り換わります。入力切り換え用ボタン（3）で選んでいる機器の、チャンネルなどの切り換えができます。詳しくは、「本機のリモコンで他機を操作する」（86ページ）をご覧ください。

つづく

リモコンのボタン	機能
[15] F1/F2	ハードディスクレコーダーやDVD/VHSコンボプレーヤーを選んでいるときに、F1またはF2を押して操作モードを切り換えます。 • ハードディスクレコーダー F1：HDD F2：DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー • DVD/VHSコンボプレーヤー F1：DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー F2：VHS
MACRO1、MACRO2	AMP（[4]）を押したあとMACRO1またはMACRO2を押してマクロ機能を設定または操作します（90ページ）。
TV/INPUT	TV（[25]）を押したあとTV/INPUTを押して、入力信号を選びます（テレビ入力またはビデオ入力）。
WIDE	TV（[25]）を押したあとWIDEをくり返し押して、ワイド画面モードを選びます。
PIP	SHIFT（[24]）を押したあとPIPを押して、子画面（PIP（Picture In Picture））を表示します。PIPをもう一度押すと、子画面の表示を解除できます。子画面にはEXT VIDEO IN端子につないだ機器の映像が表示されます。また、⊕（[9]）を押すと主画面と子画面の映像が入れ換わります。↑/↓（[9]）で子画面の大きさを拡大／縮小、←/→（[9]）で子画面の位置を移動できます。
RESOLUTION	SHIFT（[24]）を押したあとRESOLUTIONをくり返し押して、HDMI OUT端子とCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子から出力される映像の解像度を切り換えます（70ページ）。
[16] DVD/TOP MENU、MENU	DVDプレーヤーやテレビのメニューやガイドをテレビ画面に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕を使ってメニュー操作を行います（86ページ）。
NIGHT MODE	AMP（[4]）を押したあとNIGHT MODEを押して、NIGHT MODE機能を有効にします（61ページ）。
INPUT MODE	同じ機器をデジタル端子とアナログ端子の両方につないでいるときに、AMP（[4]）を押したあとINPUT MODEを押してインプットモードを選びます（72ページ）。
SLEEP	SHIFT（[24]）を押したあとSLEEPを押して、スリープタイマーを有効にし、本機の電源が自動的に切れるまでの時間を設定します（78ページ）。
TEST TONE	SHIFT（[24]）を押したあとTEST TONEを押すと、本機につないだスピーカーからテストトーンが出力されます。
[17] MUTING	一時的に消音するときに押します。消音機能を解除する場合は再度MUTINGを押します。
[18] MASTER VOL +/–	すべてのスピーカーの音量を同時に調節します（44ページ）。
TV VOL +/–	TV（[25]）を押したあとTV VOL +/–を押して、テレビの音量を調節します。
[19] DISC SKIP	マルチディスクチェンジャーを使っているときに、ディスクを選びます。
[20] RETURN/EXIT ↩	ビデオデッキやDVDプレーヤー、衛星放送チューナーのメニューやガイドがテレビ画面に表示されている場合、前のメニューに戻るときやメニュー画面を解除するときに押します。

ご注意

PIP（[15]）を使って子画面を表示しているとき、HDMI 映像信号は出力されません。

リモコンのボタン	機能
21 DISPLAY	表示窓やビデオデッキ、衛星放送チューナー、CDプレーヤー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー、MDデッキのテレビ画面に表示される情報を切り換えます。
22 A.F.D.	サウンドフィールドを選びます（55ページ）。
23 2CH/A.DIRECT	2チャンネルのステレオ音声で聞くことができます。または選んだ入力の音声を、調整を加えないアナログの信号に切り換えます（85ページ）。
24 SHIFT	押してボタンを点灯させると、ピンクで印字されたボタンの操作が有効になります。
25 TV	テレビの操作を有効にします。
26 RM SET UP	押すと、リモコンの設定ができます。

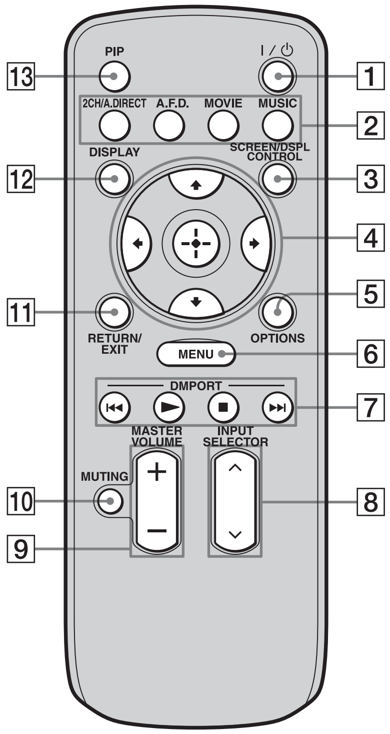
[a] 各機器を操作できるその他のボタンについては、86 ページの表をご覧ください。
[b] ▻、PRESET + ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

ご注意
DISPLAY（21）を使うとき、スクリーンモードになっていると、表示窓の情報は切り換えられません。

つづく

簡単リモコン（RM-AAU016）

本機の操作専用のリモコンです。主な機能をシンプルな操作で使うことができます。



リモコンのボタン	機能
1 I/⏻（電源オン／スタンバイ）	本体の電源を入／切します。
2 2CH/A.DIRECT	サウンドフィールドを選びます（53ページ）
A.F.D.	
MOVIE	
MUSIC	
3 SCREEN/DSPL CONTROL	メニューの表示モードをSCREEN（TV画面）またはDSPL（表示窓）に切り換えます。
4 ⊕ ↑/↓/←/→	SCREEN/DSPL CONTROL（3）を押したあと、↑/↓/←/→で項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
5 OPTIONS	オプションメニューを表示、選択します。
6 MENU	本機のメニューを表示します。
7 DMPORT	デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器の操作に使うボタンです（44ページ）。
►	再生します。
■	停止します。
⏮/⏭	曲をスキップします。
8 INPUT SELECTOR	再生する入力ソースを選びます。
9 MASTER VOLUME +/–	音量を調節します。
10 MUTING	一時的に消音するときに押します。消音機能を解除する場合は再度MUTINGを押します。
11 RETURN/EXIT	前のメニューに戻るときやメニュー画面を解除するときに押します。
12 DISPLAY	表示窓の情報を切り換えるときに押します。
13 PIP	子画面（PIP（Picture In Picture））を表示します。PIPをもう一度押すと、子画面の表示を解除できます。子画面にはEXT VIDEO IN端子につないだ機器の映像が表示されます。また、⊕（4）を押すと主画面と子画面の映像が入れ換わります。↑/↓（4）で子画面の大きさを拡大／縮小、←/→（4）で子画面の位置を移動できます。

ご注意

- DISPLAY（12）を使うとき、スクリーンモードになっていると、表示窓の情報は切り換えられません。
- PIP（13）を使って子画面を表示しているとき、HDMI 映像信号は出力されません。

準備1：スピーカーを設置する

本機では最大7.1チャンネル（スピーカー 7本とサブウーファー 1本）のスピーカーシステムを構成できます。

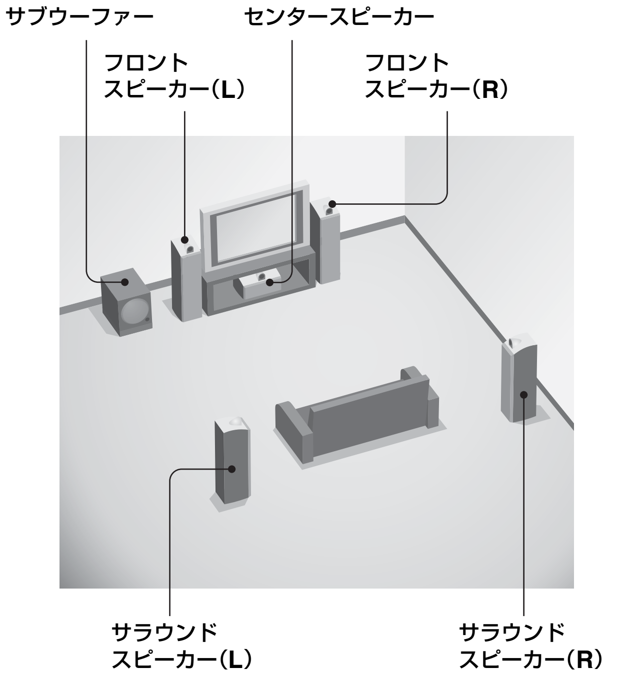
5.1/7.1チャンネルで楽しむ

映画館のようなマルチチャンネル音声を充分にお楽しみいただくには、

- 5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）
- サブウーファー

が必要です（5.1チャンネル）。

5.1チャンネルの設置例



5.1チャンネルにさらに

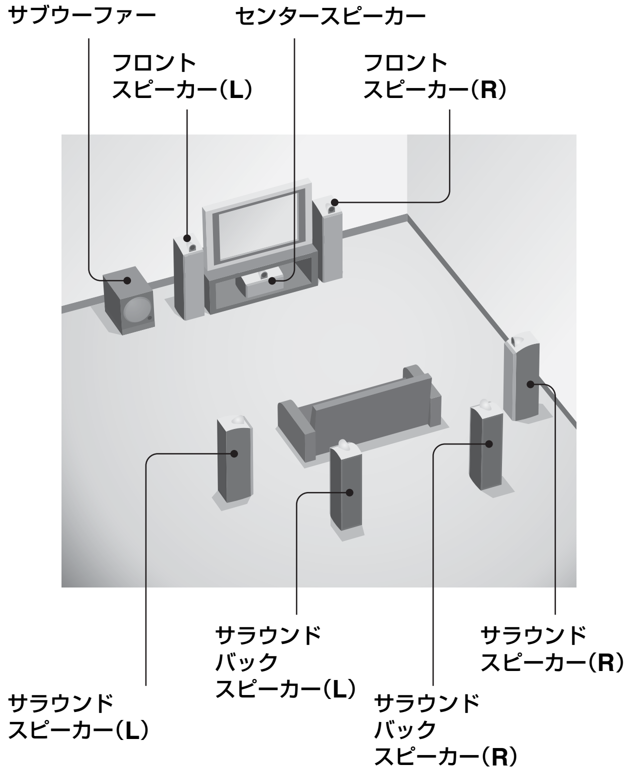
- サラウンドバックスピーカー：1本（6.1チャンネル）

または

- サラウンドバックスピーカー：2本（7.1チャンネル）

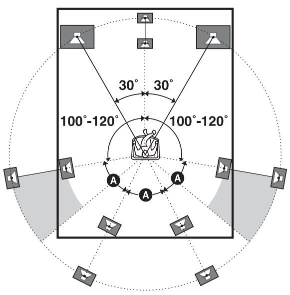
を追加することによって、サラウンドEXフォーマットのDVDソフトを忠実に再現できるようになります（「サラウンド効果にサラウンドバック機能を働かせる」（59ページ））。

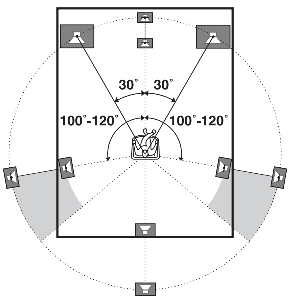
7.1チャンネルの設置例



ちょっと一言

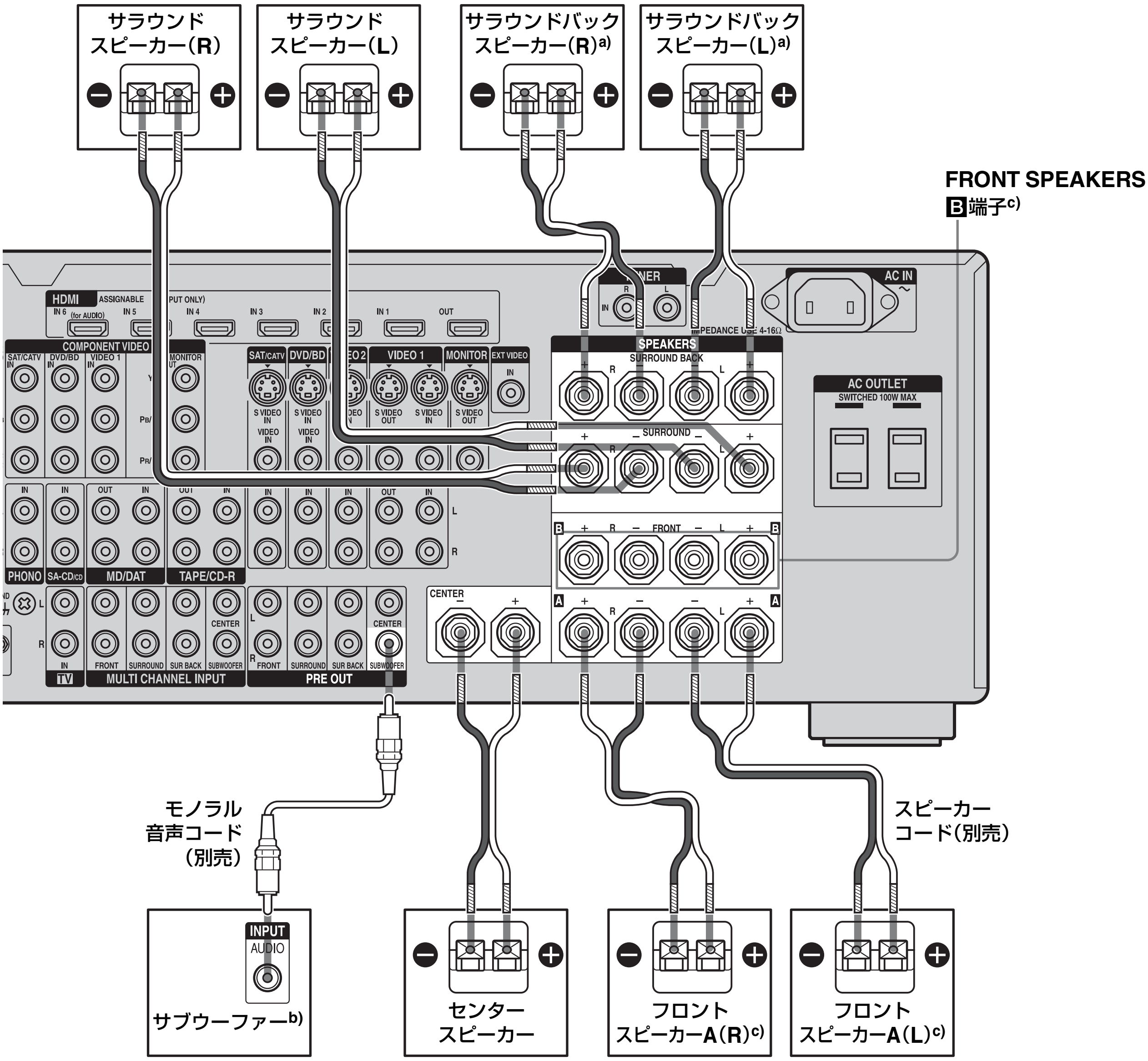
- Ⓐ の角度は同じにします。





- 6.1 チャンネルのスピーカーシステムを構成する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。
- サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

準備 2：スピーカーを接続する



a) サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SURROUND BACK SPEAKERS L 端子につないでください。

b) オートスタンバイ機能があるサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、サブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイモードになり、音が出なくなることがあります。

c) 追加のフロントスピーカーを使用するときは、FRONT SPEAKERS B 端子につないでください。使用するフロントスピーカーを本機前面の SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）で選べます（37 ページ）。

ご注意

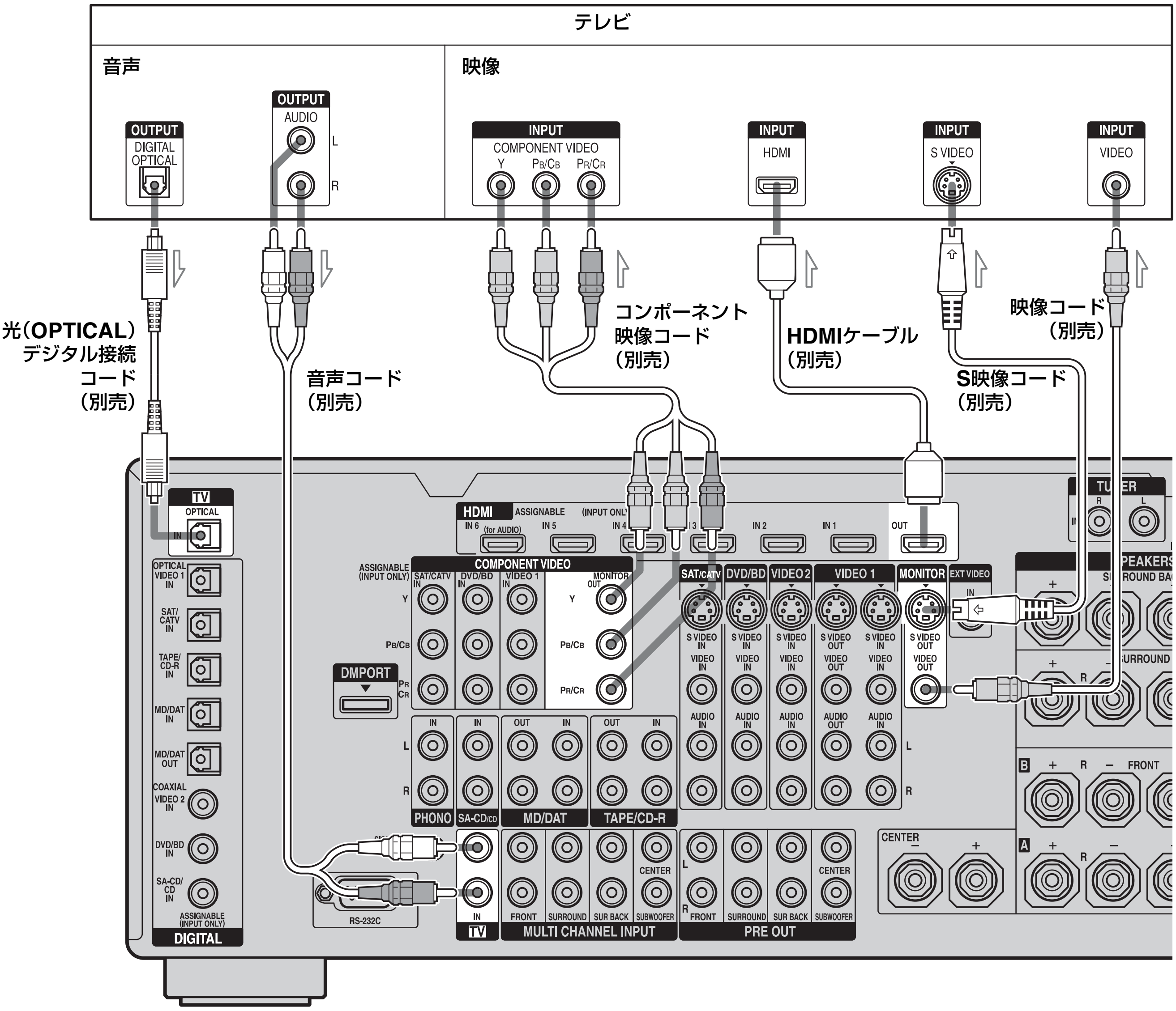
- すべて 8Ω 以上のスピーカーをつないだ場合は、Speaker メニューの Impedance を「8Ω」に設定してください。それ以外の場合は「4Ω」に設定してください。詳しくは「準備 7：スピーカーを設定する」（35 ページ）をご覧ください。
- 電源コードをつなぐ前に、各スピーカー端子間でコードの金属線が接触していないことを確認してください。

ちょっと一言

別のパワーアンプにつないでいるスピーカーに出力するためには、PRE OUT 端子を使用してください。SPEAKERS 端子と PRE OUT 端子の両方から同じ信号が出力されます。例えば、フロントスピーカーだけを別のアンプにつなぎたい場合は、そのアンプを PRE OUT FRONT L、R 端子につなぎます。

準備 3:テレビを接続する

お手持ちのテレビをMONITOR VIDDEO OUT端子に接続すると、選んだ入力の映像を見ることができます。GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作できます。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。



ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- MONITOR VIDEO OUT 端子にはテレビやプロジェクターなどの映像機器をつないでください。録画機器をつないでも、録画できないことがあります。
- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- テレビのアンテナのつなぎかたによってはテレビの映像が乱れることがあります。この場合、アンテナを本機から離して設置してください。

ちょっと一言

- 本機は映像信号の変換機能を持っています。詳しくは、「映像の変換機能のご注意」（28 ページ）をご覧ください。
- テレビの音声出力端子を本機の TV IN 端子につなぐと、テレビの音声を本機につないだスピーカーで聞けます。テレビの音声出力端子が可変／固定切り換えの場合には、固定にします。別売の BS チューナーなどをつなぐ場合は、音声・映像端子ともに本機につないでください（25 ページ）。
- GUI メニューがテレビ画面に表示された状態で 15 分以上操作がおこなわれない場合は、スクリーンセーバーが起動します。

準備 4a：オーディオ機器を接続する

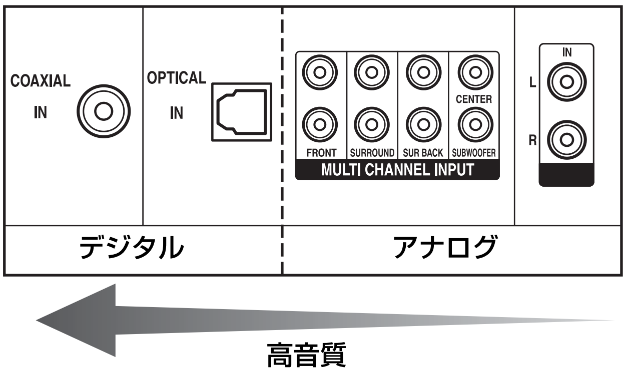
お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の接続機器一覧で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器		ページ
スーパーオーディオCD/CDプレーヤー	デジタル音声出力端子付き	17ページ
	マルチチャンネル音声出力端子付き	19ページ
	アナログ音声出力端子付き	20ページ
MDデッキ	デジタル音声出力端子付き	17ページ
	アナログ音声出力端子付き	20ページ
カセットデッキ、レコードプレーヤー、チューナー		20ページ

接続する音声端子について

音声信号は下の図のような順によい音質でお楽しみいただけます。お手持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。

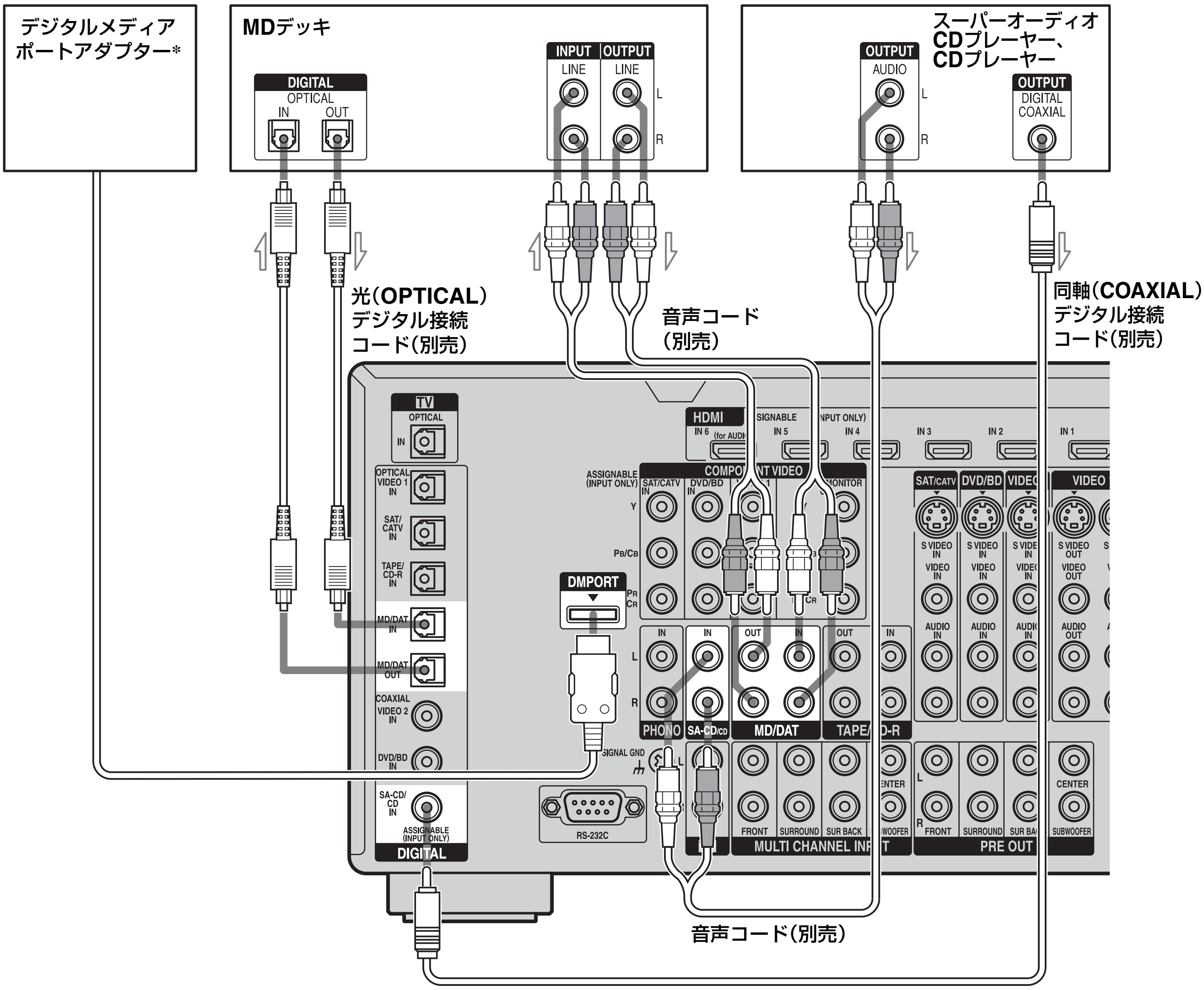


ご注意
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言
本機の DIGITAL 音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

デジタル音声出入力端子のある機器

スーパーオーディオCD/CDプレーヤーやMDデッキ、デジタルメディアポートアダプターの接続例です。



＊デジタルメディアポートアダプターは、今後発売を予定しています。

ご注意
- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。
- デジタルメディアポートアダプターをはずすときは、以下に注意してください。
  - COMPONENT VIDEO 端子にコードをつないでいるときは、コードを外してからデジタルメディアポートアダプターをはずしてください。
  - コネクタの側面を押しながらはずしてください。コネクタはロックで固定されています。

ちょっと一言
LD プレーヤーの DOLBY DIGITAL RF OUT 端子を本機のデジタル入力端子に直接つなぐことはできません。RF 復調器が必要です。

つづく

スーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生するときのご注意

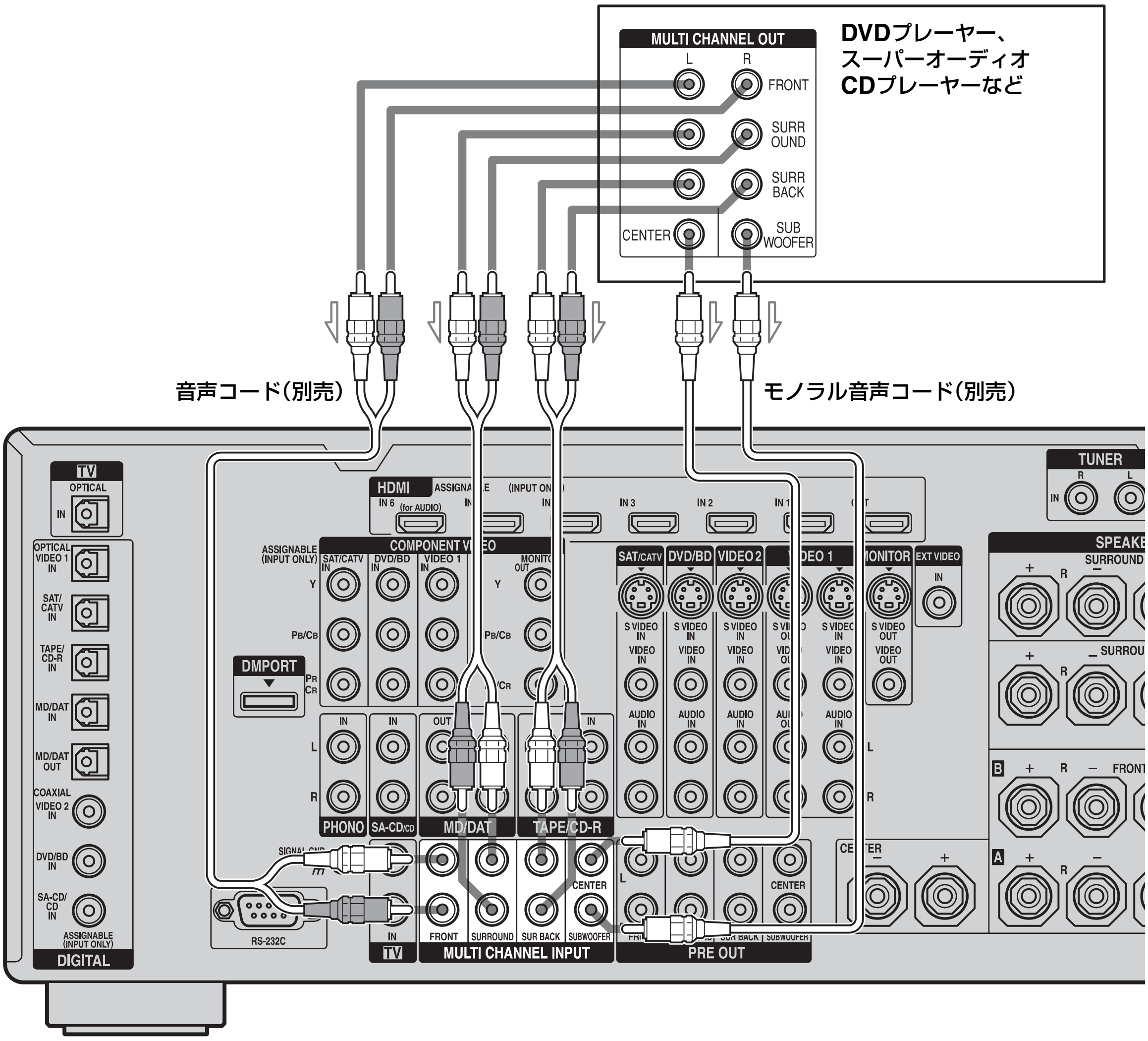
- 本機のCOAXIAL SA-CD/CD IN端子につないだスーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生しても、音声は出力されません。スーパーオーディオCDのディスクを再生するには、本機のMULTI CHANNEL INPUTまたはSA-CD/CD IN端子につないでください。スーパーオーディオCDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- スーパーオーディオCDのデジタル音声はデジタル録音できません。

複数のデジタル機器を同時に接続したいときに、空いている入力端子がない場合は

「他の入力からの音声／映像を楽しむ」（73ページ）をご覧ください。

マルチチャンネル音声出力端子のある機器

お手持ちのDVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなどにマルチチャンネル音声出力端子がある場合は、本機のMULTI CHANNEL INPUT端子につないで、マルチチャンネル音声を楽しむことができます。外部のマルチチャンネルデコーダーとつなぐためにマルチチャンネル入力端子を使用することもできます。



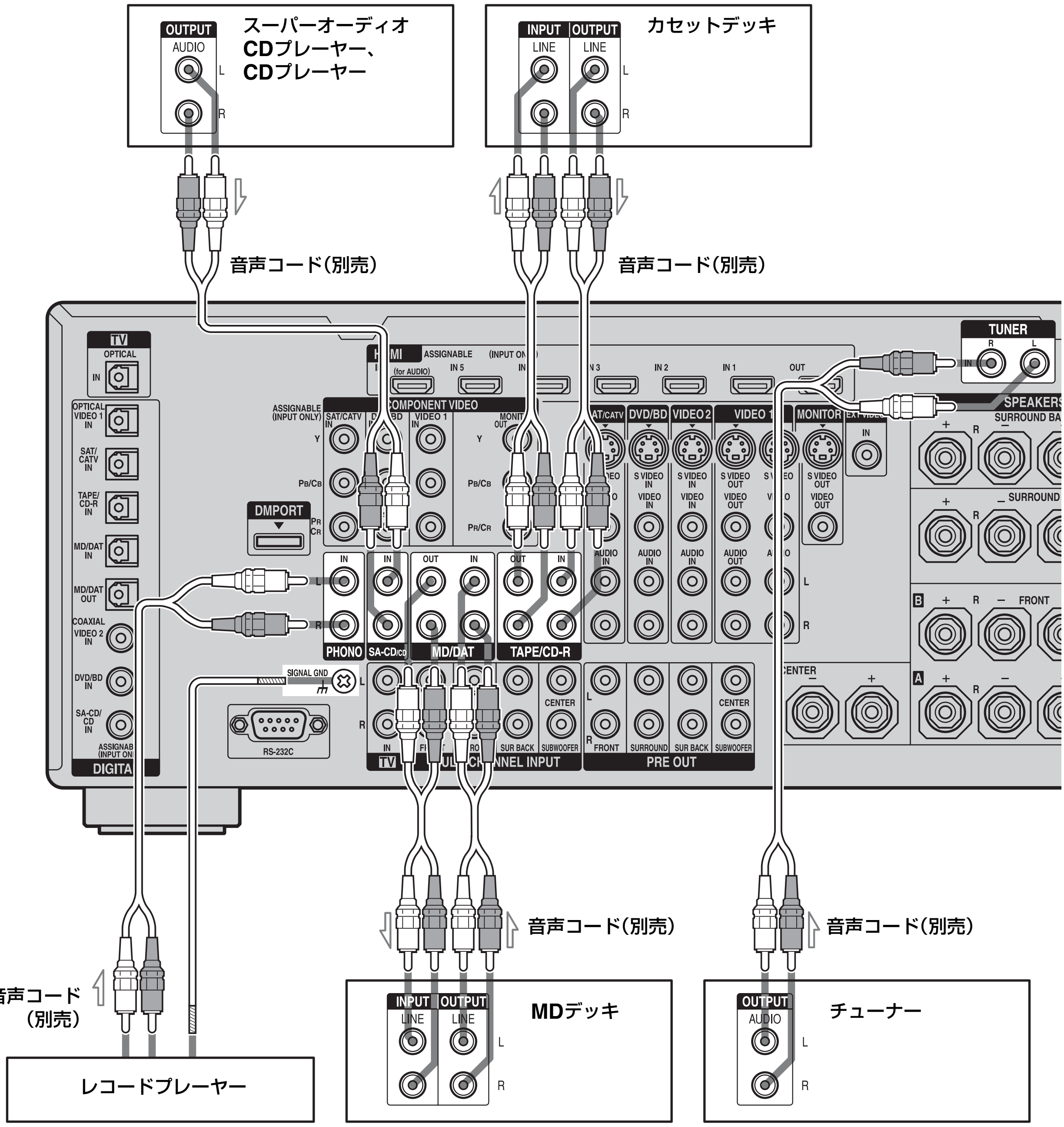
ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- DVD プレーヤーとスーパーオーディオ CD プレーヤーには SURROUND BACK 端子はありません。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された音声信号は、音声出力端子からは出力されません。音声信号は録音されません。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子の SURROUND 端子と SUR BACK 端子に入力された信号はダウンミックスできません。

つづく

アナログ音声出力端子のある機器

カセットデッキやレコードプレーヤーなどアナログ端子のある機器の接続例です。



ご注意

- お手持ちのレコードプレーヤーにアース線が付いているときは、ハム音を防ぐために、アース線を本機の ⏚ SIGNAL GND 端子につないでください。
- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- 本機の PHONO 入力は MM カートリッジに対応しています。

準備 4b：映像機器を接続する

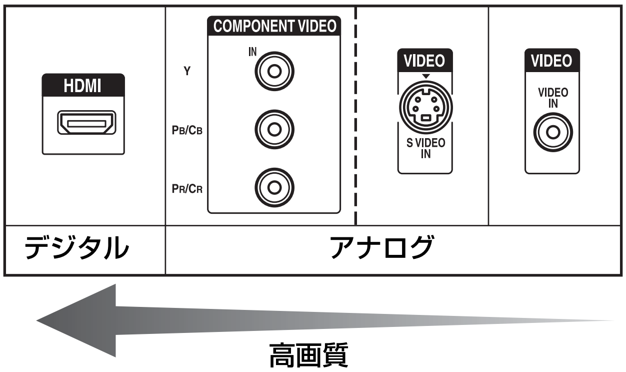
お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の接続機器一覧で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器	ページ
テレビ	15ページ
HDMI端子のある機器	21ページ
DVDプレーヤー、 ブルーレイディスクレコーダー	24ページ
BSデジタル／デジタルCSチューナー、 ケーブルテレビ	25ページ
DVDレコーダー、ビデオデッキ	26ページ
ビデオカメラ、テレビゲームなど	26ページ

接続する映像端子について

映像信号は次の図のような順によい画質でお楽しみいただけます。お手持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。



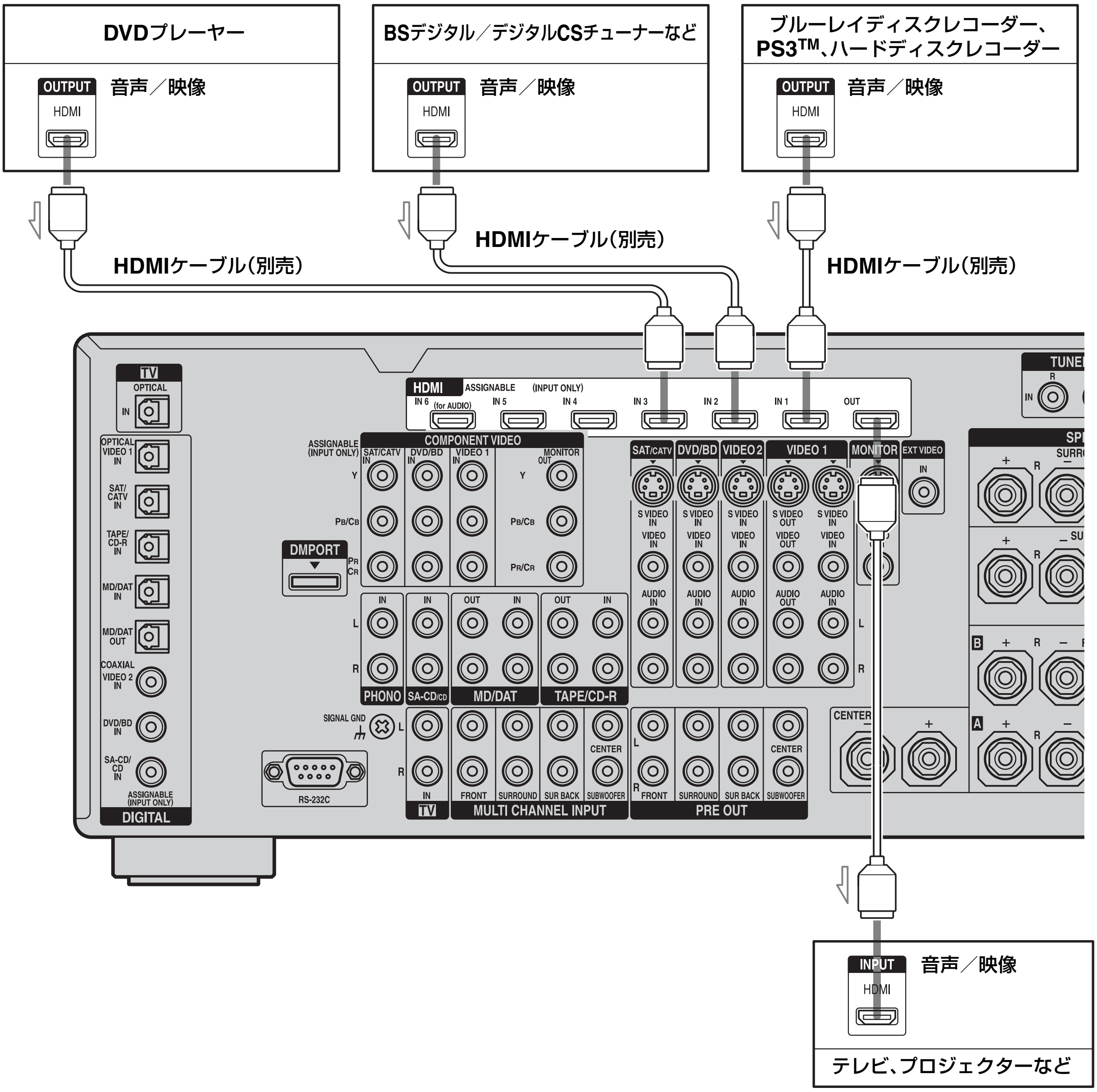
HDMI端子のある機器を接続する

HDMIとはHigh-Definition Multimedia Interfaceの略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。

HDMI接続でできること

- 本機ではHDMIで転送されたデジタル音声信号をスピーカー端子とPRE OUTから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、DSD、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。
- DSD信号や、DSDをリニアPCMに変換してHDMI出力できるプレーヤーは、HDMIでつなぐことができます。
- 本機は、リニアPCM（サンプリング周波数192 kHz以下）で、8チャンネルまでのデジタル音声信号を、HDMIを使った伝送で受信することができます。
- 映像端子、S映像端子、コンポーネント映像端子に入力したアナログ映像信号を、HDMIに変換して出力できます。映像を変換したとき、音声信号はHDMI OUT端子から出力されません。
- HDMI Version 1.2で拡張されたDSD（Super Audio CD）伝送に対応しています。
- HDMI Version 1.3で拡張されたHigh Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、DeepColor、xvYCC伝送に対応しています。
- 本機はHDMI CONTROL機能に対応しています。詳しくは付属の「HDMIコントロールガイド」をご覧ください。
- HDMI IN6端子は、音質に配慮した入力端子です。さらに高音質でお聞きになりたい場合は、IN6端子をお使いください。
  IN6端子はHDMI IN1～5端子と同じようにお使いいただけます。

つづく



DVDプレーヤー
OUTPUT
HDMI
音声／映像
BSデジタル／デジタルCSチューナーなど
OUTPUT
HDMI
音声／映像
ブルーレイディスクレコーダー、PS3TM、ハードディスクレコーダー
OUTPUT
HDMI
音声／映像
HDMIケーブル（別売）
HDMIケーブル（別売）
HDMIケーブル（別売）
HDMI
ASSIGNABLE (INPUT ONLY)
IN 6 (for AUDIO)
IN 5
IN 4
IN 3
IN 2
IN 1
OUT
COMPONENT VIDEO
DMPORT
MONITOR
EXT VIDEO
PHONO
SA-CD/CD
MD/DAT
TAPE/CD-R
MULTI CHANNEL INPUT
PRE OUT
DIGITAL
RS-232C
INPUT
HDMI
音声／映像
テレビ、プロジェクターなど

接続ケーブルについて

- HDMI Licensing LLCで認証されたHDMIロゴ付きのケーブルをお使いください。
- ソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMI接続で解像度が1125p（1080p）の映像やDeepColorの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応（HDMI Version 1.3a、カテゴリー 2）のケーブルを推奨します。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声が正しく出力されない場合は、他の種類の音声コードやデジタル接続コードでつなぎ、「外部入力」のOptionメニューの「Input Assign」の設定を行ってください。

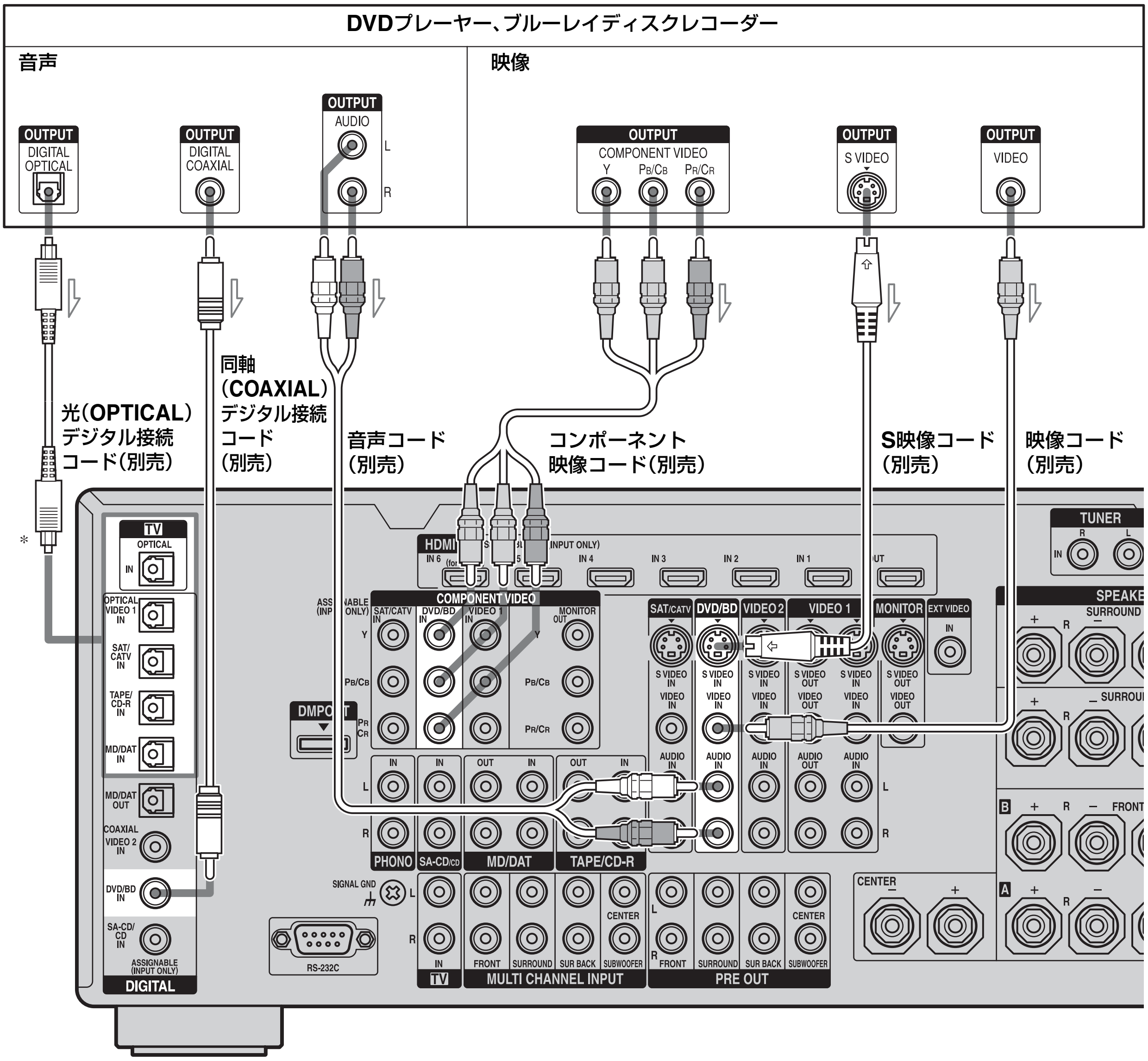
HDMI端子の接続のご注意

- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI IN端子に入力された音声信号はスピーカー出力、HDMI OUT端子、PRE OUT端子から出力することができます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN端子に入力された映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。VIDEO OUT端子、S VIDEO OUT端子とMONITOR OUT端子からは出力されません。
- 本機のメニューを表示している間は、HDMI入力の音声と映像は、HDMI OUT端子から出力されません。
- テレビのスピーカーから音声を出すときは、HDMIメニューの「HDMI Audio」を「TV+AMP」に設定してください。「AMP」に設定すると、音声はテレビのスピーカーから出力されません。
- 再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音がでないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力端子からの映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- 本機につないだ機器について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、DSD、マルチチャンネルリニアPCMはHDMI接続でのみ楽しめます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）を楽しむには、プレーヤーの映像解像度を720p/1080i以上に設定してください。
- DSD、マルチチャンネルリニアPCMを楽しむには、プレーヤーの映像解像度の設定が必要な場合があります。プレーヤーの取扱説明書をご確認ください。
- 各HDMI機器は、表記されているHDMIのVersionで定義されている機能をすべて包括しているものではありません。例えばVersion 1.3a対応機器がすべてDeepColorに対応しているわけではありません。

つづく

DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーを接続する

DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの接続例です。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。



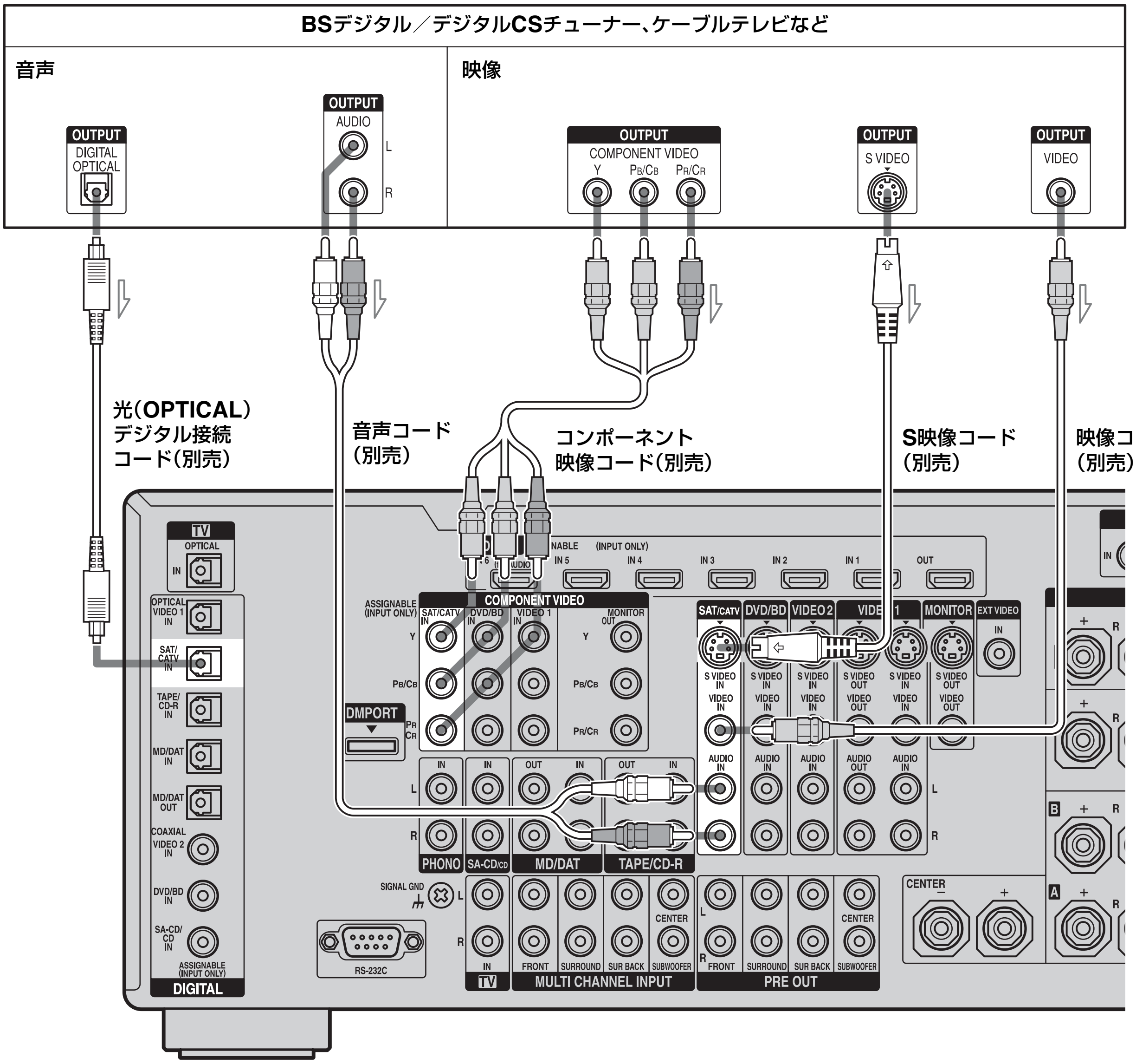
＊OPTICAL 端子のある機器をつなぐときは、外部入力メニューの「Input Assign」を設定してください。

ご注意

- マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

BSデジタル／デジタルCSチューナー、ケーブルテレビを接続する

BSデジタル／デジタルCSチューナー、ケーブルテレビの接続例です。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。

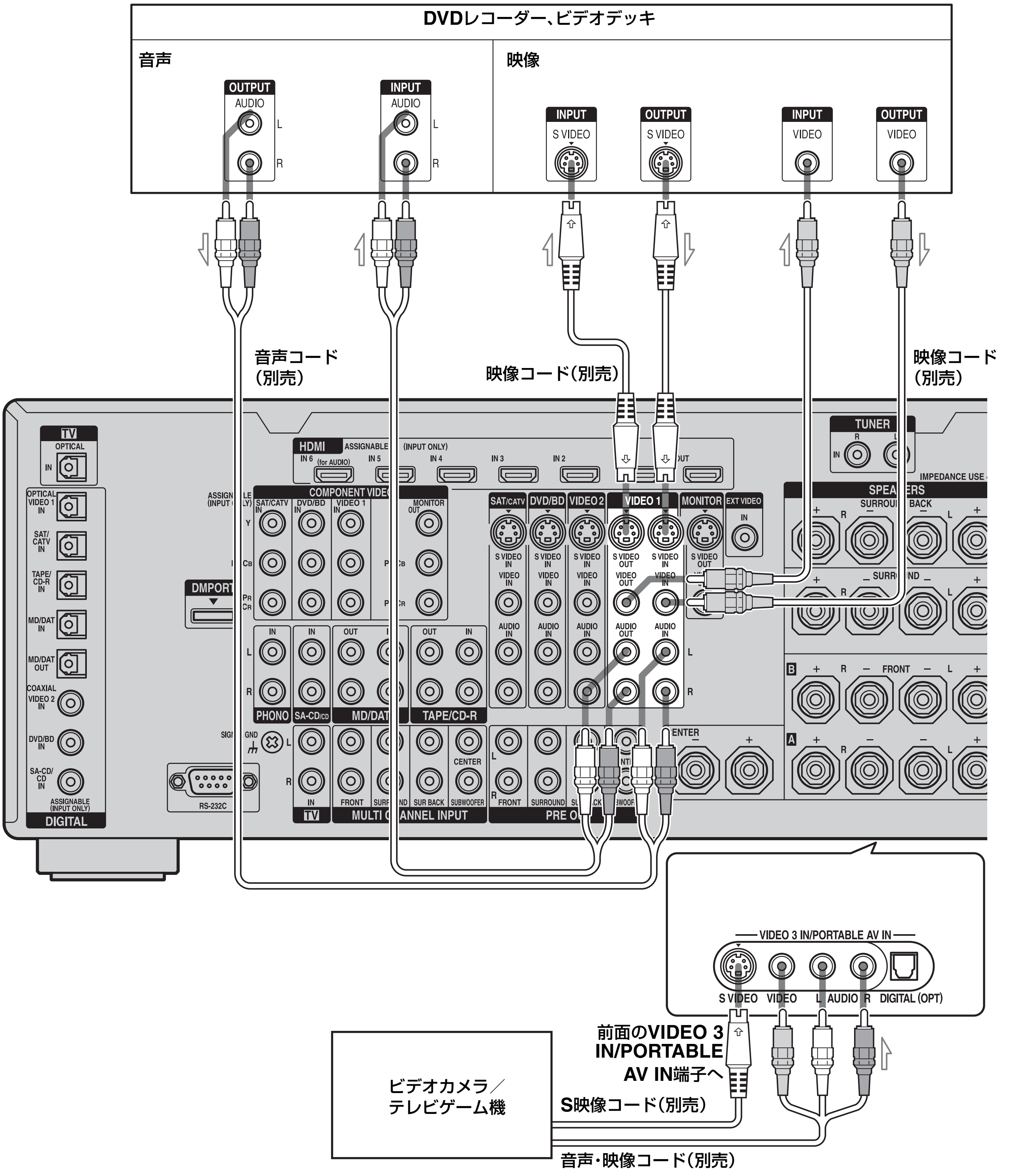


ご注意
ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

つづく

アナログ映像／音声端子のある機器を接続する

DVDレコーダーやビデオデッキなどアナログ端子のある機器の接続例です。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像をつないでください。



ご注意
ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

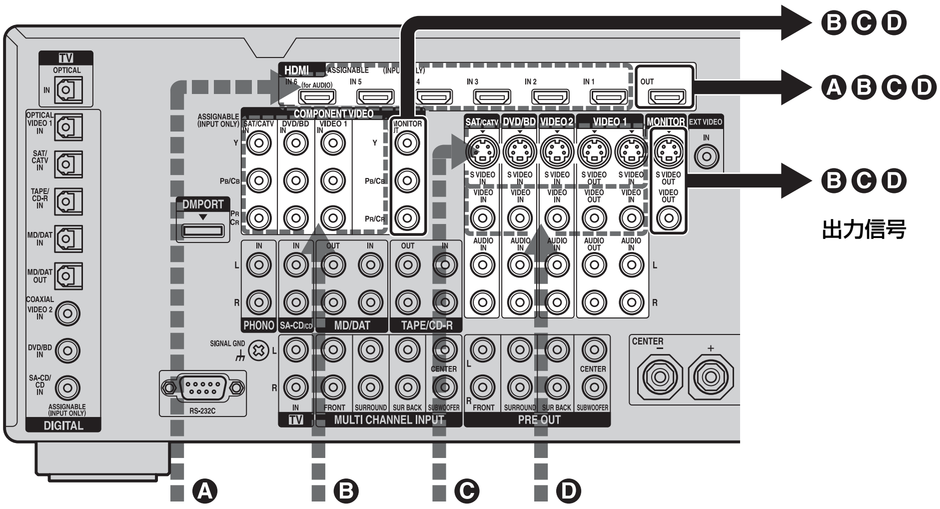
映像信号の変換機能について

本機には映像信号の変換機能があります。
本機は、「本機の映像の入出力信号の関係について」の図のように、再生機器からの信号を内部で変換して、MONITOR OUT端子から出力します。

- 通常の映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号、S映像信号に変換できます。
- S映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号、通常の映像信号に変換できます。
- コンポーネント映像信号をHDMI映像信号、S映像信号、通常の映像信号に変換できます。

映像信号の変換機能については、「メニューの設定による映像信号の入出力の関係」（29ページ）をご覧ください。

本機の映像の入出力信号の関係について



出力端子 ＼ 入力信号（つなぐ端子）	HDMI OUT	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT	MONITOR S VIDEO OUT	MONITOR VIDEO OUT
HDMI映像（HDMI IN 1/2/3/4/5/6）Ⓐ	△	×	×	×
コンポーネント映像（COMPONENT VIDEO IN）Ⓑ	○	○/△	○	○
S映像信号（S VIDEO IN）Ⓒ	○	○	○/△*	○
通常の映像信号（VIDEO IN）Ⓓ	○	○	○	○/△*

○：映像は変換されて、ビデオコンバーターを通して出力されます。
△：映像は変換されず、入力と同じ種類の信号のみ出力されます。
×：映像を出力しません。

＊ Video メニューで Resolution を「DIRECT」に設定すると出力されます。

つづく

映像の変換機能のご注意

- ビデオデッキからの通常の映像信号またはS映像信号を変換したものをテレビにつないでいる場合、映像信号の状態によってはテレビの映像が横方向にずれたり、映像が出なくなる場合があります。
- HDMI信号は、コンポーネント映像信号、S映像信号、通常の映像信号に変換できません。
- 変換された映像信号はMONITOR OUT端子以外（VIDEO OUT端子、S VIDEO OUT端子）からは出力されません。
- 画質向上回路（TBCなど）を搭載したビデオデッキなどを再生するとき、映像が乱れたり出なくなることがあります。
  この場合、ビデオデッキなどの画質向上回路（TBCなど）をオフにしてお使いください。
- COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子へ出力される信号の解像度は1125i（1080i）まで、HDMI OUT端子へ出力される信号の解像度は1125p（1080p）まで変換できます。
- 著作権保護情報が入っている映像信号の解像度を変換するとき、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子には解像度の制限があります。
  COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子への出力は525p（480p）/625p（576p）の解像度までとなります。HDMI出力には制限がありません。
- 解像度変換した映像信号は、MONITOR OUT端子（MONITOR VIDEO OUT端子、MONITOR S VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子）とHDMI OUT端子に同時に出力できません。両方につないでいる場合は、HDMI OUT端子から映像信号は出力されます。
- MONITOR VIDEO OUT端子、MONITOR S VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子のすべての端子から映像を出力したい場合は、Videoメニューの「Resolution」の設定を「Auto」または「480i/576i」に設定してください。

録画機器をつなぐには

録画する場合は、録画機器を本機のVIDEO OUT端子またはS VIDEO OUT端子につないでください。
VIDEO OUT端子やS VIDEO OUT端子には映像変換機能がないので、入力信号と出力信号は同じ種類の端子につないでください。

ご注意
MONITOR VIDEO OUT 端子からの出力信号は、正しく録画できない場合があります。

メニューの設定による映像信号の入出力の関係

「Resolution」メニューについて詳しくは「映像を設定する（Videoメニュー）」（51ページ）、操作について詳しくは「アナログ映像信号を変換する」（70ページ）をご覧ください。

「Resolution」メニューの設定	出力信号／入力信号	HDMI OUT端子	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子	MONITOR S VIDEO OUT端子	MONITOR VIDEO OUT端子
DIRECT	Component video	×	△	×	×
	S video	×	×	△	×
	Video	×	×	×	△
AUTO（初期設定）	Component video	○[a]	○[b]	○[b]	○[b]
	S video	○[a]	○[b]	○[b]	○[b]
	Video	○[a]	○[b]	○[b]	○[b]
480i/576i	Component video	○[c]	○	○	○
	S video	○[c]	○	○	○
	Video	○[c]	○	○	○
480p/576p	Component video	○	○	×	×
	S video	○	○	△	×
	Video	○	○	×	△
720p、1080i	Component video	○	○[d]	×	×
	S video	○	○[d]	△	×
	Video	○	○[d]	×	△
1080p	Component video	○	△	×	×
	S video	○	×	△	×
	Video	○	×	×	△

○： 映像は変換されて、ビデオコンバーターを通して出力されます。
△： 映像は変換されず、入力と同じ種類の信号のみ出力されます。
×： 映像を出力しません。

[a] 接続しているモニターによって、解像度は自動的に設定されます。
[b] HDMI OUT 端子にテレビがつながれていないときに、525i（480i）/625i（576i）の信号が出力されます。
[c] 525i（480i）/625i（576i）に設定しても、525p（480p）/625p（576p）の信号が出力されます。
[d] 著作権保護されていない映像は、メニューの設定のとおりに出力されます。著作権保護された映像は、525p（480p）/625p（576p）まで出力されます。

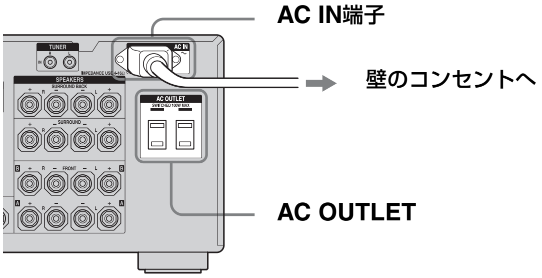
ご注意

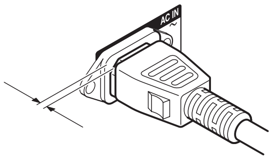
- モニターなどを HDMI OUT 端子につないだときは、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子、MONITOR S VIDEO OUT 端子、MONITOR VIDEO OUT 端子から、映像信号は出力されません。
- つないだテレビが Resolution で選んだ解像度に対応していないときは、映像は正しく出力されません。
- 変換された HDMI 映像出力信号は「x.v.Color」には対応していません。
- 変換された HDMI 映像出力信号は DeepColor には対応していません。

準備 5:本体とリモコンを準備する

電源コードをつなぐ

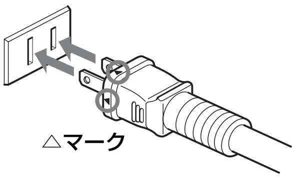
付属の電源コードを本機後面のAC IN （100V）端子につなぎ、電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。
また、お手持ちの機器の電源コードを本機の電源コンセント（AC OUTLET端子）につなぐことができます。





本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しくつながれています。

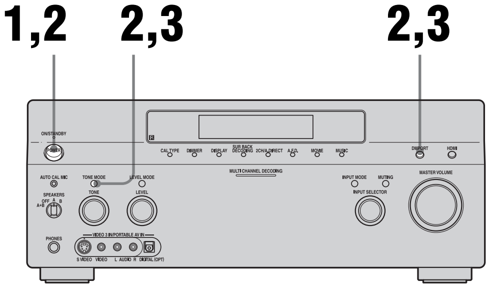
電源コードについて



付属の電源コードには、上の図のようにN極側に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い穴がN極側です。

本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。
また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



1 POWER を押して、本機の電源を切る。

2 TONE MODEとDMPORTを押しながら、POWER を押す。

3 2、3 秒後に TONE MODE と DMPORT を離す。

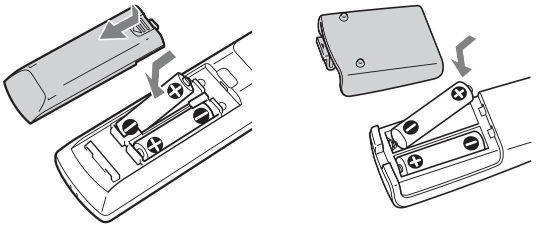
表示窓に「MEMORY CLEARING...」と表示された後、「MEMORY CLEARED!」と表示されます。
初期設定から変更、調整された設定はすべて初期化されます。

ご注意

- お手持ちの機器の電源コードに極性がある（白線または刻印が付いている）ときは、白線のある側を本機の AC OUTLET の白線のある側（アース側）へ差し込みます。
- 本機後面の電源コンセントは連動（SWITCHED）です。本機の電源が入っているときのみ、つないだ機器に電源を供給できます。
- AC OUTLET 端子につなぐ機器の消費電力の合計が 100W を超えないようにしてください。また、テレビや家電製品（アイロンなど）は、つながないでください。故障の原因になります。
- 電源コードを差す前に、各スピーカー端子間でコードの金属線が接触していないことを確認してください。
- 電源コードをしっかり差してください。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、AVリモコン、簡単リモコンにそれぞれ単3形マンガン乾電池（付属）2個を入れます。

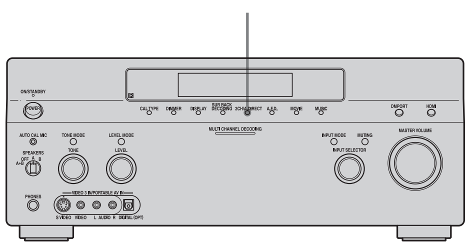


RM-AAL010　RM-AAU016

コマンドモードについて

本機（アンプ）のコマンドモードとリモコンのコマンドモードが一致していないと通信ができず、リモコンで操作できません。本機とリモコンの両方がお買い上げ時のコマンドモードのままならば（AV SYSTEM2）、設定し直す必要はありません。
本機とリモコンのコマンドモードを切り換えることができます（AV SYSTEM1またはAV SYSTEM2）。
本機のリモコンでお手持ちのソニー製機器も動作する場合は、本機とリモコンのコマンドモードをAV SYSTEM1に変えると、他のソニー製機器は動作しなくなります。

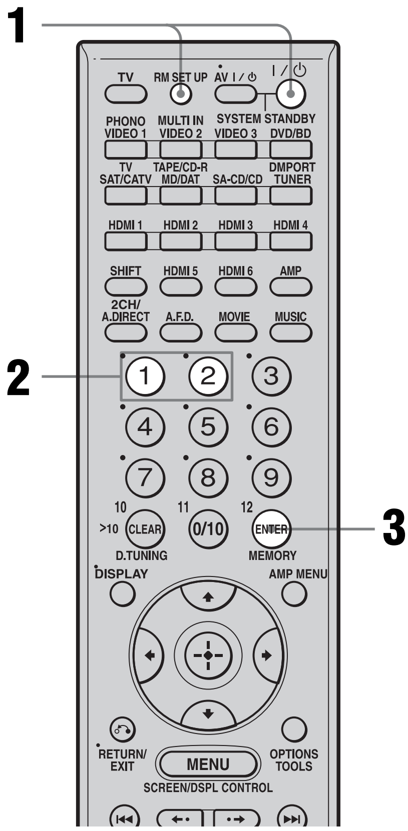
本体のコマンドモードを切り換えるには



2CH/A.DIRECT を押しながら電源を入れる。

表示窓に「COMMAND MODE [AV1]」と表示され、AV SYSTEM1に設定されます。
もう一度同じ操作をすると、AV SYSTEM1からAV SYSTEM2に設定が変わります。

リモコンのコマンドモードを切り換えるには



ご注意

- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください（90 ページ）。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部Ⓡに直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

ちょっと一言

乾電池の残りが少なくなるとリモコンで操作できる範囲が狭くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください。

つづく

1 RM SET UP を押しながら、I/⏻（電源スイッチ）を押す。

RM SET UPが点滅します。

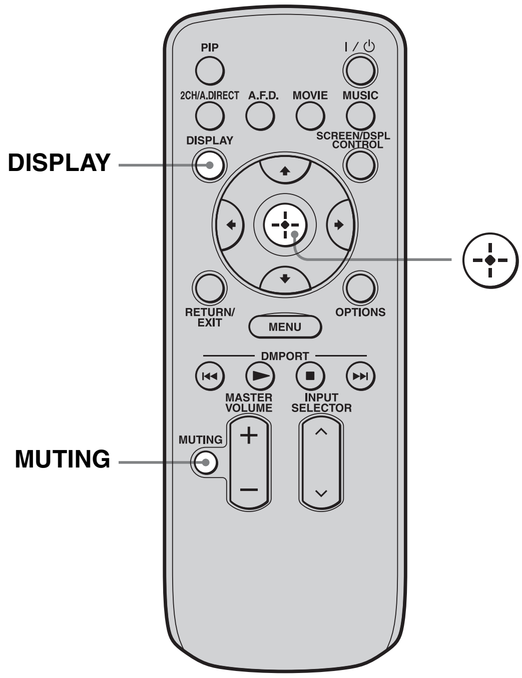
2 RM SET UPが点滅している間に1または2を押す。

1を押すと、コマンドモードは「AV SYSTEM1」に設定され、2を押すと「AV SYSTEM2」に設定されます。

3 RM SET UP が点灯したら、ENTER を押す。

RM SET UPが2回点滅し、設定が完了します。

簡単リモコンのコマンドモードを切り換えるには



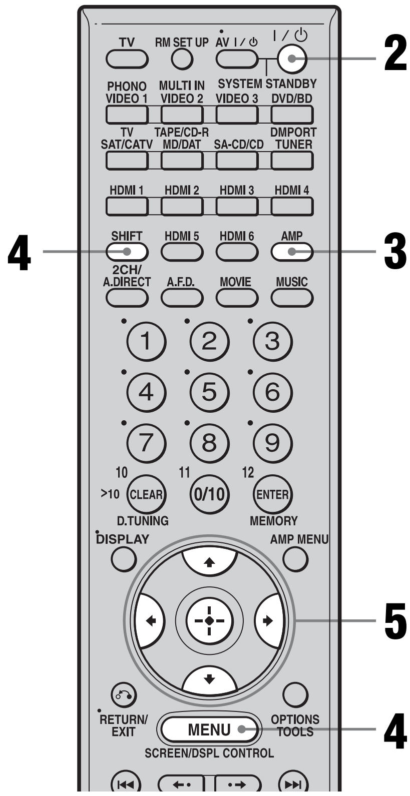
DISPLAY を押しながら MUTING を押し、そのまま⊕を押す。

準備 6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する

次の手順にて本機の表示モードをスクリーンモードにします。スクリーンモードのときは、本機の表示窓に「GUI MODE」の表示がでます。

GUIメニューを使って、本機のさまざまな設定をすることができます。

GUIメニューを使わずに操作する場合は、「テレビをつながずに本機を操作する」（80ページ）をご覧ください。



GUIメニューをテレビ画面に表示する

1 本機とテレビをつなぐ。

詳しくは、「準備3：テレビを接続する」（15ページ）をご覧ください。

2 本機とテレビの電源を入れる。

3 AMP を押す。

本機の操作ができるようになります。

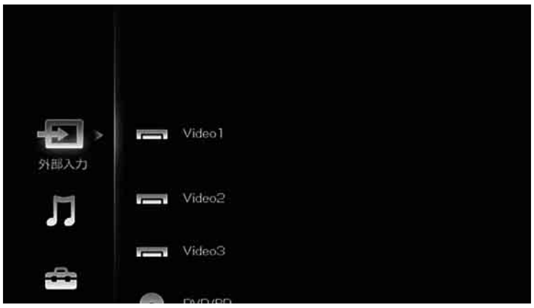
ちょっと一言

RM SET UP は先の細いもので押してください。

4 **SHIFT を押して SHIFT ボタンが点灯している間に、MENU を押す。**

SHIFTボタンが点灯している間にくり返しMENUを押すと、メニューの表示は「DISPLAY」モードと「SCREEN」モードに、交互に切り換わります。「SCREEN」モードのとき、本機の表示窓には「GUI MODE」と表示され、テレビ画面にGUIメニューリストが表示されます。

5 **↑/↓ をくり返し押して、設定したいメニューを選び、⊕または → を押す。**



メニュー一覧

各メニューを使ってできる操作は以下のとおりです。

外部入力

本機への入力を選びます。
詳しくは「アンプの入力を選ぶ」（44ページ）をご覧ください。

ミュージック

デジタルメディアポートアダプターにつないだオーディオ機器を聞きます。
詳しくは「デジタルメディアポートアダプターを使う」（70ページ）をご覧ください。

設定

本機の設定、調節をします。

Auto Calibration

スピーカーを自動で設定します。
詳しくは「準備8：自動でスピーカーを設定する（自動音場補正機能）」（37ページ）をご覧ください。

Speaker

スピーカーの位置やインピーダンスをマニュアルで設定します。
詳しくは「準備7：スピーカーを設定する」（35ページ）、「マニュアルでスピーカー設定をする」（62ページ）をご覧ください。

Surround

お好みに合わせてサウンドフィールド（サラウンド効果）を選びます。
詳しくは「サラウンド効果を楽しむ」（53ページ）をご覧ください。

EQ

イコライザーの調節をします。
詳しくは「イコライザー（低域／高域のレベル）を調節する」（68ページ）をご覧ください。

Audio

音声の設定をします。
詳しくは「音声を設定する （Audioメニュー）」（50ページ）をご覧ください。

Video

映像の設定をします。
詳しくは「映像を設定する （Videoメニュー）」（51ページ）をご覧ください。

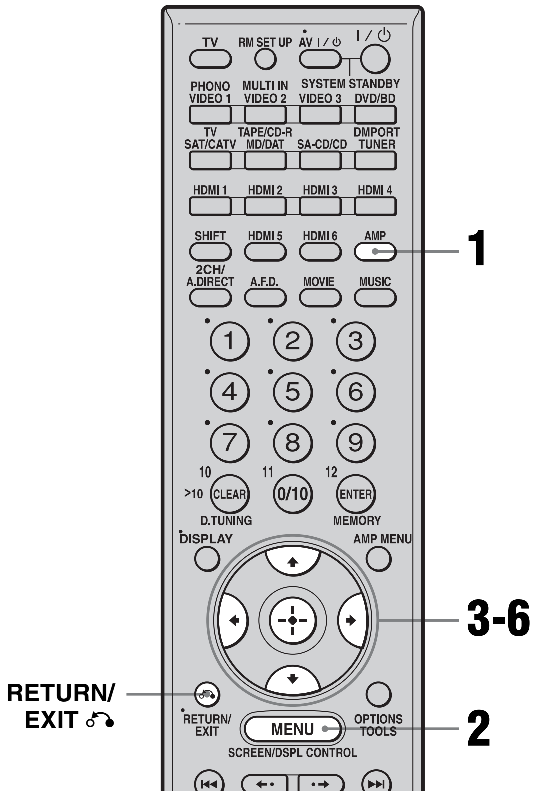
HDMI

HDMI端子に接続している機器の操作をします。
詳しくは「HDMIを設定する （HDMIメニュー）」（51ページ）をご覧ください。

System

本体の設定をします。
詳しくは「本機を設定する （Systemメニュー）」（52ページ）をご覧ください。

メニュー操作について

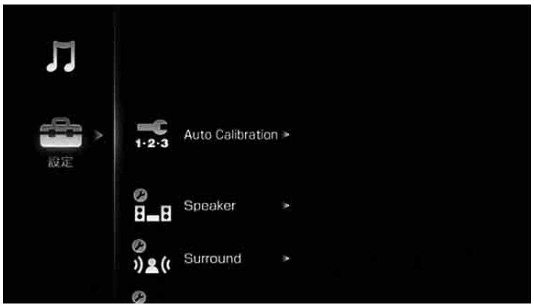


1 AMP を押す。

「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「GUIメニューをテレビ画面に表示する」（32ページ）の手順を行ってください。

2 MENU をくり返し押し、テレビ画面に GUI メニューを表示する。

3 ↑/↓ をくり返し押して、設定したいメニューを選ぶ。



4 ⊕または → を押して、メニューを確定する。

テレビ画面にメニューリストが表示されます。



5 ↑/↓ をくり返し押して、設定したいメニュー項目を選ぶ。



6 ⊕または→を押して、メニュー項目を確定する。

7 手順３から６をくり返して、パラメータを選ぶ。

前の表示画面に戻るには

RETURN/EXIT⤺を押します。

メニューから抜けるには

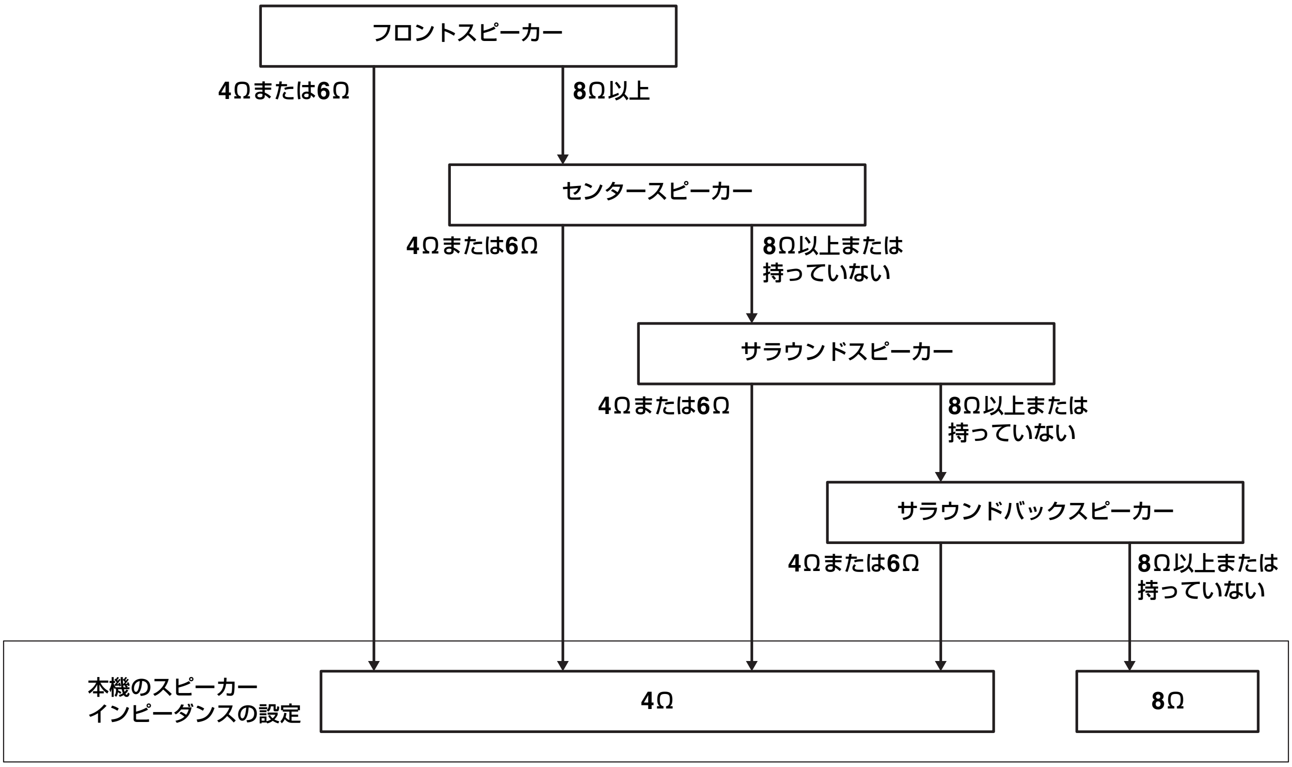
MENUを押します。

GUI MODE から抜けるには

AMPを押してから、SHIFTを押して、SHIFTボタンが点灯している間に、MENUを押します。

準備 7:スピーカーを設定する

お使いのスピーカーのインピーダンスと本機の設定



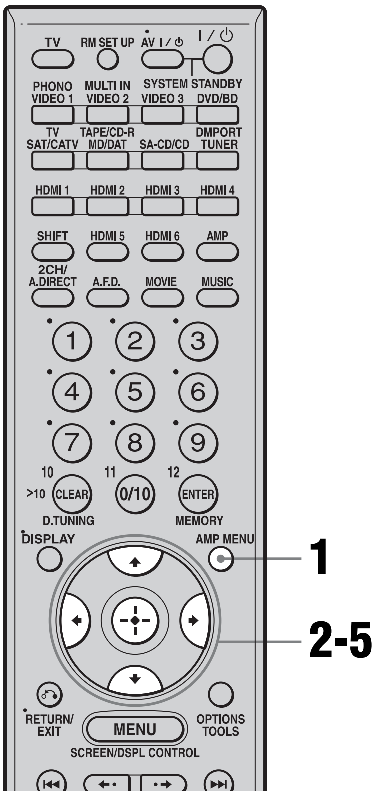
ご注意

お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください（通常、スピーカー後面にインピーダンスが表示されています）。

つづく

スピーカーインピーダンスを設定する

お使いのスピーカーに合わせてスピーカーインピーダンスを設定してください。



1 AMP MENU を押し、テレビ画面に GUI メニューを表示する。

「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）の手順を行ってください。

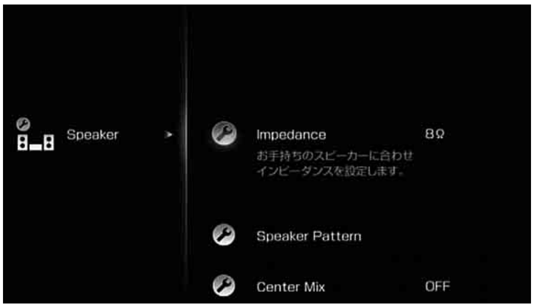
2 ↑/↓ をくり返し押して、「設定」を選び、⊕または → を押す。

設定メニューのリストがテレビ画面に表示されます。

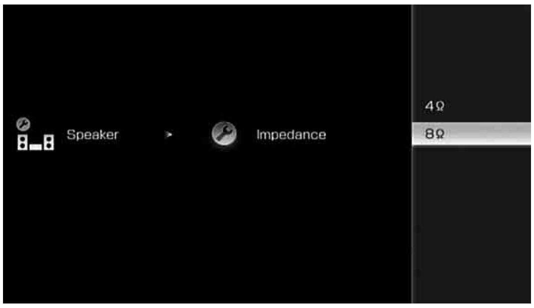
3 ↑/↓ をくり返し押して、「Speaker」を選び、⊕または → を押す。



4 ↑/↓ をくり返し押して、「Impedance」を選び、⊕を押す。



5 ↑/↓ をくり返し押して、お使いのスピーカーに合わせて「4Ω」または「8Ω」を選び、⊕を押す。



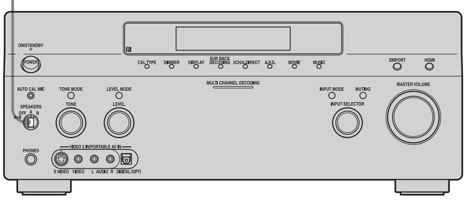
ご注意

- すべて 8Ω 以上のスピーカーをつないだ場合は、「Impedance」を「8Ω」に設定してください。それ以外の場合は「4Ω」にしてください。
- SPEAKERS A と B 端子の両方にスピーカーをつないで使う場合は、8Ω 以上のスピーカーをつないでください。
  - 16Ω 以上のスピーカーを A と B 端子の両方につないだときは、「Impedance」を「8Ω」に設定してください。
  - それ以外のときは、「4Ω」に設定してください。

フロントスピーカーを選ぶ

本機前面のFRONT SPEAKERSスイッチを、使用するスピーカーシステムに合わせます。

SPEAKERSスイッチ



SPEAKERS スイッチを、使用するフロントスピーカーシステムに合わせる。

設定値	使うスピーカーシステム
A	FRONT SPEAKERS A端子につないだスピーカー
B	FRONT SPEAKERS B端子につないだスピーカー
A+B	FRONT SPEAKERS AとB端子につないだスピーカー（パラレル接続）
OFF	すべてのスピーカー端子とPRE OUT端子から音声が出力されません。

準備 8:自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

スピーカーのレベルや距離などの測定と設定を自動的に行います。操作については、付属の「**接続・設定ガイド**」もご覧ください。

測定の準備をする

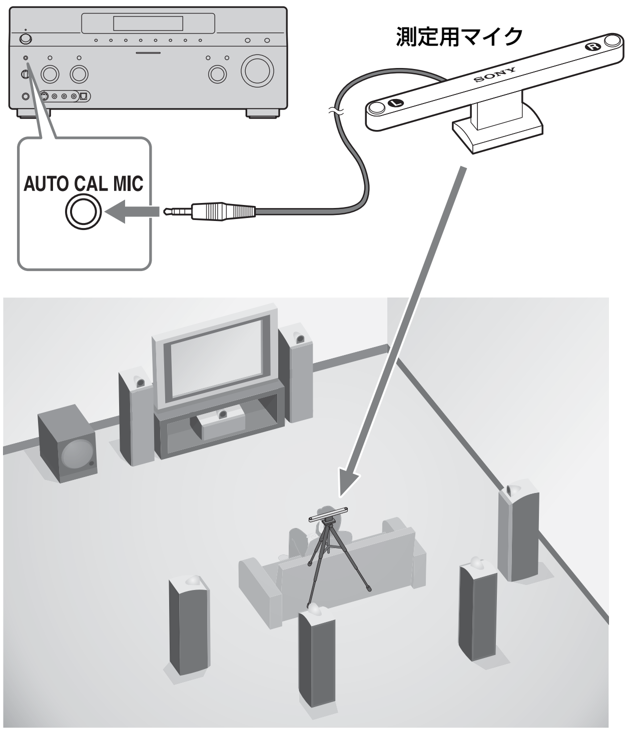
スピーカーを設置、接続してから、測定してください（13、14ページ）。
測定の前に、以下についてご注意ください。

- AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。
- バイアンプ接続をしているときは、測定前にサラウンドバックスピーカーの設定をバイアンプにしてください。
- 消音機能が働いているときは、解除してください。

ご注意

- ヘッドホンをつないでいるときは、SPEAKERS スイッチでフロントスピーカーを切り換えることはできません。
- ヘッドホンをつないでいるとき、自動音場補正機能は働きません。

つづく



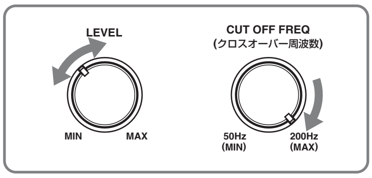
1 測定用のマイク（付属）を本機前面のAUTO CAL MIC端子につなぐ。

2 マイクを設置する。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。マイクのLをフロントスピーカー Lに、マイクのRをフロントスピーカー Rに合わせてください。

アクティブサブウーファーの設定について

- サブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、ボリュームつまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ（無効）にしてください。



本機をプリアンプとして使う場合は

本機をプリアンプとして使う場合も、自動音場補正機能を使うことができます。
この場合、スピーカーの距離として表示される数値は、実際の距離と異なる場合がありますが、そのまま使って問題ありません。

測定する

自動音場補正機能は以下の項目を測定します。

- スピーカーの有無[a]
- スピーカーの極性
- スピーカーの距離[b]
- スピーカーの角度
- スピーカーのサイズ[b]
- スピーカーのレベル
- 周波数特性[c]

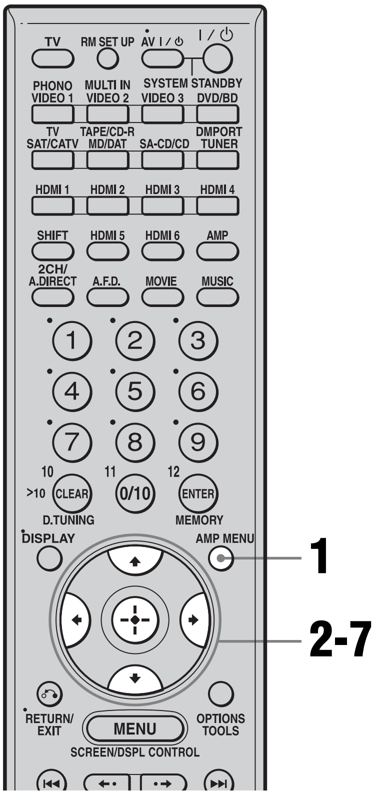
a) マルチチャンネル入力を選んでいる場合、センタースピーカー、サブウーファーに対してのみ、アナログダウンミックス処理で補正します。その他のスピーカーに対しては、補正は無効です。

b) マルチチャンネル入力を選んでいる場合は、測定結果は反映されません。

c)
- サンプリング周波数が96 kHzより高い信号は強制的に44.1 kHzまたは48 kHzで再生されます。
- 以下の場合は、測定結果は反映されません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - アナログダイレクト機能を使用している。
  - サンプリング周波数が96 kHzより高いDolby TrueHD信号を受信している。

ご注意

- 2つのスピーカーの中心に測定用マイクの位置を決める場合、2つのスピーカーの間の角度がせまいと、左右のスピーカーを適切に測定することができません。
- お使いになるサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。



1 AMP MENU を押し、テレビ画面に GUI メニューを表示する。

「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）の手順を行ってください。

2 ↑/↓ をくり返し押して、「設定」を選び、⊕または → を押す。

設定メニューのリストがテレビ画面に表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「Auto Calibration」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、「Quick Setup」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して、測定したくない項目を選び、⊕を押す。

- スピーカーの距離
- スピーカーのレベル
- スピーカーの周波数特性



6 → を押す。

7 「開始」を選んで、⊕を押す。

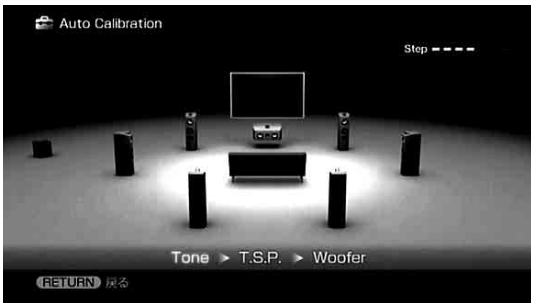


8 5 秒後に測定が開始される。



9 **測定が始まる。**

測定時間は約30秒です。測定が終了するまでお待ちください。



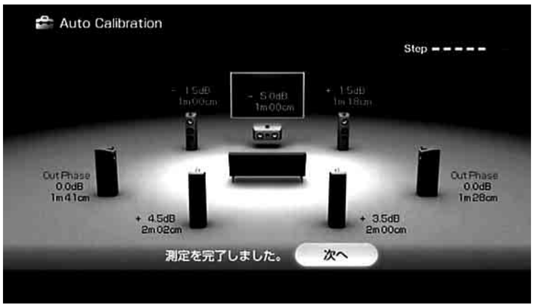
測定を中止するには

ボリューム操作、ファンクション切り換え、本体のスピーカースイッチの切り換え、ヘッドホンの接続で中止されます。

測定結果を確認／保存する

1 **測定結果を確認する。**

測定が終わると終了音が鳴り、測定結果がテレビ画面に表示されます。



2 **「次へ」を選んで、⊕を押す。**

「測定結果を保存しますか？」とテレビ画面に表示され、警告を確認するかどうかを選べます。
「はい」を選んだときは、テレビ画面の指示に従ってください。
警告やエラーについては、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（42ページ）をご覧ください。

3 **←/→をくり返し押して、「はい」を選び、⊕を押す。**



4 **↑/↓をくり返し押して、補正タイプを選び、→を押す。**

測定結果が保存されます。



補正タイプ	説明
Full Flat	各スピーカーの周波数特性を平らにします。
Engineer	ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
Front Reference	すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。
OFF	自動音場補正のイコライザーをオフにします。

ご注意

- サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの高さ情報は測定できません。Speaker メニューの「位置」で設定してください（64 ページ）。
- スピーカーが逆相のときは、「Out Phase」とテレビ画面に表示されます。スピーカーの＋ / －端子が逆に接続されている可能性があります。スピーカーによっては接続が正しくても表示される場合があります。スピーカーの仕様によるものですので、そのまま使って問題ありません。

ちょっと一言

- 測定中に有効な操作は電源の ON/OFF の操作のみです。そのほかの操作は無効です。
- ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーをつないでいる場合は、正しく測定できないことがあります。

5 ⊕を押す。

終了画面が表示されます。



ご注意

- 周波数特性の補正結果を反映すると、サンプリング周波数が 96 kHz より高い信号は強制的に 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。
- 以下の場合は、周波数特性の補正結果は反映されません。
  – マルチチャンネル入力を選んでいる。
  – アナログダイレクト機能が働いている。
  – サンプリング周波数が 96 kHz より高い Dolby TrueHD 信号を受信している。

ちょっと一言

- スピーカーのサイズ（LARGE/SMALL）は低域特性で判定します。測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、Speaker メニューで設定を変更することもできます。変更する場合は、測定結果を保存してから変更してください。

つづく

自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧

表示	原因と対策
Code 30	ヘッドホンが挿入されています。ヘッドホンを外して再測定してください。
Code 31	SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）がOFFになっています。SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）を音がでる状態にして、再測定してください。
Code 32	どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用のマイクが正しく接続されていることを確認し、再測定してください。接続されている場合は測定用マイクが断線していることが考えられます。
Code 33	• フロントスピーカーが接続されていない、またはフロントスピーカーが1本しか接続されていません。 • 測定用マイクが接続されていません。 • 左か右どちらかのサラウンドスピーカーが接続されていません。 • サラウンドスピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーが接続されています。サラウンドスピーカーをSURROUND SPEAKERS端子に接続してください。 • サラウンドバックスピーカーがSURROUND BACK SPEAKERS R端子にのみ接続されています。サラウンドバックスピーカーを1つだけ接続するときは、SURROUND BACK SPEAKERS L端子に接続してください。
Code 34	スピーカーが正しい位置に設置されていません。 マイク、スピーカーの左右が逆に設置されていることが考えられます。 「準備１：スピーカーを設置する」（13ページ）を参照して、スピーカーの位置を確認してください。
Warning 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。 再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
Warning 41	測定用マイクからの入力が過大です。 これ以上大きな音で測定できません。周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
Warning 42	アンプのボリュームが過大です。 周囲の騒音が小さくなってから再測定してください。
Warning 43	サブウーファーの距離・位相が測定できませんでした。または、スピーカーの設置角度が測定できませんでした。 ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
Warning 44	測定は終了しましたが、スピーカーの位置関係がおかしい可能性があります。 「準備１：スピーカーを設置する」（13ページ）を参照して、スピーカーの位置を確認してください。
NO WARNING	WARNING情報はありません。
-----	スピーカーがつながれていません。

自動音場の項目をより正確に設定する（Enhanced Setup）

「Auto Calibration」メニューから「Enhanced Setup」を選び、⊕を押す。

- リスニングポジション
  測定位置や視聴環境、測定条件ごとに、ポジション1、2、3として3つのパターンを登録することができます。
- 補正タイプ
  詳しくは、40ページをご覧ください。

Enhanced Setupメニューのオプション項目

- EQ Curve
  EQカーブ測定を表示します。
- Name Input
  測定番号をつけ直すことができます。詳しくは「入力に名前を付ける」（71ページ）をご覧ください。

自動音場補正タイプをより正確に設定する（Front Ref Type）

40ページの補正タイプで「Front Reference」を選んだ場合、リファレンス値を選べます。
「Auto Calibration」メニューから「Front Ref Type」を選び、⊕を押す。

- Rch
  Rchのデータをリファレンス値とします。
- L/R
  RchとLchをリファレンス値とします。
- Lch
  Lchのデータをリファレンス値とします。

自動音場補正のイコライザーパターンを選ぶ（SP Pair Match）

自動音場補正のイコライザーパターンのペアマッチ方法を選びます。
「Auto Calibration」メニューから「SP Pair Match」を選び、⊕を押す。

- OFF
  各chで独立した補正を行います。
- ALL
  フロント／サラウンド／サラウンドバックスピーカーをそれぞれLch/Rchのペアマッチ処理で補正を行います。
- SUR
  サラウンド／サラウンドバックスピーカーをそれぞれLch/Rchのペアマッチ処理で補正を行います。

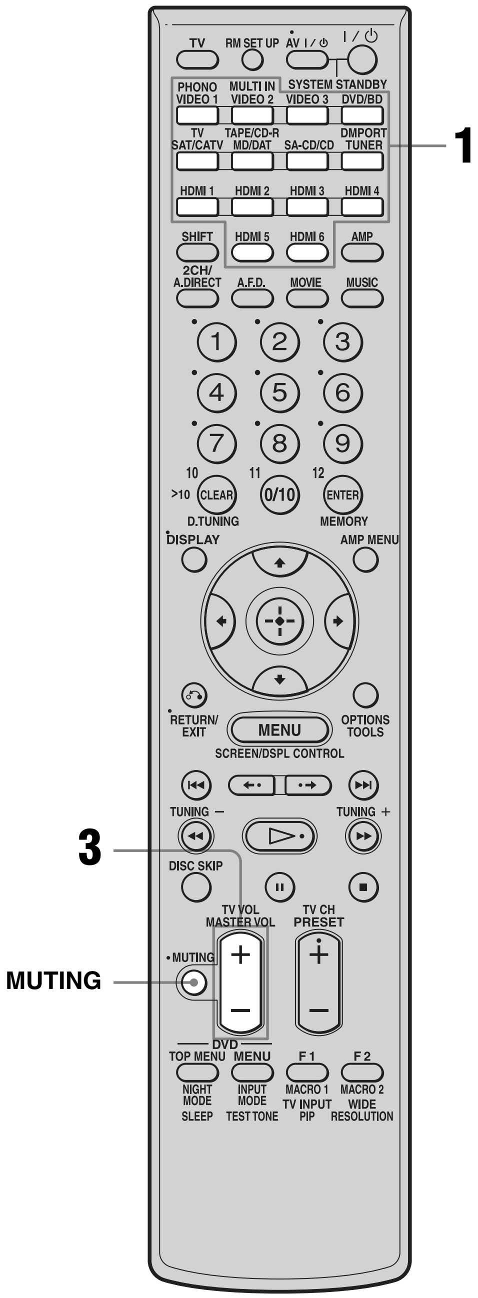
ご注意

- Front Ref Type は自動音場補正の補正タイプで「Front Reference」を選んだときのみ、設定できます。
- Front Ref Type を設定してから、測定を行ってください。
- 「SP Pair Match」は、自動音場補正を行っていないときは設定できません。
- 「SP Pair Match」の「ALL」は、自動音場補正の補正タイプで「Front Reference」を選んだときは設定できません。

ちょっと一言

サブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

アンプの入力を選ぶ



1 **入力切り換え用のボタンを押す。**
PHONO、MULTI CHANNEL INPUT、TV、TAPE/CD-R、DMPORT 端子につないだ機器を選ぶときは、SHIFT を押してから、PHONO、MULTI IN、TV、TAPE/CD-R、DMPORT を押す。

本体や簡単リモコンのINPUT SELECTORを使って操作することもできます。

選んだ入力	再生する機器
VIDEO 1または2	VIDEO 1またはVIDEO 2端子につないだビデオデッキなど
VIDEO 3	VIDEO 3端子につないだビデオカメラ、テレビゲームなど
DVD/BD	DVD/BD端子につないだDVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーなど
SAT/CATV	SAT/CATV端子につないだBS/CSチューナーなど
MD/DAT	MD/DAT端子につないだMDデッキ、DATデッキなど
SA-CD/CD	SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCD/CDプレーヤーなど
TUNER	TUNER端子につないだラジオチューナーなど
HDMI 1、2、3、4、5、6	HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4、HDMI5、またはHDMI6端子につないだHDMI機器など
PHONO	PHONO端子につないだレコードプレーヤーなど
MULTI IN	MULTI CHANNEL INPUT端子につないだ機器
TV	TV端子につないだテレビなど
TAPE/CD-R	TAPE/CD-R端子につないだカセットデッキなど
DMPORT	デジタルメディアポートアダプター＊で本機につないだポータブルオーディオなど

＊デジタルメディアポートアダプターは、今後発売を予定しています。

2 **本機につないだ機器の電源を入れ、再生する。**

3 **MASTER VOL ＋/－を押して、音量を調節する。**

または本体のMASTER VOLUMEつまみを回します。

音を一時的に消すには

リモコンのMUTING を押します。解除するには、MUTING をもう一度押します。またはボリュームを調節して音量を上げます。消音中に本体の電源を切ると、消音機能は解除されます。

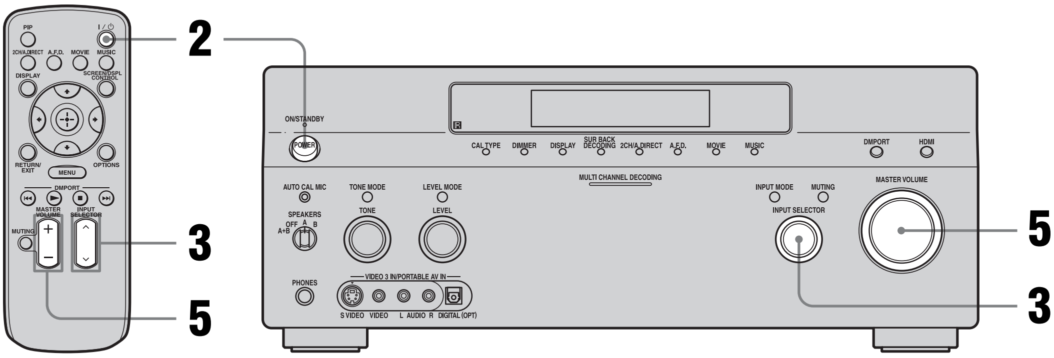
スピーカーの破損を防ぐためには

電源を切る前に音量を最小にしておいてください。

ちょっと一言

- 本体の MASTER VOLUME を回す速さによって音量の調整量を変えられます。
  音量を早く上げ／下げしたいとき：速く回す
  音量を微調整したいとき：ゆっくり回す。
- リモコンの MASTER VOL ＋ / －を押す時間の長さによって音量の調整量を変えられます。
  音量を早く上げ／下げしたいとき：押し続ける。
  音量を微調整したいとき：短く押す。

スーパーオーディオ CD/CD を聞く



!

- 本ページの操作はソニーのスーパーオーディオ CD プレーヤーの場合です。
- スーパーオーディオ CD プレーヤー、CD プレーヤーの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

お聞きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます（詳しくは 56 ページをお読みください）。
おすすめの音場プログラム
クラシック：D.Concert Hall
ジャズ：Jazz Club
ライブコンサート：
Live Concert、Stadium

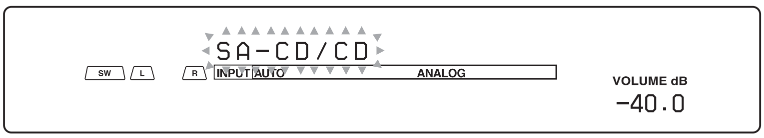
1 スーパーオーディオ CD プレーヤー／CD プレーヤーの電源を入れ、ディスクをプレーヤーにセットする。

2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 INPUT SELECTOR を押して、「SA-CD/CD」を選ぶ。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してSA-CD/CDを選びます。

表示例）

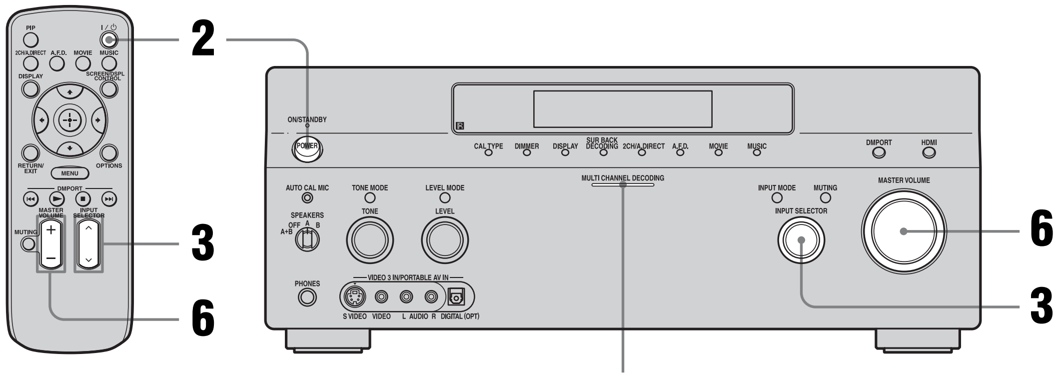


4 ディスクを再生する。

5 ボリュームを適当な音量に調節する。

6 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

DVD ／ブルーレイディスクを見る



MULTI CHANNEL DECODINGランプ

!

テレビ、DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

必要に応じて再生するディスクのサウンドフォーマットを選んでください。

ヒント

お聞きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます（詳しくは 56 ページをお読みください）。
おすすめの音場プログラム
映画：Cinema Studio EX
ライブ映像：Live Concert
スポーツ：Sports

!

マルチチャンネルで音声が聞けない場合は、以下についてご確認ください。
- ソフトがマルチチャンネルに対応しているか（再生時に前面の MULTI CHANNEL DECODING ランプが点灯しているか）。
- 本機と DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーがデジタル接続されているか。
- DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー側の音声デジタル出力が設定されているか。

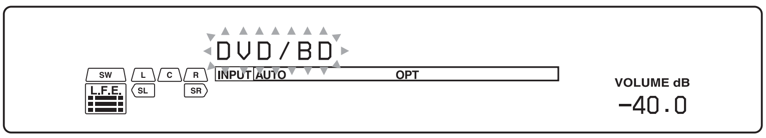
1 テレビ、DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの電源を入れる。

2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 INPUT SELECTOR を押して、「DVD/BD」を選ぶ。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してDVD/BDを選びます。

表示例）



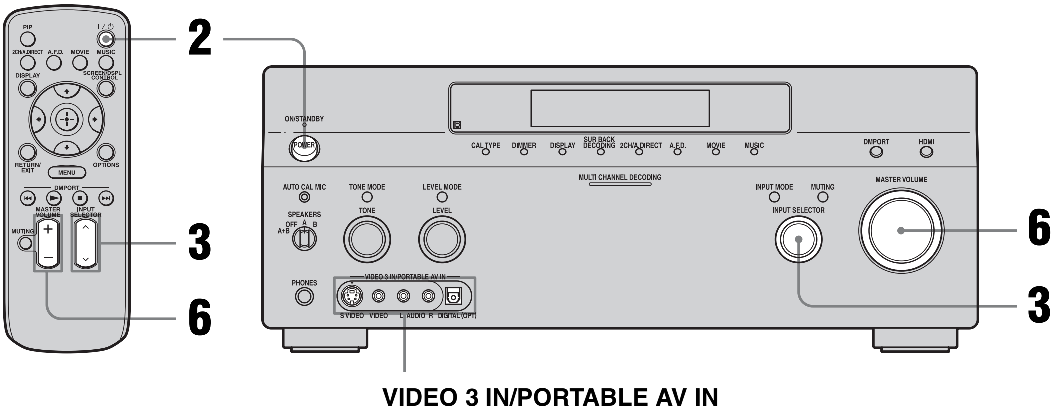
4 テレビの入力を DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの映像が映るように切り換える。

5 ディスクをセットし、再生する。

6 ボリュームを適当な音量に調節する。

7 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

ゲームを楽しむ



テレビ、テレビゲーム機の操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

1 テレビ、テレビゲーム機の電源を入れる。

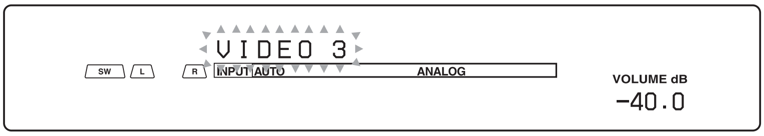
2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 INPUT SELECTOR を押して、「VIDEO 3*」を選ぶ。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してVIDEO 3*を選びます。

＊テレビゲーム機を本体前面の VIDEO 3 IN/PORTABLE AV IN 端子につないでいる場合です。

表示例）



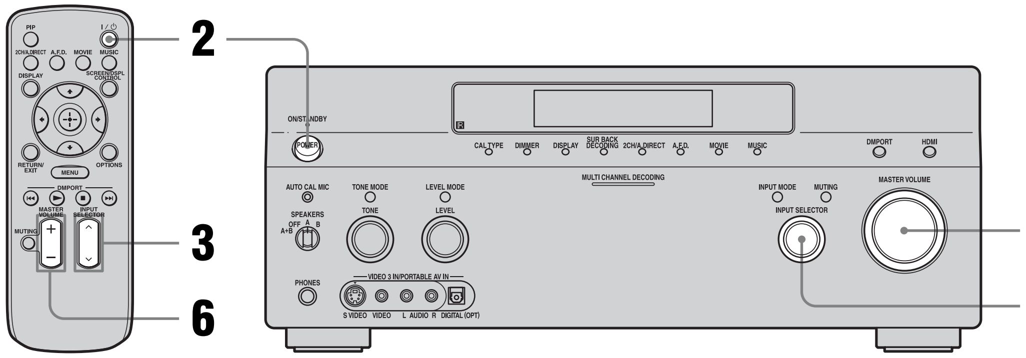
4 テレビの入力をテレビゲーム機の映像が映るように切り換える。

5 ディスクをテレビゲーム機にセットし、再生する。

6 ボリュームを適当な音量に調節する。

7 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切る。

ビデオを見る



!
テレビ、ビデオデッキの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

1 ビデオデッキの電源を入れる。

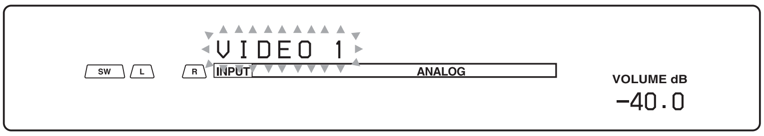
2 アンプ(本機)の電源を入れる。

3 INPUT SELECTOR を押して、「VIDEO 1*」を選ぶ。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してVIDEO 1*を選びます。

＊ビデオデッキを VIDEO 1 端子につないでいる場合です。

表示例）



4 テレビの入力をビデオデッキの映像が映るように切り換える。

5 ビデオテープを再生する。

6 ボリュームを適当な音量に調節する。

7 使い終わったらビデオテープを取り出し、各機器の電源を切る。

音声を設定する

（Audio メニュー）

Audioメニューを使って、お好みに合わせて音声を設定できます。設定メニューから「Audio」を選んでください。パラメータの調節について詳しくは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）をご覧ください。

Audioメニューの設定項目

■A/V Sync

入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。0 ms～300 msの範囲で10 msごとに調節できます。

■Dual Mono

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。

• MAIN/SUB

左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

• MAIN

主音声のみを再生します。

• SUB

副音声のみを再生します。

• MAIN+SUB

主音声と副音声が合成された音声を再生します。

■Decode Priority

DIGITAL IN端子とHDMI IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。

• PCM

DIGITAL IN端子からの信号を選んでいるときに、PCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。なお、PCM以外の信号が入力された場合、信号フォーマットによっては音が出なくなることがあります。この場合は「AUTO」に設定してください。
HDMI IN端子からの信号を選んでいるときは、接続している機器からはPCM信号のみ出力されるようになります。
その他のフォーマットを受信する場合は「AUTO」に設定してください。

• AUTO

ドルビーデジタル、DTS、DSD、MPEG-2 AAC、PCMの音声入力を自動的に切り換えます。

ご注意

- A/V Sync 機能は、大きな液晶ディスプレイやプラズマモニター、プロジェクターなどを使用しているときに便利です。
- A/V Sync 機能は、以下の場合は機能しません。
  – マルチチャンネル入力を選んでいる。
  – アナログダイレクト機能を使用している。
- Decode Priority を「PCM」に設定した場合でも、再生するディスクの信号によっては頭切れすることがあります。

映像を設定する

（Video メニュー）

Videoメニューを使って、映像を設定できます。設定メニューから「Video」を選んでください。パラメータの調節について詳しくは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）をご覧ください。

Videoメニューの設定項目

■Resolution

アナログ映像入力信号の解像度を変換できます。
- DIRECT
- AUTO
- 480i/576i
- 480p/576p
- 720p
- 1080i
- 1080p

詳しくは、「メニューの設定による映像信号の入出力の関係」（29ページ）をご覧ください。

HDMI を設定する

（HDMI メニュー）

HDMIメニューを使って、HDMI端子につないだ機器の操作ができます。設定メニューから「HDMI」を選んでください。パラメータの調節について詳しくは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）をご覧ください。

HDMIメニューの設定項目

■HDMI Control

HDMIコントロール機能を有効にします。詳しくは、付属の「HDMIコントロールガイド」をご覧ください。
- ON
- OFF

■HDMI Audio

本機とHDMI接続した再生機からの音声の出力先を設定します。
- TV+AMP

再生機の音声を本機と、本機にHDMI接続されたテレビのスピーカーの両方から再生します。
- AMP

再生機の音声を本機につないだスピーカーから出力します。マルチチャンネルの音声はそのまま再生可能です。

■HDMI SW Level

HDMI接続を通してマルチチャンネルPCM信号が入力されているときにサブウーファーのレベルを0 dB～+10 dBの範囲で調節できます。HDMI入力ごとにレベルの設定ができます。
- 0 dB

レベルを調整しません。
- AUTO

入力ソースのサンプリング周波数によって自動的に+10 dBか0 dBに設定します。
- +10 dB

レベルを10 dB上げます。

ご注意
- HDMI Control が「ON」に設定されていると、「HDMI Audio」の設定が自動的に変わる場合があります。
- HDMI 入力にコンポーネント映像を割り当てると「HDMI Control」を「ON」に設定できません。
- HDMI Audio が「TV+AMP」に設定されていると、再生機の音質はチャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの性能に影響されます。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出ない場合があります。この場合は、HDMI Audio を「AMP」に設定してください。
- HDMI Audio が「AMP」に設定されているときは、テレビのスピーカーから音は出ません。
- 「HDMI SW Level」が「AUTO」のとき、入力信号のサンプリング周波数が 44.1 kHz とその整数倍の場合は「0 dB」、48 kHz とその整数倍の場合は「+10 dB」となります。

つづく

■HDMI SW LPF

HDMI接続でPCM信号が入力されているときに、サブウーファー出力のローパスフィルタを設定します。お手持ちのサブウーファーにクロスオーバー周波数調整などのローパスフィルタがない場合に設定してください。

- OFF

ローパスフィルタは機能しません。

- ON

常にカットオフ周波数120 Hzのローパスフィルタが働きます。

- AUTO

入力のサンプリング周波数から、ローパスフィルタのON/OFFを自動的に判断します。

本機を設定する

(System メニュー)

Systemメニューを使って、本機の各種設定を変えることができます。
設定メニューから「System」を選んでください。パラメータの調節について詳しくは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）をご覧ください。

Systemメニューの設定項目

■Screen Saver

本機に接続したテレビにGUIメニューを表示したとき、スクリーンセーバー機能を有効にします。

- ON

15分間操作しないとスクリーンセーバー機能が働きます。

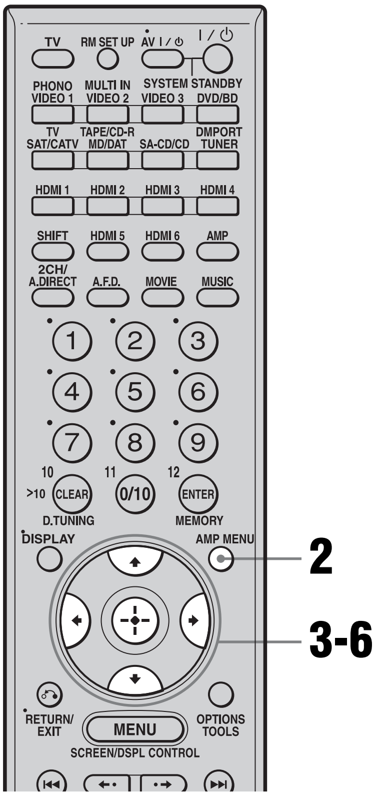
- OFF

スクリーンセーバー機能は働きません。

ご注意

「HDMI SW LPF」が「AUTO」のとき、入力信号のサンプリング周波数が 44.1 kHz とその整数倍の場合はローパスフィルタが「OFF」、48 kHz とその整数倍の場合はローバスフィルタが「ON」（120 Hz）となります。

あらかじめ設定されているサウンドフィールド（サラウンド効果）を楽しむ



1 CDやDVDなどお好みの音源を再生する。

2 AMP MENUを押し、テレビ画面にGUIメニューを表示する。

「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）の手順を行ってください。

3 ↑/↓をくり返し押して、「設定」を選び、⊕または→を押す。

設定メニューのリストがテレビ画面に表示されます。

4 ↑/↓をくり返し押して、「Surround」を選び、⊕または→を押す。

5 ↑/↓をくり返し押して、「Sound Field Setup」を選び、⊕を押す。

6 ↑/↓をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。



「詳細設定」メニューの項目でより進んだ調節ができます。詳しくは、「サラウンド効果を調節する」（57ページ）をご覧ください。

音声を2チャンネルで聞く

■2ch Stereo

フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。サブウーファーからは音が出ません。
標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。

■2ch Analog Direct

選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り換えます。高品質のアナログ音声を楽しむことができます。
この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのバランスのみ調節できます。

ブルーレイディスクレコーダーやその他の次世代ハードディスクプレーヤーを接続するときは

本機は以下のフォーマットに対応しています。

音声フォーマット	最大チャンネル数	本機と再生機との接続	
		COAXIAL/OPTICAL	HDMI
Dolby Digital	5.1チャンネル	○	○
Dolby Digital EX	6.1チャンネル	○	○
Dolby Digital Plus a)	7.1チャンネル	×	○
Dolby TrueHD a)	7.1チャンネル	×	○
DTS	5.1チャンネル	○	○
DTS-ES	6.1チャンネル	○	○
DTS 96/24	5.1チャンネル	○	○
DTS-HD High Resolution Audio a)	7.1チャンネル	×	○
DTS-HD Master Audio a) b)	7.1チャンネル	×	○
DSD a)	5.1チャンネル	×	○
MPEG-2 AAC（LC）	5.1チャンネル	○	○
マルチチャンネルリニアPCM a)	7.1チャンネル	×	○

a) 再生機器が上記のフォーマットには対応していない場合は、音声は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

b) サンプリング周波数が 96 kHz より高い信号は 96 kHz または 88.2 kHz で再生されます。

ドルビーデジタルやDTSのサラウンド効果を楽しむ

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコード処理モードを選ぶことができます。

A.F.D.モード	デコード後のマルチチャンネル音声	効果
A.F.D. Auto	（自動判別）	入力された音声信号（ドルビーデジタル、DTS、2チャンネルステレオ音声など）を自動的に判別し、適切な処理をします。
Pro Logic	4チャンネル	ドルビープロロジック処理を行います。2チャンネルで記録されている音声を4.1チャンネルにデコードして再生します。
PL II Movie	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
PL II Music	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
PL II Game	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのゲームモード処理を行います。
PL IIx Movie*	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども7.1チャンネルで再生できます。
PL IIx Music*	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
PL IIx Game*	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのゲームモード処理を行います。
Neo:6 Cinema	7チャンネル	DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。
Neo:6 Music	7チャンネル	DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音の再生に適しています。
Multi Stereo	7チャンネル	2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

＊サラウンドバックスピーカーがないときは選べません。

サブウーファーを接続したときは

サブウーファーから出力される低域効果音であるL.F.E.信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。ただし、すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているときは、「Neo:6 Cinema」、「Neo:6 Music」では生成されません。

ご注意

- 以下の場合は機能しません。
  – マルチチャンネル入力を選んでいる。
  – サンプリング周波数が 48 kHz より高い DTS-HD 信号を受信している。
  – サンプリング周波数が 96 kHz より高い Dolby TrueHD 信号を受信している。
- サンプリング周波数が 48 kHz より高い信号を受信中に音場効果を設定すると、強制的に 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。
- DTS 96/24 信号受信中に音場効果を設定すると、強制的に 48 kHz で再生されます。

ちょっと一言

- 通常は「A.F.D. Auto」をおすすめしますが、入力信号に応じてサラウンドバックデコーディング機能を使ったほうがよい場合があります。
- DVD ソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。
- マルチチャンネル信号が入力されているときは、ドルビープロロジック IIx デコーディングは有効です。
  このとき、Surround メニューで設定した「SB Decoding」と「SB Dec Mode」の設定は無効になります。ドルビープロロジック IIx 以外のデコーディングモードを選んでいるときは、エンコードされたままのマルチチャンネルの音声が出力されます。

つづく

ソニーのサラウンド効果（DCS）を楽しむ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールド（サラウンド効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。

	サウンドフィールド	効果
映画用	Cinema Studio EX A DCS	ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。
	Cinema Studio EX B DCS	ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。
	Cinema Studio EX C DCS	ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。
	V.Multi Dimension DCS	1組の実在するサラウンドスピーカーから、多数の仮想サラウンドスピーカーを生成します。
音楽用	D.Concert Hall A	3D立体音像処理により、反射によって大きなサウンドステージをつくることが特長的なコンサートホールの音響特性を再現します。
	D.Concert Hall B	3D立体音像処理により、ホールの残響が特長的なコンサートホールの音響特性を再現します。
	Church	石造りの教会の音響を再現します。
	Jazz Club	ジャズクラブの音響を再現します。
	Live Concert	300席あるライブハウスの音響を再現します。
	Stadium	屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。
	Sports	スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。
	Portable Audio	ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。
ヘッドホン使用時*	Headphone（2ch）	2ch Stereoモード（53ページ）、またはA.F.D.モードでヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます。2チャンネル（ステレオ）で音を出します。デジタル入力のマルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。
	Headphone Theater DCS	映画用または音楽用のサウンドフィールドを選んでいるときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。映画館にいるような雰囲気をヘッドホンで再現します。
	Headphone（Direct）	音色、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ音声を出力します。
	Headphone（Multi）	マルチチャンネル入力を選んでいるときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。MULTI CHANNEL INPUT端子のFRONT L/R端子に入力された信号を出力します。

＊ヘッドホンを使用したときに選べるサウンドフィールドです。

映画用／音楽用のサウンドフィールドを解除するには

Surroundメニューで「2ch Stereo」か「A.F.D. Auto」を選びます。

サラウンド効果を調節する

「詳細設定」メニューの項目でより進んだ調節ができます。



ご注意

- 映画用と音楽用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - サンプリング周波数が 48 kHz より高い DTS-HD 信号を受信している。
  - サンプリング周波数が 96 kHz より高い Dolby TrueHD 信号を受信している。
- DTS 96/24 信号を受信中に音場効果を設定すると、強制的に 48 kHz で再生されます。
- サンプリング周波数が 48 kHz より高い信号を受信中に音場効果を設定すると、強制的に 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、ノイズが目立つことがあります。
- 音楽用サウンドフィールドで Auto Calibration メニューですべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、サブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号に L.F.E. 信号が含まれているときや、フロント、サラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているとき、映画用サウンドフィールドを選んでいるとき、「Portable Audio」を選んでいるときは、サブウーファーから音が出ます。

ちょっと一言

- DCS マークの付いたサウンドフィールドは、DCS 技術を利用しています。DCS について詳しくは、「用語集」（94 ページ）をご覧ください。
- DCS マークの付いたサウンドフィールドが選ばれているとき、Digital Cinema Sound ランプが点灯します。

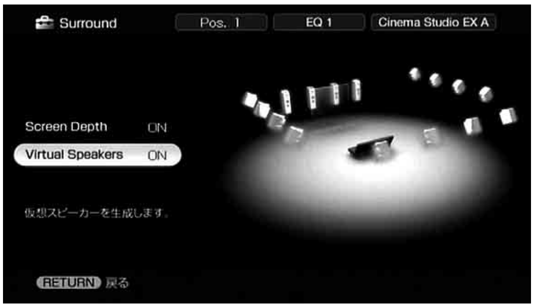
つづく

1 サウンドフィールドを選ぶ(53 ページ)。



2 ➡ を押して、「詳細設定」を選び、⊕を押す。

3 音を聞きながら ⬆/⬇、⊕を使って、選んだパラメータを調節する。



詳しくは、詳細設定メニューの設定項目をご覧ください。

エフェクトレベルを調節する

1 手順2で⬆/⬇をくり返し押して、エフェクトレベルを調節したいサウンドフィールドを選び、⊕を押す。

2 ⬆/⬇をくり返し押して、レベルを調節する。
値を上げるほど、サラウンド効果が大きくなります。
20〜120%の範囲で、5%単位で調節できます。

詳細設定メニューの設定項目

■Center Width Control

ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PL II Music」または「PL IIx Music」に設定している場合のみ設定できます。
ドルビープロロジックIIで生成したセンターチャンネルの音声を、フロントL/Rスピーカーに振り分ける調節ができます。

■Dimension Control

ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PL II Music」または「PL IIx Music」に設定している場合のみ設定できます。
フロントチャンネルとサラウンドチャンネルのレベル差を調節できます。

■Panorama Mode

ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PL II Music」または「PL IIx Music」に設定している場合のみ設定できます。

• ON
フロントの音場を左右に大きく回りこませて、サラウンドにつながるような音場モードを楽しむことができます。

• OFF
パノラマモードは働きません。

■Screen Depth

シネマスタジオEXモードのサウンドフィールド専用の設定です。
映画館のように、フロントスピーカーの音がスクリーンの中から出てくるような感覚を、リスニングルームにつくり出します。

• ON
非常に大きなスクリーンから音が出てくるような奥行き感をつくり出します。

• OFF
この機能は働きません。

■Virtual Speakers

シネマスタジオEXモードのサウンドフィールド専用の設定です。

• ON
仮想スピーカーを生成します。

• OFF
仮想スピーカーを生成しません。

ご注意
サウンドフィールドによって、調節できる設定項目は異なります。

■Front Reverb

D.Concert Hall A/Bのサウンドフィールド専用の設定です。音源に含まれている残響によって、フロント信号にどれくらい残響を加えるかを設定します。

- STD

通常は「STD」を選びます。

- WET

残響を加えたいときに選びます。

サラウンド効果にサラウンドバック機能を働かせる

「ドルビーデジタルサラウンドEX」や「DTS-ESマトリックス」、「DTS-ESディスクリート6.1」などで記録された映画のDVDソフトなどを再生するとき、サラウンドバック信号をデコードします。これにより、映画製作者が意図したサラウンド音声を楽しむことができます。

1 AMP MENUを押し、テレビ画面にGUIメニューを表示する。

「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）の手順を行ってください。

2 ↑/↓をくり返し押して、「設定」を選び、⊕または→を押す。

設定メニューのリストがテレビ画面に表示されます。

3 ↑/↓をくり返し押して、「Surround」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓をくり返し押して、「SB Dec Mode」を選び、⊕を押す。



サラウンド効果を楽しむ

つづく

5 ↑/↓ をくり返し押して、サラウンドバックデコーディング機能を選び、⊕を押す。



サラウンドバックデコーディング機能の種類を選ぶ（SB Decoding）

■SB Decoding

• AUTO

入力ストリームに6.1チャンネルを示すフラグ[a]があるとき、以下のデコード処理をします。

入力ストリーム	出力チャンネル	サラウンドバックデコード処理
ドルビーデジタル5.1	5.1	—
ドルビーデジタルサラウンドEX[b]	6.1[e]	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
DTS 5.1	5.1	—
DTS-ES マトリックス6.1[c]	6.1[e]	DTSマトリックスデコード処理
DTS-ES ディスクリート6.1[d]	6.1[e]	DTSディスクリートデコード処理

[a] DVD などのソフトに書き込まれている情報です。

[b] サラウンド EX フラグが書き込まれている、ドルビーデジタルの DVD です。ドルビー社のホームページなどで、サラウンド EX 映画を判別することができます。

[c] 5.1 チャンネルの信号とともに、DTS-ES マトリックス信号であることを示すフラグが書き込まれています。

[d] 5.1 チャンネルの信号とともに、これをディスクリート 6.1 チャンネルに戻すための拡張ストリームが記録されています。ディスクリート 6.1 チャンネル信号は、映画館では使用されない DVD 専用の信号です。

[e] サラウンドバックスピーカーを 2 本つないでいるときは、7.1 チャンネルになります。

• 「ON」

入力ストリーム5.1チャンネル、6.1チャンネルの信号に対してSB Dec Modeで設定されたデコード処理を行います。

• 「OFF」

サラウンドバック信号はデコードされません。

■SB Dec Mode

「SB Decoding」の設定で「ON」または「AUTO」を選び、入力ストリームに6.1チャンネルを示すフラグがあるとき、さらに下記のサラウンドバックデコーディングモードを選べます。

サラウンドバックデコーディングモード	スピーカー設定	サラウンドバックデコード処理
「DDEX」	7.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
	6.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
「PLIIx MV」	7.1ch	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理
	6.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
「PLIIx MS」	7.1ch	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理
	6.1ch	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理

ご注意

- SB Decoding は、以下の場合は機能しません。
  – マルチチャンネル入力を選んでいる。
  – 映画用または音楽用サウンドフィールドが選ばれている。
- サンプリング周波数が 48 kHz より高い信号を受信中にサラウンドバックデコード処理を行うと、強制的に 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。
- DTS 96/24 信号受信中にサラウンドバックデコード処理を行うと、強制的に 48 kHz で再生されます。
- パッケージにドルビーデジタルサラウンド EX のロゴが記載されていても、フラグが書き込まれていないディスクがあります。サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合は、「ON」を選んでください。
- A.F.D. モードで「PLIIx」を選んでいるときは、SB Decoding の設定に関わらず、PLIIx デコード処理されます。
- PLIIx MS モードを選んでも、下記の場合は、通常時とデコード処理が異なります。スピーカー設定が 6.1ch のときは、ドルビーデジタル EX のマトリックスデコード処理が行われ、スピーカー設定が 7.1ch のときは、ドルビープロロジック IIx ムービー処理が行われます。
  – ドルビーデジタルサラウンド EX 信号が入力されている。
  – SB Decoding が「AUTO」に設定されている。

ちょっと一言

Surround メニューの「SB Decoding」からサラウンドバックデコーディング機能を選べます。

小音量でサラウンド効果を楽しむ

（NIGHT MODE）

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。
例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。



1 AMP を押す。
本機の操作ができるようになります。

2 NIGHT MODE を押す。
NIGHT MODE機能が働きます。
NIGHT MODEを押すたびに、オンとオフが切り換わります。

ご注意
- NIGHT MODE は、以下の場合は機能しません。
  – マルチチャンネル入力を選んでいる。
  – サンプリング周波数が 96 kHz より高い Dolby TrueHD 信号を受信している。
- サンプリング周波数が 96 kHz より高い信号を受信中に NIGHT MODE 機能が働いていると、強制的に 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。

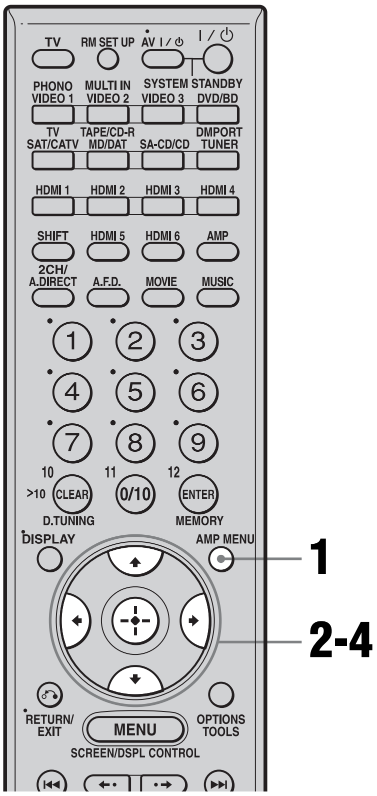
ちょっと一言
NIGHT MODE 機能が働いていると、Bass、Treble、Effect Level が上がり、「D.Range.Comp」が「MAX」になります。

スピーカーのより細かい設定をする

マニュアルでスピーカー設定をする

それぞれのスピーカーをマニュアルで設定できます。自動音場補正完了後にもスピーカーレベルを調節できます。

Manual Setupメニューを使う



1 AMP MENU を押し、テレビ画面に GUI メニューを表示する。

「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）の手順を行ってください。

2 ↑/↓ をくり返し押して、「設定」を選び、⊕または → を押す。

設定メニューのリストがテレビ画面に表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「Speaker」を選び、⊕を押す。

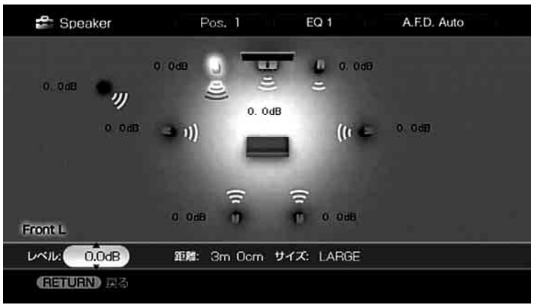
4 ↑/↓ をくり返し押して、「Manual Setup」を選び、⊕を押す。



Manual Setupメニューの設定項目

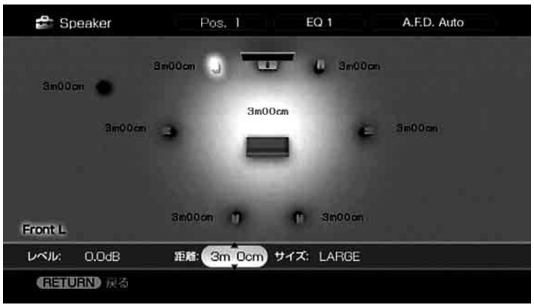
■レベル

各スピーカー（センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、サブウーファー）のレベルを、調節できます。−20 dBから＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。
フロントスピーカーの左右のバランスを調節できます。フロント左のレベルをFL−10.0 dBからFL＋10.0 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。フロント右のレベルをFR−10.0 dBからFR＋10.0 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。



■距離

各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、サブウーファー）のリスニングポジションからスピーカーまでの距離を、調節できます。
1.0〜10.0 mの範囲で、1 cm単位で設定できます。



■サイズ

各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、サブウーファー）のサイズを設定できます。



- LARGE

低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。

- SMALL

マルチチャンネルサラウンド音声の音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。サラウンドスピーカーの低域成分は、サブウーファーまたは「LARGE」に設定した他のスピーカーから再生されます。

ご注意

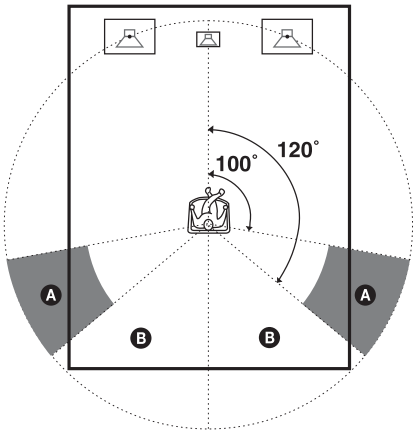
音楽用サウンドフィールドですべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、サブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号にL.F.E. 信号が含まれているときや、フロント、サラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているとき、映画用サウンドフィールドを選んでいるとき、「Portable Audio」を選んでいるときは、サブウーファーから音が出ます。

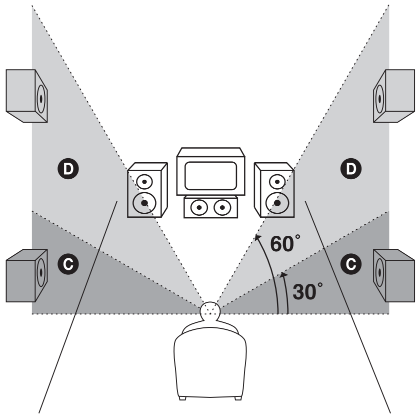
ちょっと一言

- 各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。「SMALL」でカットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。
  しかし、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「SMALL」に設定します。
  全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「LARGE」に設定し、低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることをおすすめします。イコライザーの設定については68 ページをご覧ください。
- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を「SMALL」にすると、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーも自動的に「SMALL」に設定されます。
- サブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「LARGE」に設定されます。

■位置

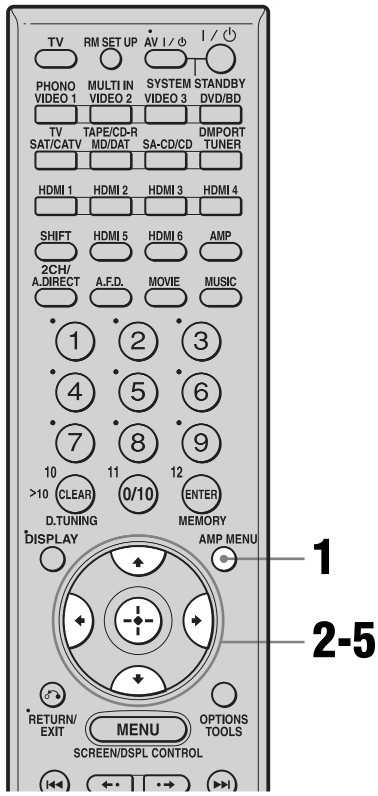
シネマスタジオEXモードによるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの位置を設定します。サラウンドスピーカーをつないでいないときは設定できません。





- SIDE/LOW
  サラウンドスピーカーの位置がⒶかつⒸの範囲にあるときに選びます。
- SIDE/HIGH
  サラウンドスピーカの位置がⒶかつⒹの範囲にあるときに選びます。
- BEHD/LOW
  サラウンドスピーカーの位置がⒷかつⒸの範囲にあるときに選びます。
- BEHD/HIGH
  サラウンドスピーカーの位置がⒷかつⒹの範囲にあるときに選びます。

スピーカーパターンを選ぶ



1 **AMP MENU を押し、テレビ画面に GUI メニューを表示する。**

「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）の手順を行ってください。

2 **↑/↓ をくり返し押して、「設定」を選び、⊕または → を押す。**

設定メニューのリストがテレビ画面に表示されます。

ちょっと一言

サラウンドスピーカーの位置は、シネマスタジオ EX モード専用の設定です。
通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置はそれほど重要ではありません。基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、角度が相当開いていても効果が比較的薄れません。しかしスピーカーを耳の真横に置くと効果がはっきりしなくなるため、「SIDE」を用意しました。
ただし、リスニング環境には壁の反射も含まれるため、スピーカーの位置が高いときは、サラウンドスピーカーがほぼ真横にあっても「BEHD」に設定したほうがよい場合があります。
実際に設定し、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりのよいほうを選んでください。迷ったら「BEHD」に設定し、距離や音量を調節してよりよい広がり感になるようにしてください。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「Speaker」を選び、⊕を押す。

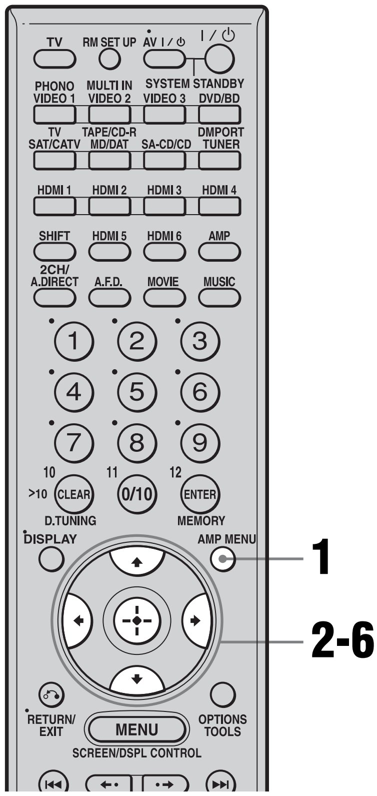
4 ↑/↓ をくり返し押して、「Speaker Pattern」を選び、⊕を押す。

お使いのシステムによって「Speaker Pattern」を選びます。自動音場補正後はスピーカーパターンを選ぶ必要はありません。

5 ↑/↓ をくり返し押して、お好みのスピーカーパターンを選ぶ。



テストトーンを使う



1 AMP MENU を押し、テレビ画面に GUI メニューを表示する。

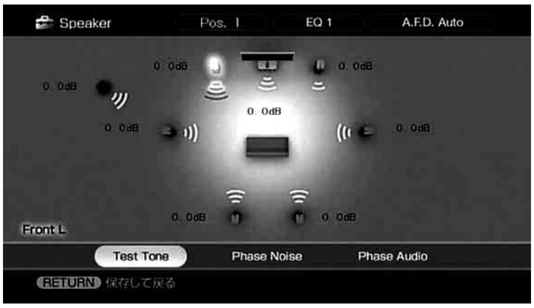
「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）の手順を行ってください。

2 ↑/↓ をくり返し押して、「設定」を選び、⊕または → を押す。

設定メニューのリストがテレビ画面に表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「Speaker」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、「Test Tone」を選び、⊕を押す。



テストトーンのタイプを選びます。

5 調整したいスピーカーを選び、⊕を押す。

各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。

6 ↑/↓ でパラメータを調節し、⊕を押す。

テストトーンが何も聞こえないときは

- スピーカーコードが確実につながれていない場合があります。コードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように、確実につないでください。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。別紙のスピーカー接続のご注意をご覧ください。

テストトーンが表示窓に表示されているスピーカーと異なるスピーカーから出るときは

接続したスピーカーと設定したスピーカーパターンが間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンをもう一度確認してください。

Test Toneメニュー設定項目

■Test Tone

- OFF
- AUTO

テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り換わります。

- L、C、R、SR、SBR、SBL、SL、SW

テストトーンを出すスピーカーを選ぶことができます。

■Phase Noise

- OFF
- L/R、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SR/SB、SBL/SL、SB/SL、SL/L、L/SR

2つのスピーカーから順番に、テストトーンを出します。

スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

■Phase Audio

- OFF
- L/R、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SR/SB、SBL/SL、SB/SL、SL/L、L/SR

2つのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出します。スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

ちょっと一言

すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、MASTER VOL ＋ / －で調節します。

Speakerメニューのその他の設定項目

■Center Mix

• OFF

センタースピーカーをつないでいるときは、自動的に「OFF」に設定されます。

• ON

センタースピーカーがないときに、デジタル音声を高音質で聞きたい場合は、「ON」をおすすめします。
「ON」に設定されると、アナログダウンミックス機能が働きます。この設定はMULTI CHANNEL INPUT端子からの入力信号にも働きます。

■Sur Back Assign

• OFF

サラウンドバックスピーカーをつながない場合に選びます。

• BI-AMP

フロントスピーカーのバイアンプ接続をするときに選びます。

■Crossover Freq

Speakerメニューで「SMALL」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。自動音場測定後は、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が各スピーカーに設定されます。
自動音場測定後に、「Crossover Freq」でスピーカーのクロスオーバー周波数を調節した場合は、調節した値が各スピーカーに設定されます。

■Multi Ch SW Level

MULTI CHANNEL INPUT端子のサブウーファーのレベルを10 dB上げることができます。DVDプレーヤーのサブウーファーレベルはスーパーオーディオCDよりも10 dB低いため、DVDプレーヤーをMULTI CHANNEL INPUT端子につないだときは、この設定でサブウーファーレベルを10 dB上げると効果的な場合があります。

■D.Range.Comp

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

• OFF

ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

• STD

レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

• MAX

ダイナミックレンジを極端に狭くします。

■Distance Unit

スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。

• meter

メートル表示に切り換えます。

• feet

フィート表示に切り換えます。

ご注意

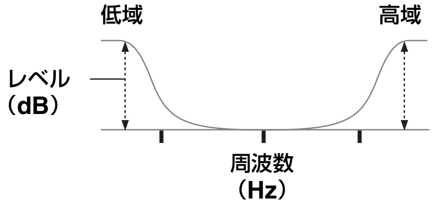
バイアンプ接続からサラウンドバックスピーカー接続に切り換えたいときに「Sur Back Assign」を「OFF」に設定してからサラウンドバックスピーカーをつなぎます。サラウンドバックスピーカーをつないでから、スピーカーの設定をやりなおします。
自動音場補正機能（37 ページ）とマニュアル設定（62 ページ）を参照してください。

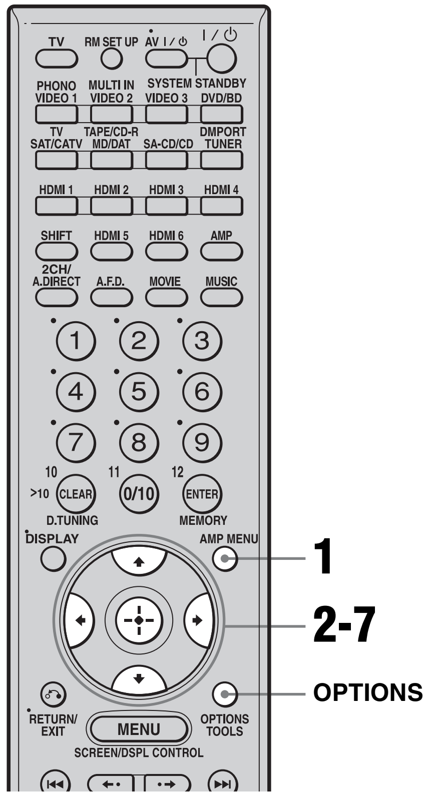
ちょっと一言

「D.Range.Comp」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。
「STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

イコライザー（低域／高域のレベル）を調節する

下記のパラメータを使って、すべてのスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。5つまでの異なるイコライザー設定を登録し、呼び出すことができます。設定は全てのサウンドフィールド（サラウンド効果）と各スピーカーに適応されます。





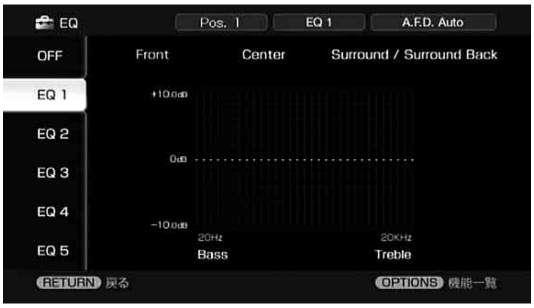
1 **AMP MENU を押し、テレビ画面に GUI メニューを表示する。**

「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）の手順を行ってください。

2 **↑/↓ をくり返し押して、「設定」を選び、⊕または → を押す。**

設定メニューのリストがテレビ画面に表示されます。

3 **↑/↓をくり返し押して、「EQ」を選び、⊕を押す。**



4 **↑/↓ をくり返し押して、保存したいイコライザーの登録番号を選び、⊕を押す。**

イコライザーの調節画面が表示されます。

5 **←/→ を使って、調節したいスピーカーを選び、⊕を押す。**

6 **←/→ をくり返し押して、「Bass」または「Treble」を選び、↑/↓ でパラメータを調節する。**

7 **⊕を押して確定する。**

ご注意

- イコライザー機能は以下の場合、機能しません。
  - マルチチャンネル入力が選ばれている。
  - サンプリング周波数が 96 kHz より高い Dolby TrueHD 信号を受信している。
  - サウンドフィールドに「2ch Analog Direct」を選んでいる。
- サンプリング周波数が 96 kHz より高い信号を受信中にイコライザーを調節すると、強制的に 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。

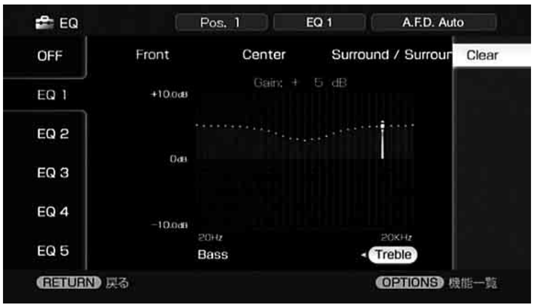
ちょっと一言

スピーカーの低域レベルと高域レベルは、本体の TONE MODE、TONE つまみでも調節できます。

イコライザーをお買い上げ時の設定に戻すには

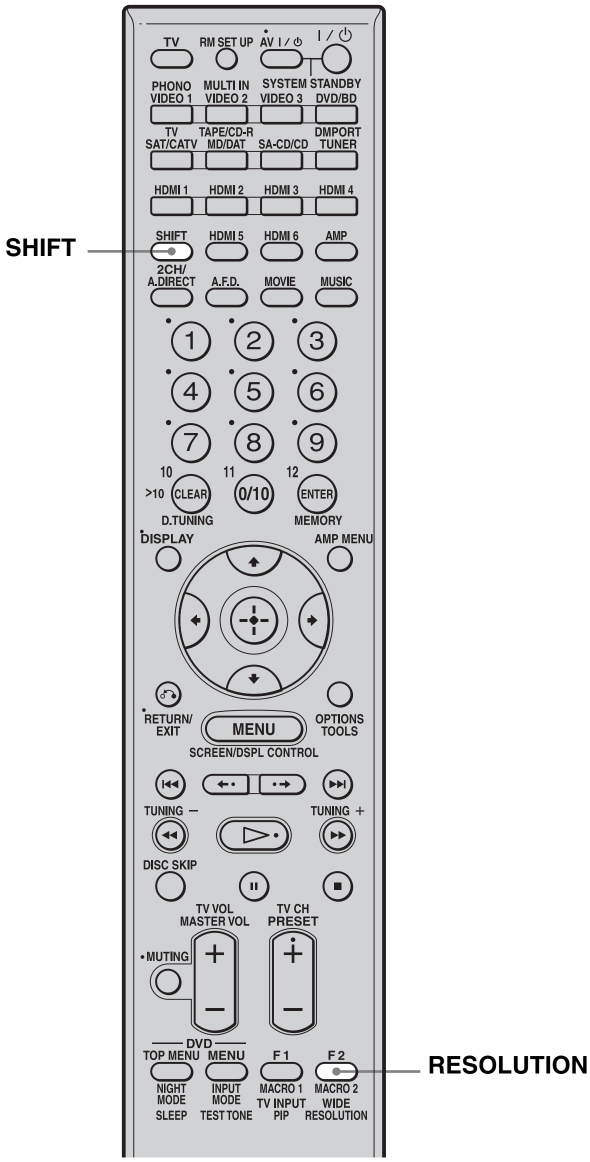
1 OPTIONSを押して、⊕を押す。
「イコライザの設定をクリアしますか？」と表示されます。

2 ←/→をくり返し押して、「はい」を選び、⊕を押す。



アナログ映像信号を変換する

アナログ映像信号の解像度を変換します。



SHIFT を押して、RESOLUTION をくり返し押します。

RESOLUTIONを押すたびに、出力される信号の解像度が切り換わります。
Videoメニューの「Resolution」でも解像度を設定できます。

デジタルメディアポートアダプターを使う

デジタルメディアポートアダプターでポータブルオーディオなどからの音源を楽しめます。デジタルメディアポートアダプターとつなぐと、本機につないだ機器からの音楽を楽しめます。
デジタルメディアポートの接続について詳しくは、「デジタル音声出入力端子のある機器」（17ページ）をご覧ください。

デジタルメディアポートアダプターは、今後発売を予定しています。

デジタルメディアポートメッセージ一覧

メッセージ	説明
No Adapter	アダプター未接続です。
No Device	デバイス未接続です。
Loading	データ読み込み中です。

ご注意

- 本機をデジタルメディアポートアダプター以外につながないでください。
- リモコンで本機の電源を切ってからデジタルメディアポートアダプターをはずしてください。
- 電源が入っている状態で、本機にデジタルメディアポートアダプターをつないだり、はずしたりしないでください。

入力に名前を付ける

入力に8文字までの名前を付けて、表示できます。
機器名を付けると、どの端子に何の機器をつないだかがわかり、便利です。



1 名前をつけたい項目を選ぶ。

下記の項目に名前がつけられます。
- 自動音場補正のポジション（37ページ）
- 入力（44ページ）

2 OPTIONS を押す。

3 「Name Input」を選んで、⊕を押す。

ソフトキーボードが表示されます。



4 ↑/↓/←/→ で文字を選んで、⊕を押す。

5 「入力完了」を押して、入力を確定する。

入力した名前が保存されます。

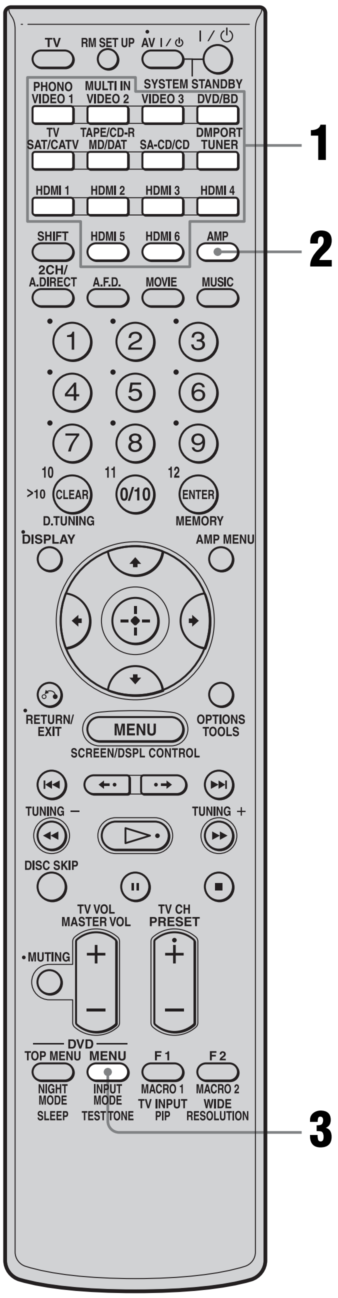
名前の入力をキャンセルするには

「キャンセル」を押します。

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

（INPUT MODE）

本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。



1 入力切り換え用のボタンを押す。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 AMP を押す。

3 INPUT MODE をくり返し押して、音声入力モードを選ぶ。

本機の表示窓に、選んだ音声入力モードが表示されます。

音声入力モード

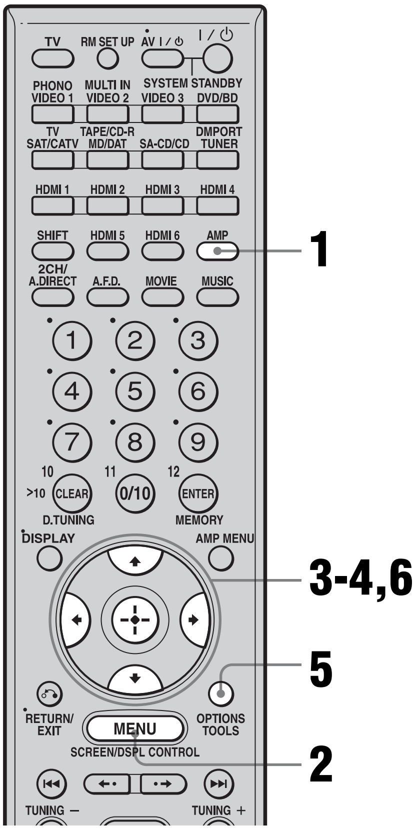
- Auto
  デジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。
  デジタル音声入力がない場合は、アナログ音声入力が選ばれます。
- Analog
  AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

ご注意

- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。
- HDMI 入力、デジタルメディアポートを選んでいるときは、「------」と表示され、他の項目は選べません。HDMI、デジタルメディアポート以外の入力を選んでください。
- アナログダイレクト機能を使っているときや MULTI CHANNEL 入力を選んでいるときは、音声入力モードは「Analog」に設定されます。他のモードは選べません。

他の入力からの音声／映像を楽しむ

映像や音声信号を他の入力に割り当てることができます。
例：DVDプレーヤーから光デジタル音声信号のみを入力したいときは、DVDプレーヤーのOPTICAL OUT端子を本機のOPTICAL VIDEO IN端子につなぎます。DVDプレーヤーから映像信号を入力したいときは、DVDプレーヤーのコンポーネント映像端子を本機のCOMPONENT VIDEO DVD/BD IN端子につなぎます。
外部入力メニューの「Input Assign」を使ってDVD/BD入力端子の入力に映像と音声を割り当てます。



1 AMP を押す。
「GUI MODE」と表示窓に表示されていないときは、「準備6：GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作する」（32ページ）の手順を行ってください。

2 MENU をくり返し押して、テレビ画面にGUI メニューを表示する。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「外部入力」を選び、⊕または → を押す。

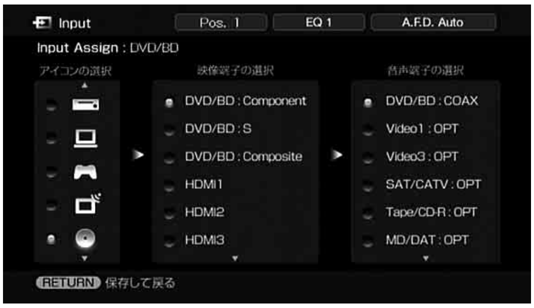


4 ↑/↓ を押して、入力を割り当てたい入力名を選ぶ。

5 OPTIONS を押して、「Input Assign」を選ぶ。



6 手順 4 で選んだ入力に割り当てたい音声、映像信号を ↑/↓/←/→ を使って選び、⊕を押す。



入力名		VIDEO 1	VIDEO 2	VIDEO 3	DVD/ BD	SAT/ CATV	TAPE/ CD-R	MD/ DAT	SA- CD/CD	Tuner	MULTI IN	HDMI 1~6
割り当て可能な映像入力端子	Video1 Component	○	○	○	–	–	○	○	○	○	○	○*
	Video1 S	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	Video1 Composite	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	Video2 S	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	Video2 Composite	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	Video3 S	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–
	Video3 Composite	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–
	DVD/BD Component	–	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○*
	DVD/BD S	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–
	DVD/BD Composite	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–
	SAT/CATV Component	–	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○*
	SAT/CATV S	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–
	SAT/CATV Composite	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–
	HDMI1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	HDMI2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	HDMI3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	HDMI4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	HDMI5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	HDMI6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
割り当て可能な音声入力端子	Video1 OPT	○	○	–	○	–	–	–	○	○	–	–
	Video3 OPT	–	○	○	○	–	–	–	○	○	–	–
	SAT/CATV OPT	–	○	–	○	○	–	–	○	○	–	–
	Tape/CD-R OPT	–	○	–	○	–	○	–	○	○	–	–
	MD/DAT OPT	–	○	–	○	–	–	○	○	○	–	–
	Video2 COAX	○	○	○	–	○	○	○	–	○	–	–
	DVD/BD COAX	○	–	○	○	○	○	○	–	○	–	–
	SA-CD/CD COAX	○	–	○	–	○	○	○	○	○	–	–

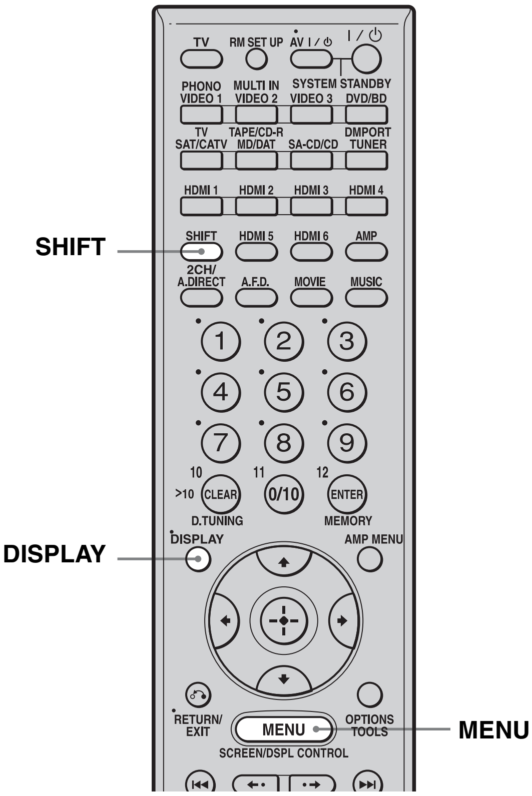
＊HDMI 入力にコンポーネント映像を割り当てても、入力されたコンポーネント映像信号は HDMI 映像信号に変換されず、HDMI OUT 端子からは出力されません。COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。そのときの GUI 出力の解像度は、コンポーネント映像、HDMI 映像ともに 525p（480p）になります。

ご注意

- 初期設定ですでに光デジタル端子（OPT）が割り当てられている入力には、他の光デジタル入力を割り当てることはできません。また、初期設定で同軸端子（COAX）が割り当てられている入力には、他の同軸入力を割り当てることはできません。
- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODE（72 ページ）の設定が変わることがあります。
- 同じ入力に複数の HDMI 入力を同時に割り当てることはできません。
- 同じ入力に複数のデジタル音声入力を同時に割り当てることはできません。
- 同じ入力に複数のコンポーネント映像入力を同時に割り当てることはできません。
- HDMI 入力にコンポーネント映像を割り当てる場合は、「HDMI Control」の設定を「OFF」にしてください。

表示を切り換える

表示窓の表示を切り換えて、サウンドフィールドの情報などを確認できます。



DISPLAY をくり返し押す。

DISPLAYを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

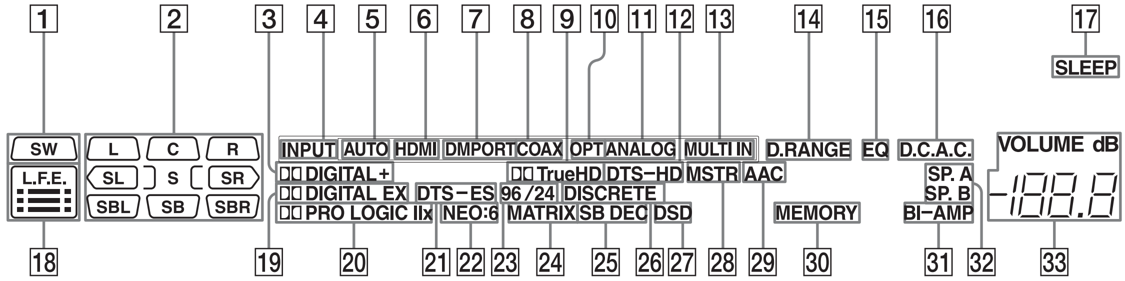
登録した名前 → 入力端子名 → サウンドフィールド名 → ボリューム → 登録した名前

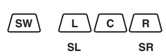
ちょっと一言

表示窓に「GUI MODE」と表示されているときは表示を切り換えられません。SHIFT を押してから MENU を押して、GUI 表示モードをキャンセルしてください。

つづく

表示窓に点灯する項目と働き



名称	働き
1 SW	サブウーファーをつないでいる場合、音声信号がSUB WOOFER端子から出力されているときに点灯します。この表示が点灯しているときは、入力信号のL.F.E.信号またはスピーカーの低域成分をもとに、サブウーファーから音声を出力しています。
2 **再生チャンネル表示**	現在本機が出力しているチャンネルを表示します。 文字（L、C、Rなど）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。
L	フロント左
R	フロント右
C	センター（モノラル）
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
S	サラウンド（モノラル／プロロジック処理されたサラウンド成分）
SBL	サラウンドバック左
SBR	サラウンドバック右
SB	サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンドバック成分） 例：記録形式（フロント／サラウンド）：3/2.1 再生チャンネル：サラウンドスピーカーなし サウンドフィールド：A.F.D. AUTO 
3 DDDigital+	Dolby Digital＋信号をデコードしているときに点灯します。
4 INPUT	現在の入力ランプとともに常に点灯します。
5 AUTO	INPUT MODEが「Auto」に設定されているときに点灯します。
6 HDMI	HDMI IN端子につないだ機器が認識されているときに点灯します。

名称	働き
7 DMPORT	デジタルメディアポートアダプターをつないで、入力に「DMPORT」を選んでいるときに点灯します。
8 COAX	INPUT MODEを「Auto」に設定していて、デジタル信号がCOAXIAL端子から入力されているときに点灯します。
9 DDTrueHD	Dolby TrueHD信号をデコードしているときに点灯します。
10 OPT	INPUT MODEを「Auto」に設定していて、デジタル信号がOPTICAL端子から入力されているときに点灯します。
11 ANALOG	INPUT MODEを「Auto」に設定していて、COAXIALまたはOPTICAL端子に信号が入力されていないとき、またはINPUT MODEが「Analog」に設定されているとき、またはアナログダイレクト機能を使用しているときに点灯します。
12 DTS-HD	DTS-HD信号をデコードしているときに点灯します。
13 MULTI IN	マルチチャンネル入力が選ばれているときに点灯します。
14 D.RANGE	ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します。
15 EQ	イコライザーが働いているときに点灯します。
16 D.C.A.C.	自動音場補正機能が働いているときに点灯します。
17 SLEEP	スリープタイマーが働いているときに点灯します。
18 L.F.E.	入力信号にL.F.E.（重低音効果）のチャンネルが存在しているときに「L.F.E.」の文字が点灯します。また、実際にL.F.E.信号の音が再生されているときには、文字の下のバーが信号のレベルに応じて点灯します。L.F.E.信号は、すべての部分に記録されているとは限らないため、多くの場合、バーは点灯と消灯をくり返します。

名称	働き
⑲ DDDIGITAL (EX)	ドルビーデジタルサラウンド信号をデコードしているときに点灯します。ドルビー EXデコードしているときに「EX」も点灯します。 ドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「Analog」になっていないことを確認してください。
⑳ DDPRO LOGIC (II/IIx)	2チャンネル信号をプロロジック処理し、センターやサラウンドチャンネルの信号を出力しているときに点灯します。ドルビープロロジックIIのムービー／ミュージック／ゲームモード処理を行っているときに「DDPRO LOGIC II」と点灯します。また、ドルビープロロジックIIxのムービー／ミュージック／ゲームモード処理を行っているときに「DDPRO LOGIC IIx」と点灯します。
㉑ DTS（-ES）	DTS信号を入力しているときに点灯します。DTS-ESデコードしているときに「-ES」も点灯します。 DTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「Analog」になっていないことを確認してください。
㉒ NEO:6	DTS-ES Neo:6のシネマ／ミュージック処理を行っているときに点灯します。
㉓ 96/24	DTS 96 kHz/24ビット信号をデコードしているときに点灯します。
㉔ MATRIX	DTS-ES Matrix信号をデコードしているときに点灯します。
㉕ SB DEC	サラウンドバック音声をデコードしているときに点灯します。
㉖ DISCRETE	DTS-ES Discrete信号をデコードしているときに点灯します。
㉗ DSD	DSD（Direct Stream Digital）信号を受信しているときに点灯します。
㉘ MSTR	DTS-HD Master Audio信号をデコードしているときに点灯します。
㉙ AAC	MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。
㉚ MEMORY	Name Inputなどの、メモリー機能が働いているときに点灯します（71ページ）。
㉛ BI-AMP	サラウンドバックスピーカーの設定を「BI-AMP」に設定しているときに点灯します。

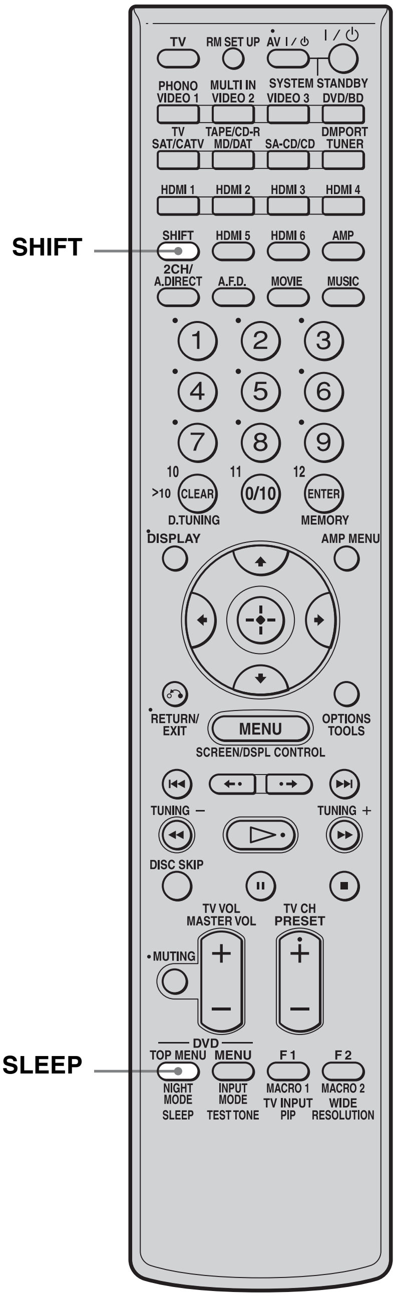
名称	働き
㉜ SP.A/SP.B	使用しているスピーカーシステムを表示します。スピーカースイッチをOFFに設定しているとき、またはヘッドホンをつないでいるときは消灯します。
㉝ VOLUME	現在の音量を表示します。

ご注意

- DDPRO LOGIC（II/IIx）は、センタースピーカーとサラウンドスピーカーの両方がつながれていないときは点灯しません。
- MPEG-2 AAC は、アルゴリズム：（LC（Low Complexity））にのみ対応しています。

スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。



SHIFT を押して､SLEEP をくり返し押す。

SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

→2:00:00→1:30:00→1:00:00→0:30:00→OFF

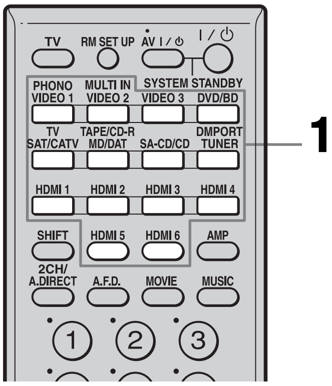
スリープタイマーが働いているあいだは表示窓の「SLEEP」が点灯します。

ちょっと一言

スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、SLEEP を押します。表示窓に残り時間が表示されます。
もう一度 SLEEP を押すと、スリープタイマーの設定が変わります。

他機を使って録音／録画する

本機を使ってオーディオ／映像機器から録音／録画ができます。お手持ちの録音／録画機器の取扱説明書もご覧ください。



カセットテープやミニディスクに録音する

本機を使ってカセットテープまたはミニディスクに録音できます。お手持ちのMDデッキまたはカセットデッキの取扱説明書もご覧ください。

1 **再生機器を接続した入力の入力切り換え用のボタンを押す。**

2 **再生機器を準備する。**

例：CDプレーヤーにディスクを入れる。

3 **録音機器を準備する。**

ミニディスクまたはカセットテープを入れ、録音レベルを調節する。

4 **録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。**

デジタル音声を録音するには

再生機器をデジタル音声入力（OPTICAL IN）端子につなぎ、録音機器をOPTICAL MD/DAT OUT端子につないでください。

録画する

1 **再生機器を接続した入力の入力切り換え用のボタンを押す。**

2 **再生機器の準備をする。**

例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

3 **録画機器の準備をする。**

（VIDEO 1またはVIDEO 2につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。

4 **録画機器側で録画を開始し、再生機器側で再生する。**

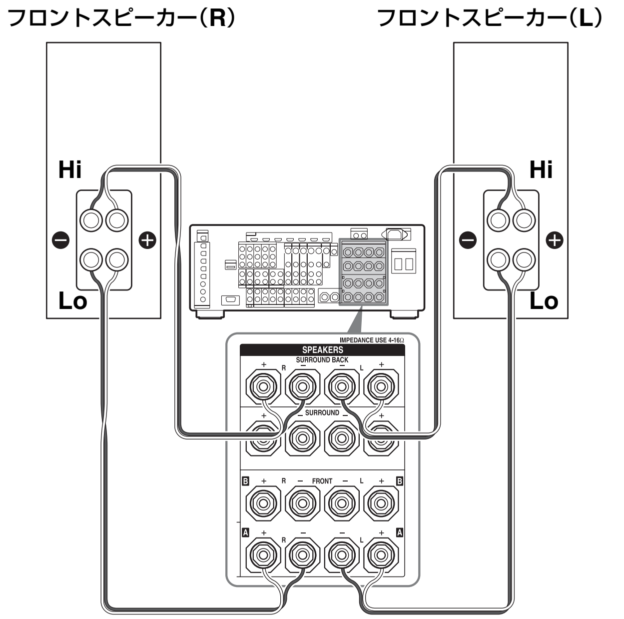
ご注意

- 録画防止機能のあるソースは録画できません。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子から入力された音声信号は出力されません。
- アナログ出力端子（録音用）からは、アナログ入力信号のみ出力されます。
- デジタル出力端子（録音用）からはデジタル入力信号のみ出力されます。
- HDMI 音声は録音できません。

バイアンプ接続する

サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、SURROUND BACK SPEAKERS端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用に使用することができます。

接続する



フロントスピーカーのLo（またはHi）側を本機のFRONT SPEAKERS A端子に、フロントスピーカーのHi（またはLo）側を本機のSURROUND BACK SPEAKERS端子につなぎます。
このとき、スピーカーに付属されているHi/Loのショート金具は必ず外してください。本機の故障の原因となります。

設定する

Speakerメニューの「Sur Back Assign」を「BI-AMP」に設定してください（67ページ）。「BI-AMP」に設定することで、FRONT SPEAKERS A端子と同じ信号がSURROUND BACK SPEAKERS 端子からも出力されるようになります。

テレビをつながずに本機を操作する

本機をテレビにつないでいない場合、GUIを使わずに本機の表示窓の表示で操作を確認することができます。

SHIFT と MENU を押して、表示窓に「DISPLAY」と表示させる。

表示窓に「GUI MODE」と表示されている場合、本機のメニューはGUIがテレビ画面に表示される設定になっています。

ご注意

- FRONT SPEAKERS B 端子を使ってバイアンプ接続することはできません。
- 自動音場補正機能を使う場合は、その前にバイアンプの設定をしてください。
- バイアンプの設定後は、サラウンドバックスピーカーのレベル、バランス、EQ などの設定は無効となり、フロントスピーカーの設定が反映されます。
- PRE OUT 端子から出力される信号は SPEAKERS 端子と同じ設定になります。

メニュー一覧

各メニューから以下のオプションが設定できます。メニュー操作について詳しくは、33ページをご覧ください。

メニュー	項目	設定値	初期値
Auto Calibration	AUTO CAL START?		
	COMPLETE [■■■■■■■■■■■]	RETRY、SAVE EXIT、WRN CHECK、PHASE INFO、DIST. INFO、LEVEL INFO、EXIT	SAVE EXIT
	WARNING CODE [■■■:4■]	FL、FR、C、SL、SR、SBL、SBR：0、1、2、3、4	
	ERROR CODE [■■■:3■]	F、SR、SB：0、1、2、3、4	
	CAL TYPE [■■■■■■■■■■]	FULL FLAT、ENGINEER、FRONT REF、OFF	FULL FLAT
	FRONT REF TYPE [■■■]	L/R、L、R	L/R
	SP PAIR MATCH [■■■]	ALL、SUR、OFF	ALL
	POSITION [■■■■■■■■■]	POS.1、POS.2、POS.3	POS.1
	NAME IN ? [■■■■■■■■■]		
Level Settings	TEST TONE [■■■■■■■■■]	OFF、L～SW（AUTO）、L～SW（FIX）	OFF
	PHASE NOISE [■■■■■■■■]	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SBL/SL、SL/L、L/SR	OFF
	PHASE AUDIO [■■■■■■■■]	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SBL/SL、SL/L、L/SR	OFF
	FRONT L [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	FRONT R [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	CENTER [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SURROUND L [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SURROUND R [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SUR BACK [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SUR BACK L [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SUR BACK R [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SUB WOOFER [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	MULTI CH SW [■■■ dB]	0dB、+10dB	0dB
	D. RANGE COMP. [■■■]	OFF、STD、MAX	OFF

つづく

メニュー	項目	設定値	初期値
Speaker Settings	SP PATTERN [■■■■■]	2/0～3/4.1	3/4.1
	SUB WOOFER [■■■]	NO、YES	YES
	FRONT SP [■■■■■]	SMALL、LARGE	LARGE
	CENTER SP [■■■■■]	NO、SMALL、LARGE	LARGE
	SURROUND SP [■■■■■]	NO、SMALL、LARGE	LARGE
	SUR BACK SP [■■■■■■]	NO、SINGLE、DUAL	DUAL
	BI-AMP [■■■]	OFF、ON	OFF
	ZONE2 SP [■■■]	OFF、ON	OFF
	FRONT L [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	FRONT R [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	CENTER [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SURROUND L [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SURROUND R [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SUR BACK [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SUR BACK L [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SUR BACK R [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SUB WOOFER [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	DISTANCE UNIT [■■■■■]	meter、feet	meter
	SP POSI. [■■■■■■■■■■]	SIDE/LOW、SIDE/HIGH、BEHD/LOW、BEHD/HIGH	SIDE/LOW
	FR CROSSOVER* [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）	120 Hz
	CNT CROSSOVER* [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）	120 Hz
	SUR CROSSOVER* [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）	120 Hz
	CNT A.DOWN MIX [■■■]	OFF、ON	OFF
	SP IMPEDANCE [■ ohm]	4 ohm、8 ohm	8 ohm
Sur Settings	SOUND FIELD SELECT ?		
	SB DECODING [■■■■]	OFF、AUTO、ON	AUTO
	SB DEC MODE [■■■■■■■■]	DDEX、PLIIx MV、PLIIx MS	PLIIx MV
	EFFECT LEVEL [■■■%]	20%～120%（5%単位）	100 %
	CENTER WIDTH [■]	0～7（1単位）	3
	DIMENSION [■■■■■■■■]	FRONT +3～0～SUR +3（1単位）	0
	PANORAMA MODE [■■■]	OFF、ON	OFF
	SCREEN DEPTH [■■■]	OFF、ON	ON
	VIR. SPEAKERS [■■■]	OFF、ON	ON
	FRONT REVERB [■■■]	WET、STD	STD
EQ Settings	EQ PRESET [■■■]	OFF、1、2、3、4、5	1
	FRONT BASS [■■■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB
	FRONT TREBLE [■■■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB
	CENTER BASS [■■■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB
	CENTER TREBLE [■■■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB
	SUR/SB BASS [■■■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB
	SUR/SB TREBLE [■■■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（1dB単位）	0dB
	PRESET ■ CLEAR [■■■]	YES、NO	NO

＊スピーカーが「LARGE」に設定されているときは、この項目は選べません。

メニュー	項目	設定値	初期値
Audio Settings	A/V SYNC [■■■ms]	0ms～300ms（10ms単位）	0ms
	DUAL MONO [■■■■■■■■■]	MAIN/SUB、MAIN、SUB、MAIN+SUB	MAIN
	DEC. PRIORITY [■■■■]	PCM、AUTO	AUTO
	DIGITAL ASSIGN ?		
	VIDEO1 OPT ➔ [■■■■■■]	NONE、VIDEO1～3、DVD/BD、SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD	VIDEO1
	VIDEO2 COAX ➔ [■■■■■■]		VIDEO2
	VIDEO3 OPT ➔ [■■■■■■]		VIDEO3
	DVD/BD COAX ➔ [■■■■■■]		DVD/BD
	SAT OPT ➔ [■■■■■■]		SAT
	TAPE OPT ➔ [■■■■■■]		TAPE
	MD/DAT OPT ➔ [■■■■■■]		MD
	SA-CD COAX ➔ [■■■■■■]		SA-CD
Video Settings	RESOLUTION [■■■■■■■■■]	DIRECT、AUTO、480/576i、480/576p、720p、1080i、1080p	AUTO
	COMPONENT V. ASSIGN ?		
	VIDEO 1 ➔ [■■■■■■■■■]	NONE、VIDEO1～3、DVD/BD、SAT/CATV、TAPE/CDR、MD/DAT、SA-CD/CD、MULTI IN、HDMI1～6**	VIDEO1
	DVD/BD ➔ [■■■■■■■■■]		DVD/BD
	SAT/CATV ➔ [■■■■■■■■■]		SAT/CATV
HDMI Settings	HDMI CONTROL [■■■]	OFF、ON	OFF
	HDMI AUDIO [■■■■■■]	AMP、TV+AMP	AMP
	HDMI SW [■■■ dB]	0dB、+10dB、AUTO	AUTO
	HDMI SW LPF [■■■■■]	AUTO、ON、OFF	AUTO
	HDMI VIDEO ASSIGN ?		
	HDMI 1 ➔ [■■■■■■■■■]	HDMI1～6、VIDEO1～3、DVD/BD、SAT/CATV、TAPE/CDR、MD/DAT、SA-CD/CD、MULTI IN	HDMI1
	HDMI 2 ➔ [■■■■■■■■■]		HDMI2
	HDMI 3 ➔ [■■■■■■■■■]		HDMI3
	HDMI 4 ➔ [■■■■■■■■■]		HDMI4
	HDMI 5 ➔ [■■■■■■■■■]		HDMI5
	HDMI 6 ➔ [■■■■■■■■■]		HDMI6
System Settings	NAME IN ? [■■■■■■■■■]		

＊＊「HDMI CONTROL」の設定が「ON」のときは、「HDMI1 ～ 6」は選べません。

つづく

自動でスピーカーを設定する（自動音場補正機能）

自動音場補正機能について詳しくは、「準備8：自動でスピーカーを設定する （自動音場補正機能）」（37ページ）をご覧ください。
自動音場補正機能を始める前に、「測定の準備をする」（37ページ）をご覧ください。

本機で操作するには

1 SHIFT を押してから、MENU を押して、「GUI MODE」から「DISPLAY MODE」に切り換える。

2 AMPを押す。
本機の操作が可能になります。

3 MENUを押す。
「Auto Calibration」画面が表示されます。

4 ⊕を押す。

5 ↑/↓をくり返し押して、「AUTO CAL START?」を選び、⊕を押して測定を開始する。
5秒後に測定を開始します。5秒から1秒までカウントダウンが表示されます。

6 測定が始まる。
測定時間は30秒です。測定が終了するまでお待ちください。

測定を中止するにはボリューム操作、消音機能、ファンクション切り換え、本体のスピーカースイッチの切り換え、ヘッドホンの接続をします。

GUI機能が働いていないときに測定結果を確認／保存する

1 測定結果を確認する。
測定が終わると終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

測定結果	表示	説明
正常に測定が終了したとき	COMPLETE	手順2へ進んでください。
正常に測定できなかったとき	ERROR CODE 3■	「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（42ページ）をご覧ください。

2 ↑/↓をくり返し押して、項目を選び、⊕を押す。
測定結果が保存されます。

項目	説明
RETRY	再測定します。
SAVE EXIT	測定した設定を保存し、終了します。
WRN CHECK	測定結果の注意事項を表示します。
PHASE INFO	各スピーカーの位相（正相／逆相）を表示します。「「PHASE INFO」を選んだときは」をご覧ください。
DIST.INFO	スピーカーの距離の測定結果を表示します。
LEVEL INFO	スピーカーのレベルの測定結果を表示します。
EXIT	測定した設定を保存しないで終了します。

3 ↑/↓をくり返し押して、補正タイプを選び、⊕を押す。

補正タイプ	説明
FULL FLAT	各スピーカーの周波数特性を平らにします。
ENGINEER	ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
FRONT REF	すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。
OFF	自動音場補正のイコライザーをオフにします。

ご注意
- カウントダウンしている間に、測定エラーを避けるために測定エリアの外側に出てください。
- サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの高さ情報は測定できません。Speaker メニューの「SP POSI.」で設定してください。

ちょっと一言
- 測定中に有効な操作は電源のオン／オフ操作のみです。そのほかの操作は無効です。
- ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーをつないでいる場合は、正しく測定できないことがあります。
- スピーカーのサイズ（LARGE/SMALL）は低域特性で判定します。測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、Speaker メニューで設定を変更することもできます。変更する場合は、測定結果を保存してから変更してください。

「PHASE INFO」を選んだときは

各スピーカーの位相（正相、逆相）を確認できます。

1 ↑/↓ をくり返し押してスピーカーを選び、⊕を押して「GUI 機能が働いていないときに測定結果を確認／保存する」の手順 1 に戻る。

表示	説明
IN	正相です。
OUT	逆相です。スピーカーの＋/－端子が逆に接続されている可能性があります。スピーカーによっては接続が正しくても表示される場合があります。スピーカーの仕様によるものですので、そのまま使って問題ありません。
- - -	スピーカーが接続されていません。

サウンドフィールド（サラウンド効果）を選ぶ

それぞれのサウンドフィールドタイプについて詳しくは、「サラウンド効果を楽しむ」（53ページ）をご覧ください。

2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE、または MUSIC をくり返し押す。

選んでいるサウンドフィールドタイプが表示窓に表示されます。
本体の2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE、または MUSICもご使用になれます。

音声を2チャンネルのアナログで聞く（ANALOG DIRECT）

2CH/A.DIRECT を押す。

本体の2CH/A.DIRECTもご使用になれます。

ちょっと一言
サブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

本機のリモコンで他機を操作する

お使いの機器に合わせて本機を設定すると、下表の●のついたボタンを使ってそれぞれの機器を操作できます。ただし、機器によってはボタンを押しても操作できないことがあります。
お使いの機器に合わせて入力リストのコンテンツを変更したいときは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（87ページ）をご覧ください。

接続機器を操作できる本機のリモコンのボタン

ボタン ＼ 選ばれている機器	テレビ	ビデオデッキ	DVDレコーダー／プレーヤー	ブルーレイディスクレコーダー	PSX	ビデオCDプレーヤー／LDプレーヤー	BSデジタル／デジタルCSチューナー	カセットデッキ（AとB）	DATデッキ	CDプレーヤー／MDデッキ	チューナー	アンプ	デジタルメディアポート機器
AV I/⏻、I/⏻（TVを押したあとに押す）	●	●	●	●	●	●	●		●	●			
数字ボタン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
MEMORY、ENTER	●	●	●	●	●	●*	●	●	●	●	●		
CLEAR、>10、D.TUNING	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		
DISPLAY	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	
OPTIONS/TOOLS	●		●		●							●	
RETURN/EXIT	●		●	●	●	●	●					●	●
↑/↓/←/→	●	●	●	●	●		●					●	●
⊕	●	●	●	●	●		●				●	●	●
MENU	●	●	●	●	●		●					●	●
⏮/⏭		●	●	●	●	●		●**	●	●			●
←·/·→			●	●									●
◀◀/▶▶、TUNING +/–		●	●	●	●	●		●	●	●	●		●
❚❚、■		●	●	●	●	●		●	●	●			●
▷	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●
DISK SKIP			●	●		●				●			●
MUTING、MASTER VOL +/–、TV VOL +/–											●	●	
PRESET +/–、TV CH +/–	●	●	●	●		●*					●		
DVD TOP MENU/NIGHT MODE/SLEEP、DVD MENU/INPUT MODE/TEST TONE			●	●	●							●	●
F1/MACRO1/TV INPUT/PIP	●		●	●								●	
F2/MACRO2/WIDE/RESOLUTION	●		●	●								●	●

＊LD プレーヤーのみ操作できます。
＊＊デッキ B のみ操作できます。

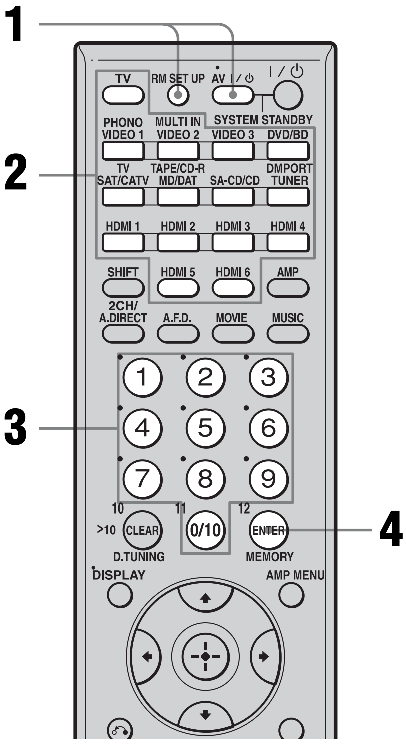
ご注意

DVD レコーダー／プレーヤーのコードは、初期設定ではソニー製 DVD レコーダーに設定されています。ソニー製 DVD プレーヤーを操作するには、コードを変更する必要があります。詳しくは、「お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する」（87 ページ）をご覧ください。

お使いの機器に合わせて本機をリモコンに登録する

本機につないだ機器を操作できるように本リモコンを設定できます。また、初期設定のままでは操作できないソニー製の機器も他社製の機器も設定できます。
例：本体後面のVIDEO 2 IN端子につないだ他社製のビデオデッキを、このリモコンで操作できるように設定するとき
設定の前に、以下についてご注意ください。

- PHONOの設定は変更できません。
- このリモコンで操作できるのは、赤外線コントロールを受け付ける機器のみです。



1 RM SET UPを押しながら、AV I/⏻を押す。

RM SET UPが点滅します。

2 RM SET UPが点滅している間に、入力切り換え用のボタン（TVを含む）を押して設定したい入力を選ぶ。

たとえば、VIDEO 2 IN端子につないだビデオデッキを操作したいときは、VIDEO 2を選びます。
RM SET UPと入力切り換え用のボタンが点滅します。
DMPORTなどプログラムできない入力を選んだ場合は、点滅を続けます。

3 数字ボタンを押して、機器とメーカー別の対応コードを入力する（コードが複数ある場合は、そのうちの1つを入力する）。

RM SET UPと入力切り換え用のボタンが点滅します。

4 ENTERを押す。

有効な対応コードが入力されると、RM SET UPが2回点滅し、設定モードが終了します。
入力切り換え用のボタンも消灯します。

設定操作を途中でやめるときは

手順の途中で、RM SET UPを押します。

機器・メーカー別の対応コード

以下の対応コードを使って他社製の機器や、初期設定のままでは操作できないソニー製機器を操作できるように設定します。それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、ひとつの機器に複数のコードが割り当てられている場合もあります。あるひとつのコードを使っても設定できない場合は、別のコードを使って設定してみてください。

CDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MAGNAVOX	111、116
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114

ご注意

- テレビの対応コードでは、500番台の番号のみ有効です。
- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいて決められています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- 操作する機器によっては、本機の特定のボタンが機能しなくなる場合があります。

ちょっと一言

RM SET UPを押すときは、先の細いもので押してください。

つづく

メーカー	コード
PANASONIC	115
PHILIPS	116
PIONEER	117
TECHNICS	115、118、119
YAMAHA	120、121、122

DATデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	203
PIONEER	219

MDデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	301
DENON	302
JVC	303
KENWOOD	304

カセットデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	201、202
DENON	204、205
KENWOOD	206、207、208、209
NAKAMICHI	210
PANASONIC	216
PHILIPS	211、212
PIONEER	213、214
TECHNICS	215、216
YAMAHA	217、218

LDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	601、602、603
PIONEER	606

ビデオCDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	605

ビデオデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	701、702、703、704、705、706
AIWA*	710、750、757、758
AKAI	707、708、709、759
BLAUPUNKT	740
EMERSON	711、712、713、714、715、716、750
FISHER	717、718、719、720
GENERAL ELECTRIC	721、722、730
GOLDSTAR/LG	723、753
GRUNDIG	724
HITACHI	722、725、729、741
ITT/NOKIA	717
JVC	726、727、728、736
MAGNAVOX	730、731、738
MITSUBISHI/MGA	732、733、734、735
NEC	736
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/PROSCAN	722、729、730、731、741、747
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TELEFUNKEN	751、752
TOSHIBA	747、756
ZENITH	754

＊アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

DVDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
BROKSONIC	424
DENON	405
HITACHI	416
JVC	415、423
MITSUBISHI	419
ORITRON	417
PANASONIC	406、408、425
PHILIPS	407
PIONEER	409、410
RCA	414
SAMSUNG	416、422
TOSHIBA	404、421
ZENITH	418、420

DVDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	403

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501
AIWA	536、539、501

メーカー	コード
AKAI	503
AOC	503
CENTURION	566
CORONADO	517
CURTIS-MATHES	503、551、566、567
DAYTRON	517、566
DAEWOO	504、505、506、507、515、544
FISHER	508、545
FUNAI	548
FUJITSU	528
GOLDSTAR/LG	503、512、515、517、534、544、556、568、578
GRUNDIG	511、533、534
HITACHI	503、513、514、515、517、519、544、557、571
ITT/NOKIA	521、522
J.C.PENNY	503、510、566
JVC	516、552
KMC	517
MAGNVOX	503、515、517、518、544、566
MARANTZ	527
MITSUBISHI/MGA	503、519、527、544、566、568
NEC	503、517、520、540、544、554、566
NORDMENDE	530、558
NOKIA	521、522、573、575
PANASONIC	509、524、553、559、572
PHILIPS	515、518、557、570、571
PHILCO	503、504、514、517、518
PIONEER	509、525、526、540、551、555
PORTLAND	503
QUASAR	509、535
RADIO SHACK	503、510、527、565、567
RCA/PROSCAN	503、510、523、529、544
SAMSUNG	503、515、517、531、532、534、544、556、557、562、563、566、569
SAMPO	566
SABA	530、537、547、549、558
SANYO	508、545、546、560、567
SCOTT	503、566
SEARS	503、508、510、517、518、551
SHARP	517、535、550、561、565、577
SYLVANIA	503、518、566
THOMSON	530、537、547、549
TOSHIBA	535、539、540、541、551
TELEFUNKEN	530、537、538、547、549、558
TEKNIKA	517、518、567
WARDS	503、517、566
YORK	566
ZENITH	542、543、567
GE	503、509、510、544
LOEWE	515、534、556

BSデジタルチューナー／デジタルCSチューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	801、802、803、804
AMSTRAD	845、846
BskyB	862
GENERAL ELECTRIC(GE)	866
GRUNDING	859、860
HUMAX	846、847
THOMSON	857、861、864、876
PACE	848、849、850、852、862、863、864
PANASONIC	818、855
PHILIPS	856、857、858、859、860、864、874
NOKIA	851、853、854、864
RCA/PROSCAN	866、871
HITACHI/BITA	868
HUGHES	867
JVC/Echostar/ Dish Network	873
MITSUBISHI	872
SAMSUNG	875
TOSHIBA	869、870

チューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	002、005

ブルーレイディスクレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	310、311、312

PSXの対応コード

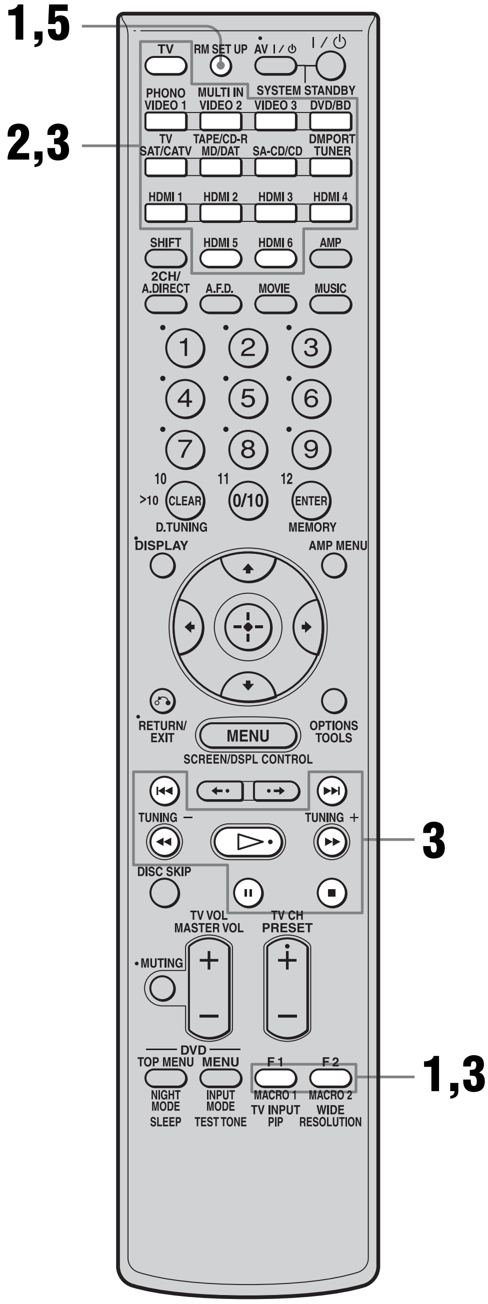
メーカー	コード
SONY	313、314、315

いくつかの操作を続けて実行させる

（マクロ操作）

マクロ機能を使って、いくつかのリモコンコードをまとめて連続送信できます。
マクロ操作は、2つ登録することができます（MACRO1、2）。1つのマクロ操作には、20個までリモコンコードを登録することができます。

操作の実行順を登録する



1 **RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。**

RM SET UPが点滅します。

2 **入力切り換え用のボタンを押して、操作を割り当てたい入力を選ぶ。**

選んだ入力のボタンが点灯します。

ご注意

マクロ操作を登録するときは、リモコンの電池は新しいものを使ってください。

ちょっと一言

- RM SET UP を押すときは、先の細いもので押してください。
- 手順 1 で RM SET UP が 5 回点滅して設定モードに入れない場合は、リモコンの電池を新しいものに交換してください。

3 **行いたい操作のボタンを押して、機能を学習させる。**

押すボタン	登録される操作
▷、■、II、▶▶、◀◀、▶▶I、I◀◀	ボタンの操作を行います。
入力切り換え用のボタンを1秒以上押す	入力を切り換えます。
MACRO 1または MACRO 2	1秒の待機時間を設定します。より長い待機時間を設定するには、MACRO 1またはMACRO 2をくり返し押します。

手順2で選んだ入力のボタンが2回点滅し、再び点灯します。

4 **手順2と3をくり返す。同じ機器に別のコマンドを割り当てたいときは、手順3をくり返す。**

5 **RM SET UP を押して、登録を終了する。**

マクロ操作の登録を途中でやめるには

手順の途中でRM SET UPを押します。
また、手順の途中で60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。

マクロ機能を使うには

1 AMP を押す。
AMP が点灯し、消灯します。

2 MACRO 1またはMACRO 2を押してマクロを実行する。
マクロ操作が開始され、登録した順にコマンドが実行されます。
コマンドが送信されている間は、RM SET UPが点滅し、AMPが点灯します。送信が終了すると、RM SET UPとAMPは消灯します。

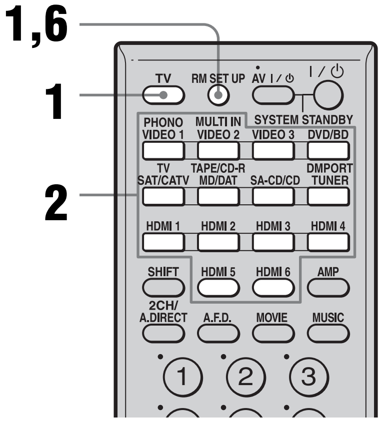
登録したマクロを消すには

1 RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。
RM SET UP がくり返し点滅します。

2 RM SET UPを押す。
マクロとして登録された設定が消去されます。

本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる

学習機能を使って、付属のリモコンにもともと入っていないリモコンコードを学習させることができます。



例 ：ボタン1をリモコンのVIDEO 1に割り当てる場合

1 **RM SET UP を押しながら、TV を押す。**

RM SET UPが点灯します。

2 **入力切り換え用のボタン（例では VIDEO 1）を押して、設定したい入力を選ぶ。**

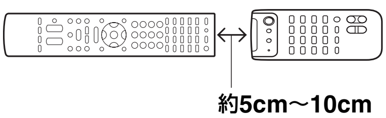
選んだ入力のボタンが点滅します。
（RM SET UPは点灯したままです。）

3 **VIDEO 1 として使いたいボタンを押す（例では 1 ボタン）。**

手順2で選んだ入力のボタンが点灯します。
（RM SET UPは点灯したままです。）

4 **本機のリモコンのリモコンコード受光部と、学習する機器のリモコンの受信／送信部とを向かい合わせる。**

学習する機器のリモコンがコードを受信すると、手順2で選んだ入力ボタンが消灯します。



5 **RM SET UP が 2 回点滅し、学習が完了する。**

学習に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

6 **RM SET UP を押して、学習機能を終了する。**

学習を途中でやめるには

手順の途中でRM SET UPを押します。
また、手順の途中で60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。

学習させたリモコンコードを使うには

学習させたボタンがある入力を選び、学習させたボタンを押します。

学習したリモコンコードを消すときは

1 RM SET UP を押しながら、TV を押す。

2 入力切り換え用のボタン（例ではVIDEO 1）を押して、設定を消去したい入力を選ぶ。
選んだ入力のボタンが点滅します。
（RM SET UPは点灯したままです。）

3 I/⏻を1秒以上押す。
選んだ入力のボタンが2回の点滅をくり返します。

4 学習させたボタンを押して、登録した設定を消去する。
RM SET UPが2回点滅して、消去が完了します。
消去に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

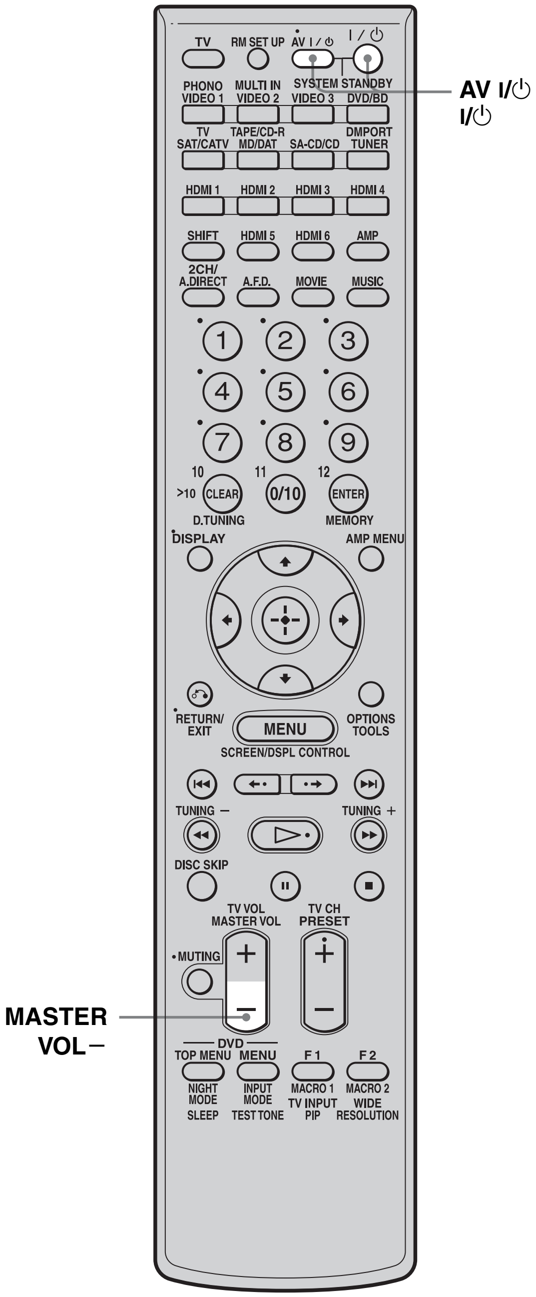
ご注意

学習機能を設定するときは、リモコンの電池は新しいものを使ってください。

ちょっと一言

- RM SET UP を押すときは、先の細いもので押してください。
- 容量が一杯になったときは、RM SET UP が 10 回点滅したあとに学習モードから抜けます。
- 手順 1 で RM SET UP が 5 回点滅して設定モードに入れない場合は、リモコンの電池を新しいものと交換してください。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻す



1 MASTER VOL –を押したまま、I/⏻、AV I/⏻ の順に押す。

RM SET UPが3回点滅します。

2 MASTER VOL –を離す。

リモコンのすべての設定（登録したデータなど）が消去されます。

用語集

■AAC（MPEG-2 AAC）

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。Advanced Audio Coding（アドバンスド・オーディオ・コーディング）の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現できます。

■Component（コンポーネント）映像

映像信号を輝度Yと色差 Pb、Pr の3系統に分けて伝送する映像端子です。DVDビデオやハイビジョン映像などの高画質をより忠実に伝送します。3つの端子はそれぞれ緑、青、赤で色分けされています。

■Composite（コンポジット）映像

映像信号を伝送する最も一般的な映像信号です。輝度Yと色Cを1つにまとめて伝送します。

■DeepColor

HDMI端子内を通る信号の色深度を高めたビデオ信号です。

従来のHDMI端子では、1ピクセル（画素）で表現可能な色数は24ビット（16,777,216色）でしたが、DeepColorに対応した場合、より高い36ビットなどに対応することが可能になります。

多ビット化により色の濃さの階調をより細かく表現できるため、連続した色の変化をなめらかに表すことができます。

■Digital Cinema Sound（DCS）

映画館での迫力あるサウンドをご家庭で楽しむために、ソニーがソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントとの協力により独自に開発した劇場音響再現技術です。DSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを結合して開発されたこの「デジタルシネマサウンド」で、ご家庭でも映画製作者が意図した理想的な音場を体感できます。

■デジタルコンサートホール

「デジタルコンサートホールモード」は、CDなどの2chステレオソースをより豊かな音で楽しめるモードです。5.1chまたは7.1chスピーカーとバーチャルスピーカー技術を利用した立体的な残響や反射音の再現により、音楽ソフトをより臨場感豊かな音で楽しめます。コンサートホールの音場の再現は、実測データを元に、ホールを幾何学的に解析し、反射音や残響音を精密にモデリング。音の強さや周波数特性といった音色的な要素も取り込み、DSP上での演算により残響を再現します。あたかも、コンサートホールの席で音楽を楽しんでいるような、自然で心地よい響きとともに音楽を楽しめます。

■Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声デジタル圧縮技術です。フロント（L/R）、センター、サラウンド（L/R）、サブウーファーの5.1chで構成され、DVDビデオの標準音声フォーマットにも採用されています。

■Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plusは従来のドルビーデジタルをさらに高音質・高機能に進化させた音声フォーマットで、HDクオリティの映像にリッチなサラウンドサウンドを提供する柔軟性と効率性を備えています。Dolby Digital Plusの優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大7.1chの高品質なサラウンド音声を実現することが可能になります。

■Dolby Digital Surround EX

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音響技術です。Dolby Digitalの5.1ch信号のサラウンド（L/R）に後方のサラウンドバック（SB）を合成し、再生時に6.1chで出力されます。特に動きのあるシーンを、よりダイナミックでリアルな音場で再現します。

■Dolby Pro Logic II

2chステレオで記録された音声を5.1chに変換して再生します。映画用のMOVIEモード、音楽用のMUSICモード、ゲーム用のGAMEモードの3種類があります。従来のステレオで録音された古い映画も、5.1chの迫力で再現します。

ゲームモードはゲームに適しています。

■Dolby Pro Logic IIx

7.1ch（または6.1ch）スピーカー環境のための再生システムです。ドルビーデジタルサラウンドEX作品に加え、通常の5.1chドルビーデジタル作品を7.1ch（または6.1ch）で再生できます。さらに通常のステレオ収録のコンテンツも7.1ch（または6.1ch）で再生できます。

これもDolby Pro Logic IIと同様に、MOVIE、MUSIC、GAMEの3種類のモードがあります。

■Dolby Surround（Dolby Pro Logic）

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声処理技術です。ステレオ2chの中にセンター、サラウンドの音が合成されています。再生時にデコーダーでフロント（L/R）とともに4chサラウンドで出力します。

■ Dolby TrueHD

Dolby TrueHDはドルビーラボラトリーズによって開発された次世代光ディスク向けのロスレス（可逆型）オーディオテクノロジーです。Dolby TrueHDはスタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現し、96 kHz/24ビットでは最大8ch、192 kHz/24ビットでは最大6chのサラウンド音声をサポートしています。HD映像との組み合わせにより、Dolby TrueHDはこれまで想像できなかったほどのハイクオリティなホームシアター体験を提供します。

■ DSD

スーパーオーディオCDに採用されているフォーマットです。
DSDは現行のCDの64倍の2.8224 MHzサンプリングの1ビットパルス信号を用います。これによりアナログローパスフィルタを通すだけのシンプルなシステムで再生できます。加工段階での情報欠落がなく、原音に近い高音質の録音・再生を実現します。

■ DTS 96/24

高音質再生フォーマットです。DVDビデオでは最高の、サンプリング周波数96 kHz／量子化ビット数24ビットで音を記録します。

■ DTS-ES

サラウンドバックを加えた6.1ch方式で再生します。全チャンネルを独立して記録する「ディスクリート6.1」と、ドルビーサラウンドEXと同様、サラウンドバック音声をリアチャンネルに重ねて記録する「マトリックス6.1」の2種類があります。映画のサウンドトラックを再生するのに適しています。

■ DTS-HD

従来のDTSデジタルサラウンドを拡張したオーディオフォーマットです。
コアとエクステンションで構成され、コア部はDTSデジタルサラウンドと互換性を持っています。
DTS-HDには、DTS-HD High Resolution AudioとDTS-HD Master Audioの2種類があります。
DTS-HD High Resolution Audioは、最大転送レートが6 Mbpsの非可逆圧縮（Lossy）で、最大96 kHzのサンプリング周波数と最大7.1chに対応します。
DTS-HD Master Audioは、最大転送レートが24.5 Mbpsの可逆圧縮（Lossless）で、48 kHzまたは96 kHzのサンプリング周波数で最大7.1ch、192 kHzのサンプリング周波数で最大5.1chに対応します。

■ DTS Neo:6

2chステレオで記録された音声を7chに変換して再生します。映画用のCINEMAモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードがあり、再生するソースや好みに応じて選べます。

■ DTSデジタルサラウンド

DTS社が開発した、映画館向けの音声デジタル圧縮技術です。約4分の1の比較的低い圧縮率で記録し、より高音質で再生します。

■ HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

テレビ接続機器のデジタル映像／音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応しています。

■ High Bitrate Audio

High Bitrateフォーマットで主にブルーレイディスクなどに録音される音声フォーマットの圧縮音声フォーマット（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHDなど）です。

■ L.F.E.（Low Frequency Effect）

ドルビーデジタルやDTSなどで、サブウーファーから出力される低域効果音のことです。帯域内が20 Hz～120 Hzの重低音を補助的に出力することで、音響に迫力が加わります。

■ PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式です。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

■ Sビデオ信号

映像信号を輝度Yと色Cの2系統で伝送する方式です。コンポジットと比べてより美しい映像で記録・再生します。

■ TSP（Time Stretched Pulse）信号

TSP信号は、短い時間の中に低域から広域までの広い帯域にわたって、高密度にエネルギーが詰められた測定信号です。
一般的な室内環境で測定精度を確保するためには、測定信号のエネルギー量が重要であり、TSPを使うことで、効果的に測定を行うことができます。

つづく

■x.v.Color

x.v.Colorとは、xvYCC規格の親しみやすい呼称としてソニーが提案している商標です。
xvYCC規格とは、動画色空間の国際規格のひとつです。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できます。

■インターレース

テレビやモニターの管面にある走査線のうち、まず奇数番目の走査線を1/60秒かけて描き、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線を描いて画面を映し、合わせて1枚の完全な画面を作っていく飛び越し走査のことです。

■クロスオーバー周波数

各スピーカーユニットがカバーする周波数帯域が交差するポイントの周波数です。

■シネマスタジオEX

「デジタルシネマサウンド」の集大成ともいえるサラウンドモードです。「バーチャル・マルチディメンション」、「スクリーン・デプス・マッチング」、そして「シネマスタジオ・リバーブレーション」の3つの技術でダビングシアターの音を再現します。
仮想スピーカー技術「バーチャル・マルチディメンション」が7.1chまでの実スピーカー環境でマルチサラウンド環境を実現し、最新設備の映画館の音をご家庭のサラウンド環境で再現します。
「スクリーン・デプス・マッチング」は、フロント、センターの前方チャンネルの音に、実際の映画館と同様にスクリーン越しに再生されることによる高域の減衰と音のふくらみ、距離による音の奥行き感を付加します。
「シネマスタジオ・リバーブレーション」は、ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントのダビングスタジオをはじめとする、最新のダビングシアターや録音スタジオの音響を再現します。スタジオの種類によりA/B/Cの3つのモードを選べます。

■プログレッシブ

インターレス（インターレスの項目を参照）方式ではなく、すべての走査線を順番通りに描いていく順次走査のことです。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。
- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）へお問い合わせください。

音声

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	→ スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。 → スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 → MASTER VOLUMEのレベルが–∞dBになっていないか確認する。目安として、–40dBくらいの音量に調節してみてください。 → 本機前面のSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）が「OFF」になっていないか確認する（37ページ）。 → リモコンのMUTINGを押して、消音機能を解除する。 → 入力切り換え用のボタンで正しい入力が選ばれているか確認する。 → ヘッドホンがつながれていないか確認する。 → 小音量でしか聞こえないときはNIGHT MODEが働いていないか確認する（61ページ）。 → 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。
選んだ機器から音が出ない	→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 → 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
片方のフロントスピーカーから音が出ない	→ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。 → モノラル機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。この場合は、モノラルーステレオ変換ケーブル（別売）を使ってL/R両方の端子に接続してください。ただし、サウンドフィールド（PRO LOGICなど）を選ぶとセンタースピーカーからは音が出ません。センタースピーカーをつないでいないときは、フロントスピーカー L/Rからのみ音が出ます。
アナログ2チャンネル入力の音が出ない	→ 選んだ入力に、外部入力メニューの「Input Assign」機能を使ってデジタル音声入力を割り当てていないか確認する（73ページ）。
デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）の音が出ない	→ INPUT MODE機能を使って「Analog」を選んでいないか確認する（72ページ）。 → アナログダイレクト機能を使っていないか確認する。 → 選んだ入力のデジタル音声入力を、外部入力メニューの「Input Assign」機能を使って他の入力に割り当てていないか確認する（73ページ）。
HDMIに入力しているソースの音が本機または本機に接続したテレビからでない	→ HDMI接続を確認してください。 → HDMI Licensing LLCで認証されたHDMIロゴ付きのケーブルでつないでいるか確認してください。 → 本機のメニューがテレビ画面に表示されているときは、音声は出力されません。AMP MENUを押してメニュー表示をオフにしてください。 → 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。 → 解像度が1125p（1080p）の映像やDeepColorの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（HDMI Version 1.3aカテゴリー 2ケーブル）でつないでいるか確認してください。 → 選んでいる入力が、「HDMI Video Assign」でHDMI入力を割り当てた入力の場合、テレビのスピーカーからは音は出ません。 →「HDMI Audio」の設定を確認してください（51ページ）。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → Auto Calibrationメニューにあるバランスパラメータを調節する。

つづく

症状	原因と対応のしかた
ハム音またはノイズがひどい	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。 ➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 ➔ ⏚ SIGNAL GNDが正しく接続されているか確認する（レコードプレーヤーを接続している場合のみ）。 ➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカーの音が出ない､ほとんど聞こえない	➔ シネマスタジオEXモードを選ぶ（56ページ）。 ➔ スピーカーの音量を調節する（62ページ）。 ➔ センタースピーカーが「SMALL」または「LARGE」に正しく設定されているか確認する（62ページ）。
サラウンドバックスピーカーの音が出ない	➔ パッケージにドルビーデジタルサラウンドEXのロゴが記載されていても、フラグが書かれていないディスクがあります。サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合は、サラウンドバックデコーディングモードを「ON」に設定してください（59ページ）。
サブウーファーの音が出ない	➔ サブウーファーが正しく接続されているか確認する。 ➔ スピーカーの電源が入っているか確認する。 ➔ すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているとき、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」が選ばれているとサブウーファーからは音が出ません。
サラウンド効果が得られない	➔ サウンドフィールドが働いているか確認する（MOVIEまたはMUSICを押す）。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	➔ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTS形式で録音されているか確認する。 ➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認する。
録音ができない	➔ 各機器が正しく接続されているか確認する（16ページ）。 ➔ 入力切り換え用のボタンで録音したい機器を選ぶ（44ページ）。
MULTI CHANNEL DECODINGランプが青色に点灯しない	➔ 再生機器をデジタル接続し、本機側でその入力を選んでいるか確認する。 ➔ 再生しているソフトなどの入力ソースがマルチチャンネルに対応しているか確認する。 ➔ 再生機器側の設定がマルチチャンネル音声に設定されているか確認する。 ➔ 選んだ入力のデジタル音声入力を、外部入力メニューの「Input Assign」機能を使って他の入力に割り当てていないか確認する（73ページ）。
デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器から音がでない	➔ 本機の音量を確認してください。 ➔ デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーが正しく接続されていません。本機の電源を切り、デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーをつなぎなおしてください。 ➔ 本機がデジタルメディアポートアダプターとプレーヤーのデバイスに対応しているか確認してください。

映像

症状	原因と対応のしかた
テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	➔ 適切な入力を選ぶ（44ページ）。 ➔ テレビの入力モードを確認する。 ➔ テレビをオーディオ機器から離す。 ➔ コンポーネント映像入力の割り当てを正しく設定する。 ➔ 入力信号を本機でアップコンバートしている場合、入力と同じ信号にする（27ページ）。
HDMIに入力しているソースの映像が本機に接続したテレビから出ない	➔ ケーブルの接続を確認してください。 ➔ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書もご覧ください。 ➔ DeepColor伝送時に映像／音声を視聴するには、DeepColor対応機器をHIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（HDMI Version 1.3aカテゴリー 2ケーブル）でつないでいるか確認してください。
録画ができない	➔ 各機器が正しく接続されているか確認する（21ページ）。 ➔ 入力切り換え用のボタンで録画したい機器を選ぶ（44ページ）。
GUIが表示されない	➔ SHIFTを押してから、MENUを押して、表示窓に「GUI MODE」を表示させる。 ➔ テレビと正しく接続されているか確認する。

リモコン

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 ➔ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 ➔ リモコンの乾電池を交換する。 ➔ 本体とリモコンのコマンドモードが一致しているか確認する（31ページ）。本体とリモコンのコマンドモードが違うと操作できません。 ➔ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 ➔ 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合があります。

エラーメッセージ

本機が正しく動作していないとき、表示窓にメッセージとチェックコードが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ	原因と対応のしかた
PROTECTOR	スピーカー出力に異常な電流が流れています。または天板の上がふさがれています。2、3秒後に本機の電源が自動的に切れます。スピーカーの接続を確認し、再度電源を入れてください。

その他のメッセージについては、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（42ページ）、「デジタルメディアポートメッセージ一覧」（70ページ）をご覧ください。

本機の設定をリセットするための参照ページ

リセットするもの	参照ページ
すべての設定	30ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TA-DA5300ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：
(8 Ω、JEITA)
150 W ＋ 150 W
(4 Ω、JEITA)
150 W ＋ 150 W
サラウンドモード：
(8 Ω、JEITA)
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W
(4 Ω、JEITA)
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック部：
4 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率

0.09 %以下
20 Hz～20 kHz
(8 Ω負荷)
120 W＋120 W

周波数特性

10 Hz～100 kHz ±3 dB（8 Ω時）

入力（アナログ）

MULTI CHANNEL INPUT、SA-CD/CD、MD/DAT、DVD/BD、TV、SAT/CATV、TAPE/CD-R、VIDEO 1、2、3、TUNER：
入力感度：150 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：96 dB
(Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク)
PHONO：
入力感度：2.5 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：86 dB
(Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク)

入力（デジタル）

DVD/BD、VIDEO 2、
SA-CD/CD（Coaxial）：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）
VIDEO 1、TV、SAT/CATV、TAPE/CDR、
MD/DAT（OPTICAL）：
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

出力 MD/DAT（REC OUT）、
VIDEO 1（AUDIO OUT）：
出力電圧：150 mV
出力インピーダンス：1 kΩ
FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、
SURROUND BACK L/R、SUB WOOFER：
出力電圧：2 V
出力インピーダンス：1 kΩ

ビデオ部

入力／出力

VIDEO：1 Vp-p 75Ω
S VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度／出力電圧：1 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω
クロマ（C）
入力感度／出力電圧：0.286 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω
COMPONENT VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度／出力電圧：1 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω
P_B/C_B、P_R/C_R
入力感度／出力電圧：0.7 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω

HDMI部

入力／出力（HDMI Repeater block）

640×480p@60 Hz
720×480p@59.94/60 Hz
1440×480p@59.94/60 Hz (pixel sent 2times)
1280×720p@59.94/60 Hz
1920×1080i@59.94/60 Hz
1920×1080p@59.94/60 Hz
720×576p@50 Hz
1440×576p@50 Hz (pixel sent 2times)
1280×720p@50 Hz
1920×1080i@50 Hz
1920×1080p@50 Hz
1920×1080p@24 Hz

電源、その他

電源 AC100 V、50/60 Hz
消費電力 300 W
消費電力（スタンバイモード時）
0.7 W（「HDMI Control」を「OFF」に設定時）
最大外形寸法 430 × 175 × 430 mm
（幅／高さ／奥行き、最大突起部を含む）
質量 約 17.0 kg
付属品 キャリブレーションマイクロフォン：
ECM-AC1（1）
電源コード（1）
リモートコマンダー：RM-AAL010（1）
リモートコマンダー：RM-AAU016（1）
RM-AAU016用単3形マンガン乾電池（2）
RM-AAL010用単3形マンガン乾電池（2）
取扱説明書（本書）（1）
接続・設定ガイド（1）
HDMIコントロールガイド（1）
GUIメニューリスト（1）
ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内（1）
保証書（1）
安全のために（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機消費電力 0.7 W
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

索引